
平成 29 年度

～松本市が若者に選ばれ続けるまちになるために～

松本のイメージ・暮らしに関する調査

報告書

平成 30 年 3 月

松 本 市

目 次

第1章 調査概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の実施方法.....	1
3. 回答者の基本属性.....	3
第2章 調査結果の要約	6
1. 松本での暮らしのなかでの満足度や生きがい等.....	6
2. 松本の強み・魅力.....	7
3. 松本の課題.....	8
4. 出生率の増加に向けて.....	9
5. 移住・定住の促進に向けて.....	12
6. 若者にとって魅力的なまちにするために.....	15
7. 若者に伝える手段.....	16
第3章 調査分析結果	17
第1節 若者が考える松本で暮らす魅力・課題・満足度	17
1. 松本の魅力・課題.....	17
(1) 同世代に誇れる松本市の魅力.....	17
(2) 松本市での生活の中で感じる魅力・良さと改善が必要なところ.....	19
2. 松本市での暮らしの総合評価.....	22
(1) 暮らしのなかでの生きがい.....	22
(2) 松本の地域の魅力度・暮らしの満足度・定住意向.....	23
(3) 松本での暮らしの満足度の詳細分析.....	27
第2節 松本での結婚・出産・子育ての現状と課題	31
1. 結婚.....	31
(1) 結婚の状況と意向.....	31
2. 出産・子育て.....	33
(1) 子育ての状況.....	33
(2) 子育ての理想と現実のギャップの状況.....	35
(3) 松本市の子育てに関する各種取組の評価.....	42
第3節 松本への移住の決め手	53
1. 移住者の転入のきっかけ・想い.....	53
(1) 転入のきっかけ.....	53
(2) 転入時の想いと松本に感じた魅力.....	54
第4節 若者の仕事の状況～松本で暮らしながら働く環境	55
1. 松本で暮らしながら働く環境.....	55
(1) 現在の就労状況.....	55
(2) 就労している人の状況.....	56
(3) 就労していない人の状況.....	57
(4) 在宅ワークや仕事に活かせる知識・技術・資格の講座等への参加意向.....	58

第5節 若者と地域コミュニティ、人とのつながりの状況・意向	60
1. 若者の町会など地区活動やご近所との付き合いの状況・意向.....	60
(1) 町会への加入状況・活動の認知状況・活動状況.....	60
(2) ご近所付き合いの状況・意向.....	64
(3) 地域での活動状況・今後の意向.....	67
2. 若者の人とのつながり.....	71
(1) 頼れる人の有無や人とのつながりの意向.....	71
第6節 若者の各種取組状況と松本市の体制・環境の評価	73
1. 若者の健康づくりの取組状況.....	73
(1) 健康づくりに関する取組や状況.....	73
(2) 健康づくりに関する松本市の評価.....	77
(3) 健康づくりに関する市民の取組と松本市の評価.....	77
2. 若者の環境に関する取組状況.....	78
(1) 環境に関する若者の取組状況.....	78
(2) 松本市の環境保全に対する評価.....	80
(3) 環境に関する市民の取組と松本市の評価.....	80
3. 若者のスポーツ・文化活動に関するイメージ・取組状況.....	81
(1) 松本の音楽活動や文化芸術のイメージ.....	81
(2) 若者のスポーツ・文化芸術活動の取組状況.....	82
(3) 市内文化施設へ来訪状況.....	84
(4) 松本市の文化芸術に関する環境の評価.....	85
(5) 文化芸術・スポーツに関する市民の取組と松本市の評価.....	85
第7節 若者から見た市政と必要な取組・利用メディア	86
1. 若者の市政への関心や必要とする取組.....	86
(1) 市政への関心や反映されやすさ.....	86
(2) 魅力的なまちにするために、重要なこと.....	87
2. 若者が利用しているメディア.....	88
(1) 利用しているSNS・メディア、市政や地域の情報収集方法.....	88

第1章 調査概要

1. 調査の目的

松本市では、松本市総合計画（基本構想 2020、第 10 次基本計画）、総合戦略の施策に基づき、若年層の移住・定住に向けて、子育て・教育環境の充実、働きやすい環境づくり等の取組を行ってきた。

本調査は、松本市をより一層、若年層に選ばれ、住み続けたい地域とするため、若年層が感じている松本の魅力や課題、各種活動への取組意向などを明らかにすることを目的に実施する。

2. 調査の実施方法

- 調査対象者：松本市在住の 18～39 歳の男女
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査方法：返信用封筒を同封した、質問票送付によるアンケート調査形式
- 配布数：2,400 名（実配布数 2,370 名、未達 30 名）
- 回収数：932 名（回収率 39.3%）
- 実施期間：平成 30 年 1 月 10 日（水）～ 2 月 5 日（月）
- 主な調査項目：
 - ① 回答者属性
 - ② 松本の魅力や課題、暮らしの満足度
 - ③ 移住者から見た松本の魅力・課題
 - ④ 結婚・出産・子育ての現状・課題
 - ⑤ 松本市の子育て環境の評価、取組の認知度
 - ⑥ 松本で暮らしながら働く環境
 - ⑦ 若者の健康づくりの取組状況
 - ⑧ 若者の環境に関する取組状況
 - ⑨ 若者のスポーツ・文化活動に関するイメージ・取組状況
 - ⑩ 若者の町会など地区活動やご近所との付き合い状況
 - ⑪ 若者が必要とする取組
 - ⑫ 若者が利用しているメディアと市政への関心

■本書の注意点

- 図表中の割合は、小数点第 2 位を四捨五入した数値であるため、合計値が 100%にならない場合がある。
- 無回答は集計から外しているため、回答数の合計は設問ごとに異なる。
- クロス集計で該当する設問に無回答者がいる場合、単純集計の「合計」とクロス集計の「合計」は一致しない。
- 平均点は、「そう思う」～「そう思わない」にそれぞれ 4 点～1 点の点数を与え、その点数の総和を回答数で除すことによって算出した。その際、判断の保留を意味する「わからない」や「無回答」が評価に影響を与えないように、集計からは除外した。

そう思う	→4 点
ややそう思う	→3 点
あまりそう思わない	→2 点
そう思わない	→1 点

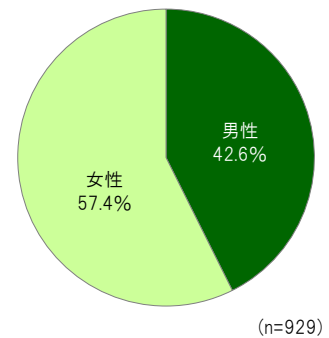
得点化により中央値は 2.5 となる。平均点の高低を判断する際の基準値とする。平均点が中央値より高い場合は肯定的な評価者が多く、中央値以下の場合是否定的な評価者が多いとみることができる。

- 平成 24 年から実施している市民満足度調査は 20 歳以上を対象としている。今年度の調査は 18～39 歳を対象としており、経年比較分析の際は 18、19 歳の回答を除いて集計をしている。

3. 回答者の基本属性

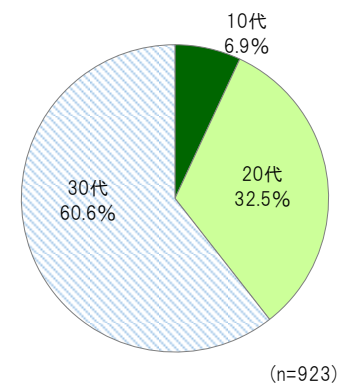
図表 1 性別

	度数 (人)	割合 (%)
男性	396	42.6
女性	533	57.4
合計	929	100.0

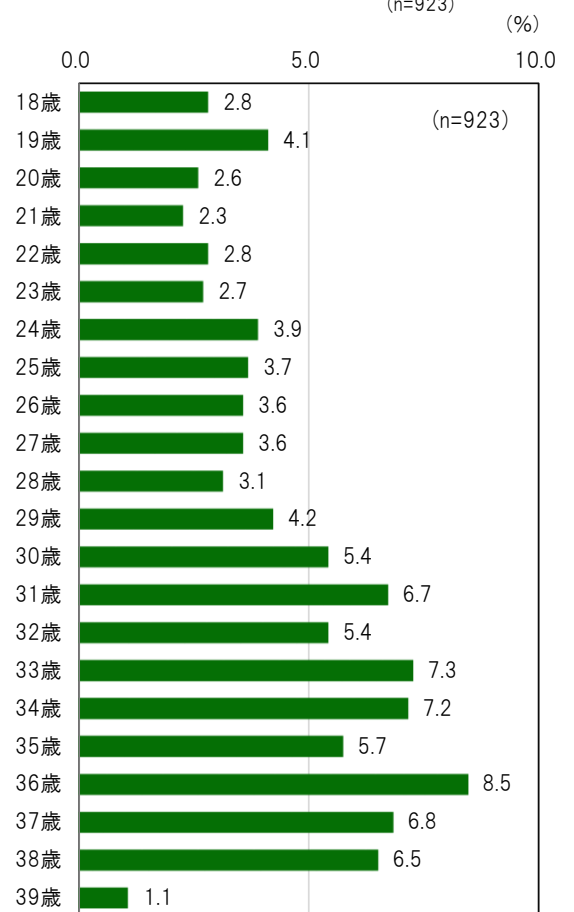


図表 2 年代

	度数 (人)	割合 (%)
10代	64	6.9
20代	300	32.5
30代	559	60.6
合計	923	100.0

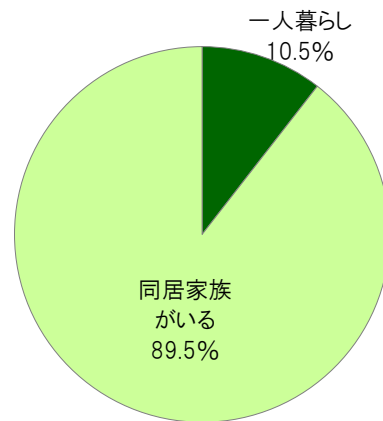


	度数 (人)	割合 (%)
18歳	26	2.8
19歳	38	4.1
20歳	24	2.6
21歳	21	2.3
22歳	26	2.8
23歳	25	2.7
24歳	36	3.9
25歳	34	3.7
26歳	33	3.6
27歳	33	3.6
28歳	29	3.1
29歳	39	4.2
30歳	50	5.4
31歳	62	6.7
32歳	50	5.4
33歳	67	7.3
34歳	66	7.2
35歳	53	5.7
36歳	78	8.5
37歳	63	6.8
38歳	60	6.5
39歳	10	1.1
合計	923	100.0



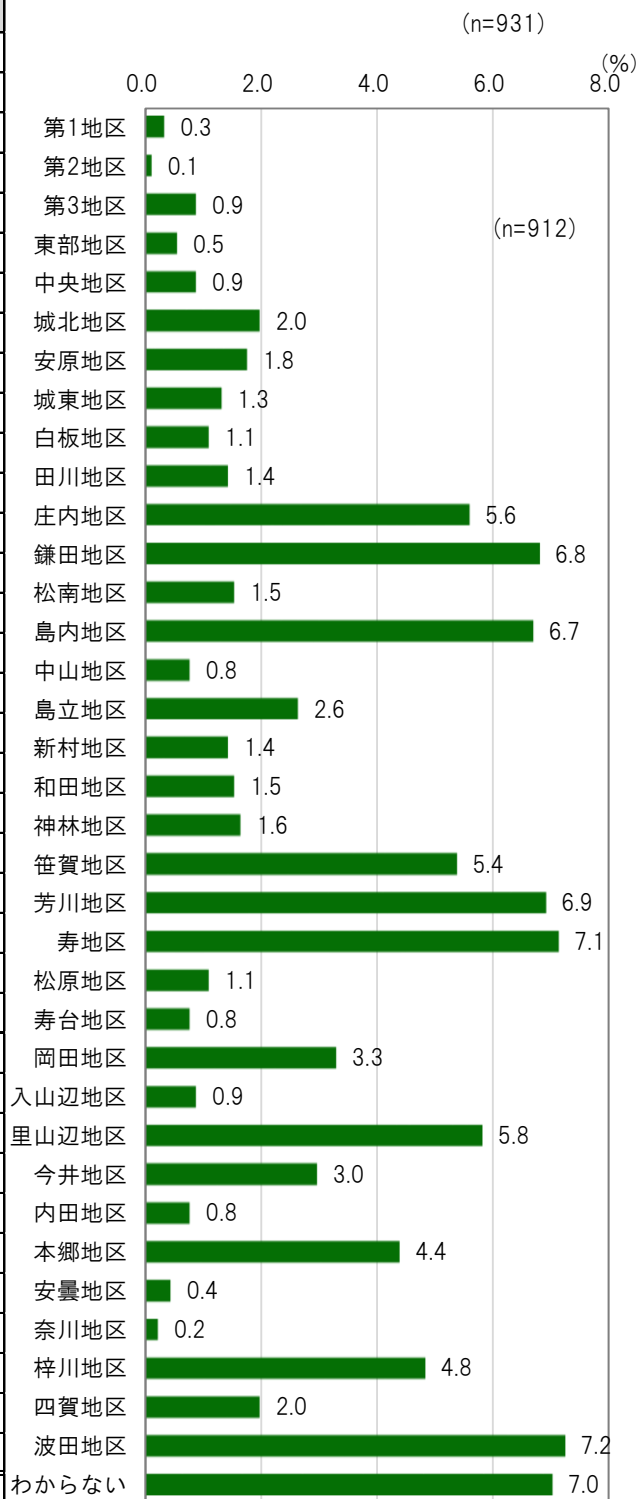
図表 3 家族構成

	度数 (人)	割合 (%)
一人暮らし	98	10.5
同居家族がいる	833	89.5
合計	931	100.0



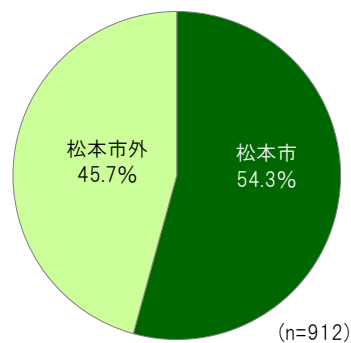
図表 4 居住地区

	度数 (人)	割合 (%)
第1地区	3	0.3
第2地区	1	0.1
第3地区	8	0.9
東部地区	5	0.5
中央地区	8	0.9
城北地区	18	2.0
安原地区	16	1.8
城東地区	12	1.3
白板地区	10	1.1
田川地区	13	1.4
庄内地区	51	5.6
鎌田地区	62	6.8
松南地区	14	1.5
島内地区	61	6.7
中山地区	7	0.8
島立地区	24	2.6
新村地区	13	1.4
和田地区	14	1.5
神林地区	15	1.6
笹賀地区	49	5.4
芳川地区	63	6.9
寿地区	65	7.1
松原地区	10	1.1
寿台地区	7	0.8
岡田地区	30	3.3
入山辺地区	8	0.9
里山辺地区	53	5.8
今井地区	27	3.0
内田地区	7	0.8
本郷地区	40	4.4
安曇地区	4	0.4
奈川地区	2	0.2
梓川地区	44	4.8
四賀地区	18	2.0
波田地区	66	7.2
わからない	64	7.0
合計	912	100.0



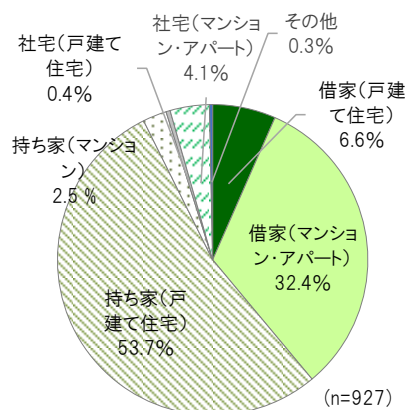
図表 5 出身地

	度数 (人)	割合 (%)
松本市	495	54.3
松本市外	417	45.7
合計	912	100.0



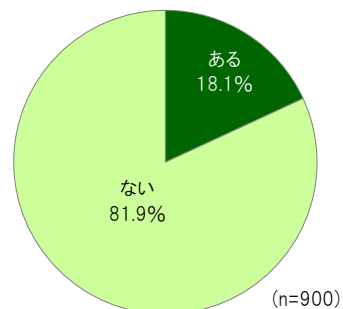
図表 6 住まいの状況

	度数 (人)	割合 (%)
借家 (戸建て住宅)	61	6.6
借家 (マンション・アパート)	300	32.4
持ち家 (戸建て住宅)	498	53.7
持ち家 (マンション)	23	2.5
社宅 (戸建て住宅)	4	0.4
社宅 (マンション・アパート)	38	4.1
その他	3	0.3
合計	927	100.0



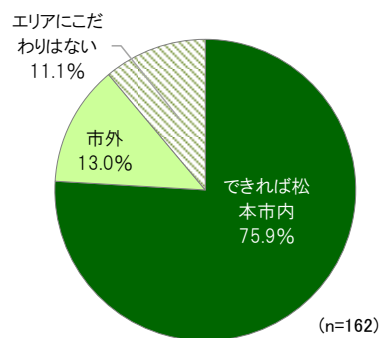
図表 7 住まいの購入予定

	度数 (人)	割合 (%)
ある	163	18.1
ない	737	81.9
合計	900	100.0



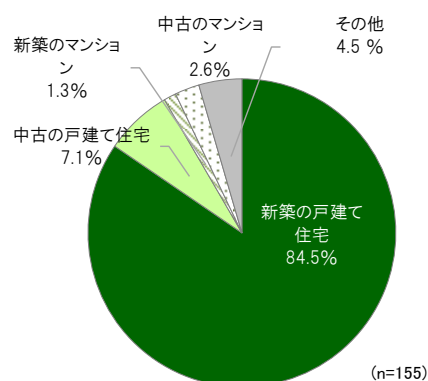
図表 8 【住まいの購入予定がある方】希望エリア

	度数 (人)	割合 (%)
できれば松本市内	123	75.9
市外	21	13.0
エリアにこだわりはない	18	11.1
合計	162	100.0



図表 9 【住まいの購入予定がある方】希望する住居形態

	度数 (人)	割合 (%)
新築の戸建て住宅	131	84.5
中古の戸建て住宅	11	7.1
新築のマンション	2	1.3
中古のマンション	4	2.6
その他	7	4.5
合計	155	100.0



第2章 調査結果の要約

1. 松本での暮らしのなかでの満足度や生きがい等

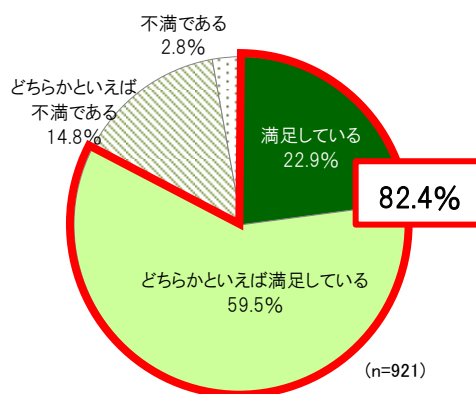
松本での暮らしに満足している人の割合は8割を超える。
 松本に住み続ける予定の人の割合は約6割。
 暮らしのなかで生きがいを感じている人の割合は8割近い。

若者の76.5%が暮らしのなかで生きがいを感じている（「感じている」「どちらかといえば感じている」の回答割合）と回答しており、若者の83.5%が松本は魅力的な地域である（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答している。8割前後の若者が肯定的評価をしている状況である。

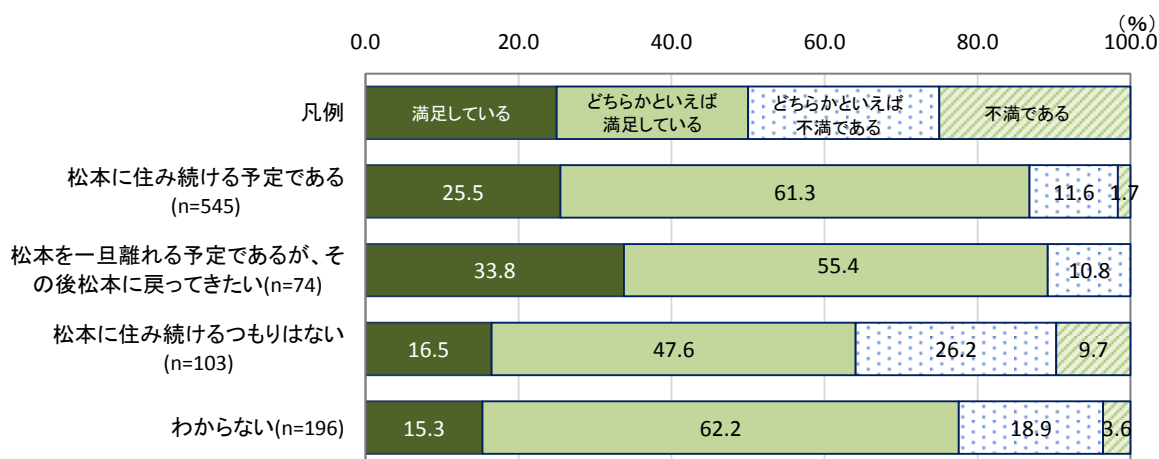
また、松本での暮らしに満足している人の割合（「満足している」「どちらかといえば満足している」の回答割合）は82.4%であった。経年で比較すると微減傾向にあるが、依然として8割を越えており、高い水準である。

住み続ける予定の人は59.5%であり、暮らしの満足度と定住意向には関連がみられ、暮らしの満足度の低下は定住意向の低下につながる可能性がある。若者のニーズ・課題・不満を把握し、解決策を立案しながら、暮らしの満足度が高い水準で維持することを目指していくことが求められる。

図表 10 松本での暮らしの満足度



図表 11 定住意向別 松本での暮らしの満足度



2. 松本の強み・魅力

若者は、自然環境・景観など、松本の都市空間・雰囲気を感じている。

市外の同世代に誇れる松本市の魅力は「清らかな水や空気、豊かな自然」が最も高い。次いで「市街地から眺める雄大なアルプス」「都市と自然とのちょうどよいバランス」「松本城の佇まい」と続き、自然環境、都市空間に関する項目が上位にきている。

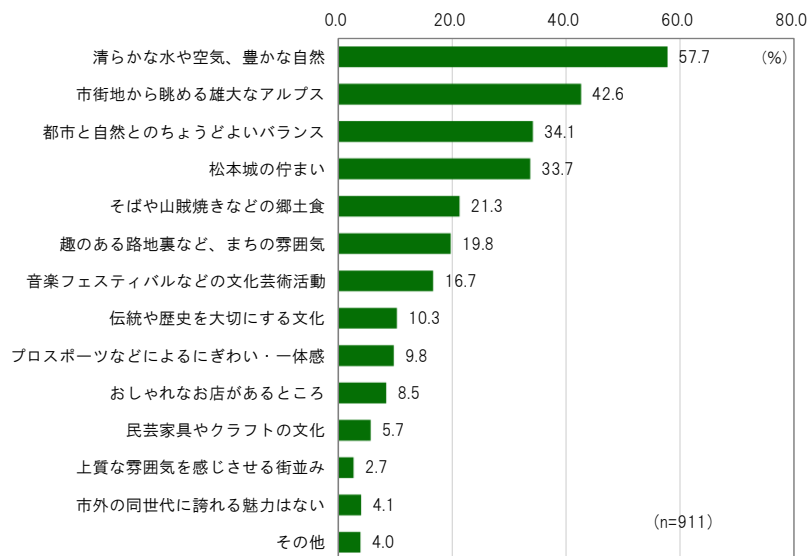
平成 27 年度に実施した若年層（20～39 歳）を対象とした調査でも、市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力として「清らかな水や空気、豊かな自然」の回答割合が高かった。

生活の中で感じる魅力・良さとしても「自然環境」が最も高く、「まちのイメージ」も上位にきている。

脈々と受け継がれてきた自然環境・風土、イメージなど都市空間・雰囲気を松本市の魅力として捉えている若者は多い。



図表 12 市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力（最大3つ選択）



松本は、世界水準の音楽や芸術にふれられるまちであり、魅力的な要素として「文化芸術活動・スポーツ活動」が上位に位置する。

生活の中で感じる魅力・良さとしては、前述した「自然環境」の他に、「文化芸術活動・スポーツ活動」とする回答も多かった。また、今回の調査で、松本の音楽活動として想起することを聞いたところ、93.9%の若者が「セイジ・オザワ・松本フェスティバル（旧サイトウ・キネン・フェスティバル）」をあげていた。1992 年から毎年行われてきたこのフェスティバルには、世界中から優れた音楽家が結集し、多彩な演目が披露されてきた。小中学生向けの鑑賞機会の設定やまちなかでのイベント、様々なメディアでの報道等も行われてきたことにより、若者にもかなり浸透していると考えられる。

また、世界的な芸術家 草間彌生氏の常設展示があることなどもあり、「松本市では世界水準の音楽や芸術にふれられる機会が提供されている」という設問には、約 7 割の若者が肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）をしている。長年の文化政策により蓄積されてきた文化芸術活動が、松本の魅力として、若者にも評価されていることが示された。

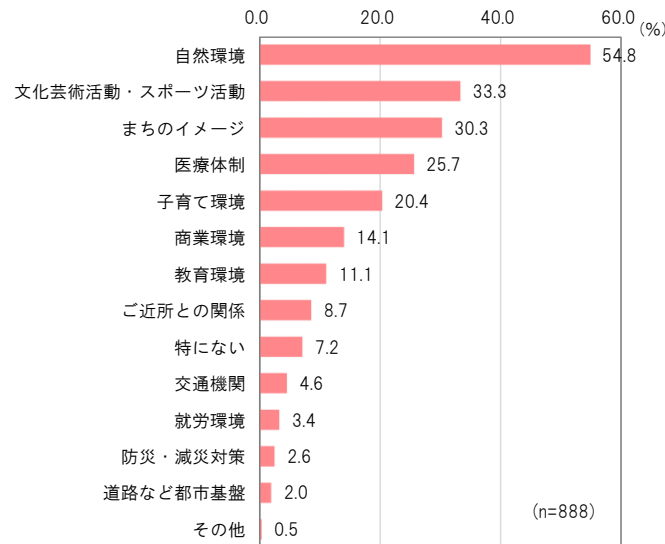
3. 松本の課題

若者が、改善が必要な分野としてあげているのは「交通機関」「道路など都市基盤」。「子育て環境」「医療体制」は一定の評価を得ているが改善の余地が残されている。

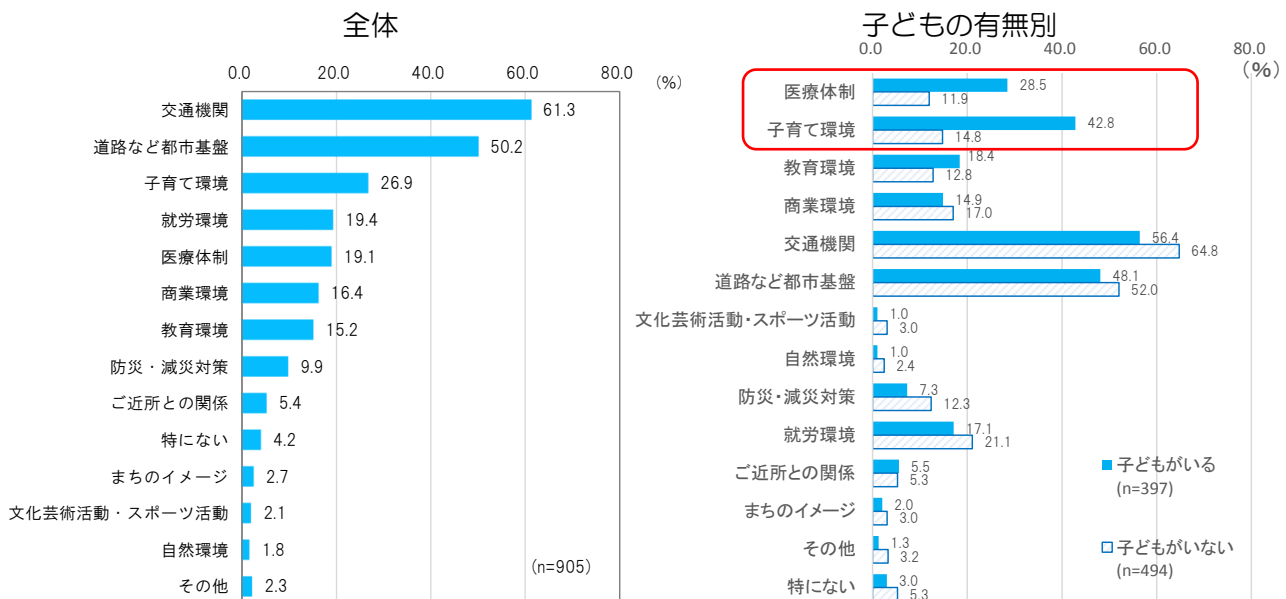
生活の中で感じる改善が必要な分野としては「交通機関」「道路など都市基盤」が多くあげられている。これらの課題は、特に男性が多くあげている。松本市の生活全般に関する自由意見をみると、交通に関しては、運転マナーが悪いこと、市内での公共交通（鉄道、バス）の利便性、駐車場の不足などの課題があがっている。また、道路に関しては、整備の不十分さ、道幅、歩道の狭さ、渋滞を指摘する意見が多い。交通インフラの課題はすぐに解決できることではないため、中長期的に改善をはかり、その進捗を周知していくことが求められる。

「子育て環境」「医療体制」については、松本の魅力・良いところとして一定の評価がある一方、子どものいる層では、改善を要するという回答の比率が高い。

図表 13 松本市で生活している中で感じる「魅力・良いところ」(最大3つ選択)



図表 14 松本市で生活している中で感じる「改善が必要なところ」(最大3つ選択)



4. 出生率の増加に向けて

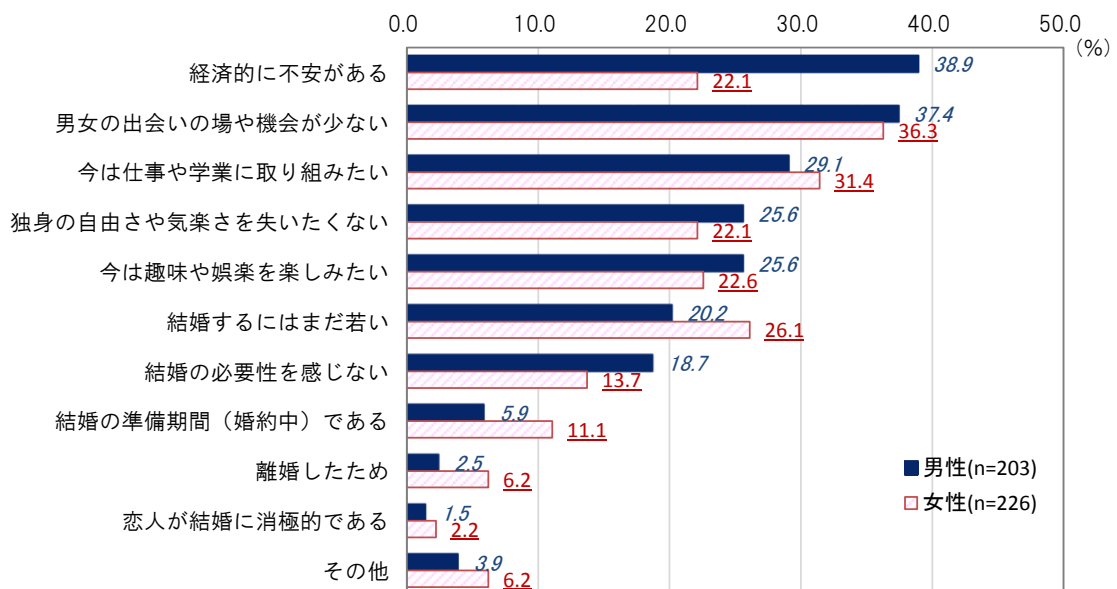
未婚者は出会いの場を求めている。未婚男性の経済的不安は大きい。

結婚していない人のうち、約6割は「将来的に結婚したい」という考えがある。結婚していない理由としては「男女の出会いの場や機会が少ない」という回答が最も多かった。次いで「経済的に不安がある」「今は仕事や学業に取り組みたい」という回答が続く。男女別にみると、男性では「経済的に不安がある」という回答割合が最も高くなっていた。

図表 15 【未婚者】結婚していない理由（複数回答）



図表 16 【未婚者】男女別 結婚していない理由（複数回答）

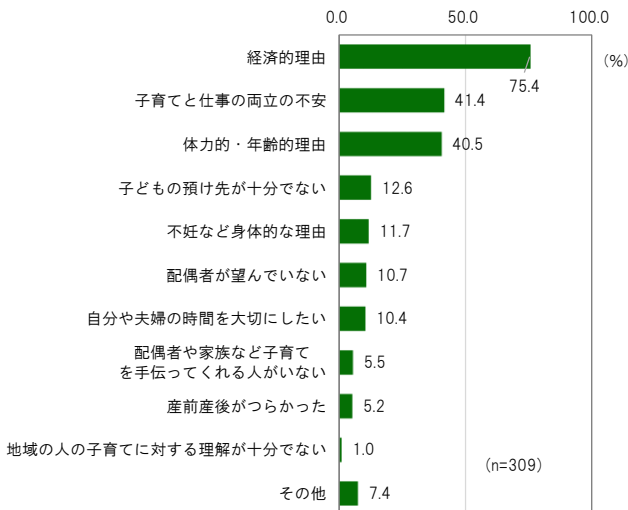


希望する人数の子どもを産み育てるために必要なことは「経済的課題の解消」が最多。
 男性は「労働環境の改善」、女性は「預け先」「職場・配偶者のサポート」を求めている。

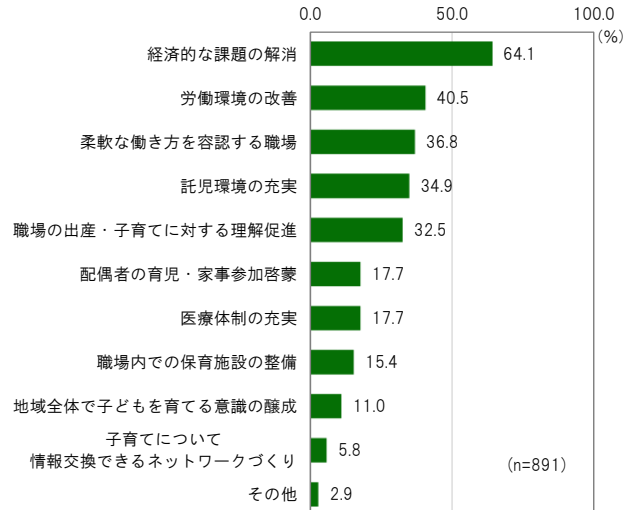
理想とする子どもの人数の平均は2.29人、最終的に持つ予定の子どもの人数の平均は1.86人と開きがあった。最終的に持つ予定の子どもの人数が理想より少ない理由としては、男女ともに「経済的理由」をあげる人が最も多かった。次いで「子育てと仕事の両立の不安」「体力的・年齢的理由」が続く。

また、希望する人数の子どもを産み育てるために必要なこととしては、平成27年度調査に続いて「経済的な課題の解消」という回答が最も多かった。次いで「労働環境の改善」「柔軟な働き方を容認する職場」が続く。男女別にみると、男性の方が「経済的な課題の解消」「労働環境の改善」を課題としてあげる人の割合が高い。一方、女性は「柔軟な働き方を容認する職場」「託児環境の充実」「職場の出産・子育てに対する理解促進」「配偶者の育児・家事参加啓蒙」をあげている。男性は経済的側面や労働環境を課題としてあげ、女性は経済的側面のほか、預け先、職場の理解や配偶者のサポートに課題を感じている。子どもの有無別にみると、子どもがいる人は「経済的な課題の解消」に次いで「託児環境の充実」を多くあげている。

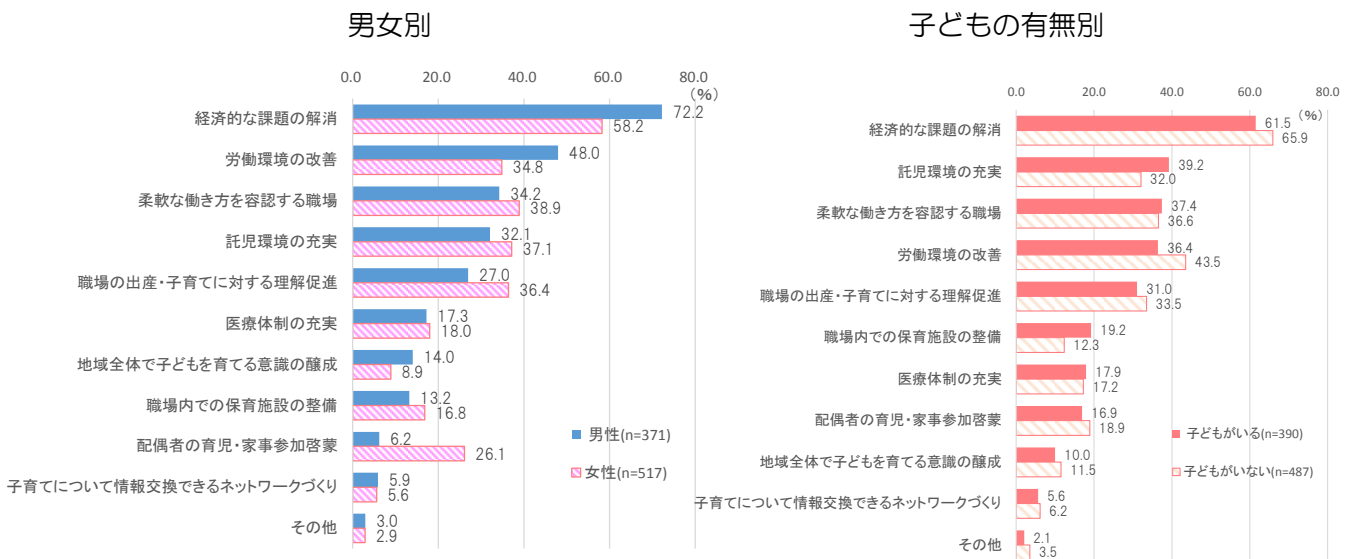
図表 17 【最終的に持つ予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない方】（最大3つ選択）



図表 18 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（最大3つ選択）



図表 19 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（最大3つ選択）



子どもがいる層の約7割が松本は子育てしやすいまちであると感じている。

一方、子どもがいない層の子育て施策の認知度が低い。

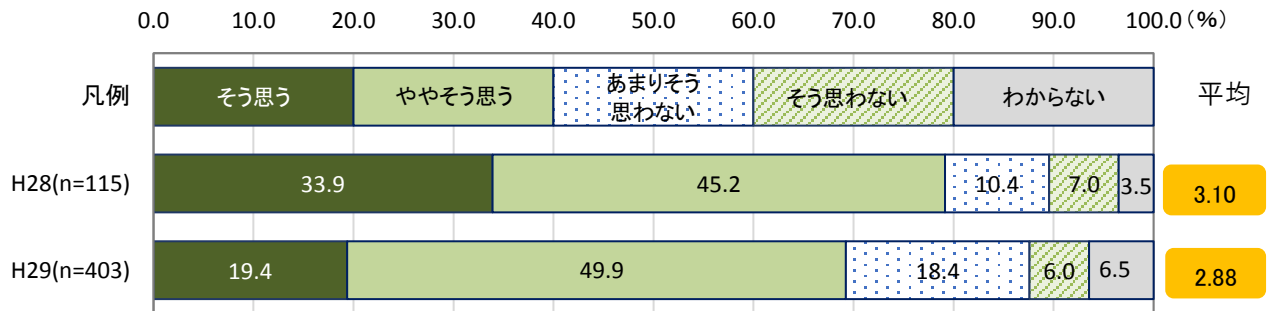
松本市では平成25年4月に「松本市子どもの権利に関する条例」を制定し、「すべての子どもにやさしいまち」を目指している。この条例の認知度は子どもがいる人で25.6%、子どもがいない人で23.8%である。

「子育てしやすいまちである」という設問に対して、子どもがいる人の肯定的評価（「そう思う」、「ややそう思う」の回答割合）の割合は69.4%、回答保留の割合が6.4%である。平成28年度調査と比較すると、「そう思う」という回答割合が下がっている。

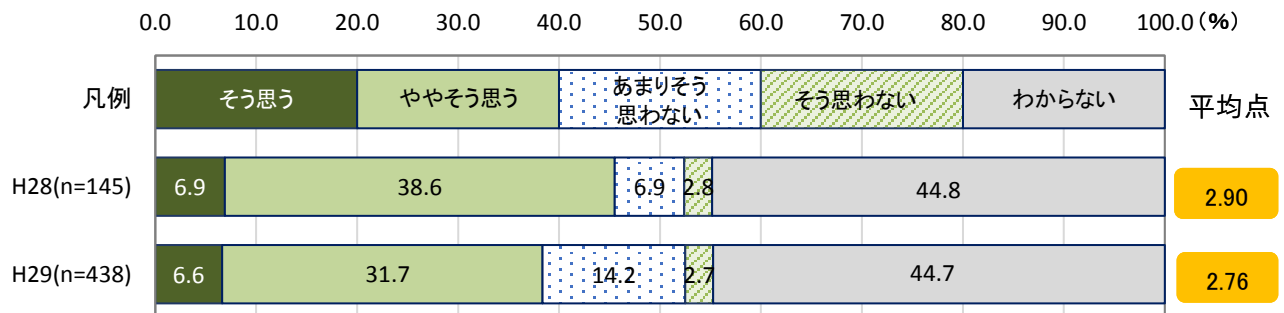
同じ設問における子どもがいない人の肯定的評価の割合は38.7%、回答保留の割合は44.4%であった。平成28年度調査をみても、回答保留の割合は同程度である。子どもがいない人の約4割は松本市の子育て環境がどのようになっているかわからず判断できない状況である。定住促進の側面から子どもがいない人への情報発信も重要といえる。なお、子育て施策の取組や環境については、子どもがいる人でも回答保留の割合が2割を越えている項目もあり、周知には課題が残る。

※平成28年の市民満足度調査は20歳以上を対象としている。経年比較分析をするため、平成29年度の結果は18、19歳の回答を除いており、全体の回答と一致しない。

図表 20 【20代30代・お子さんがいる方】「子育てしやすいまちである」の経年比較分析



図表 21 【20代30代・お子さんがいない方】「子育てしやすいまちである」の経年比較分析



5. 移住・定住の促進に向けて

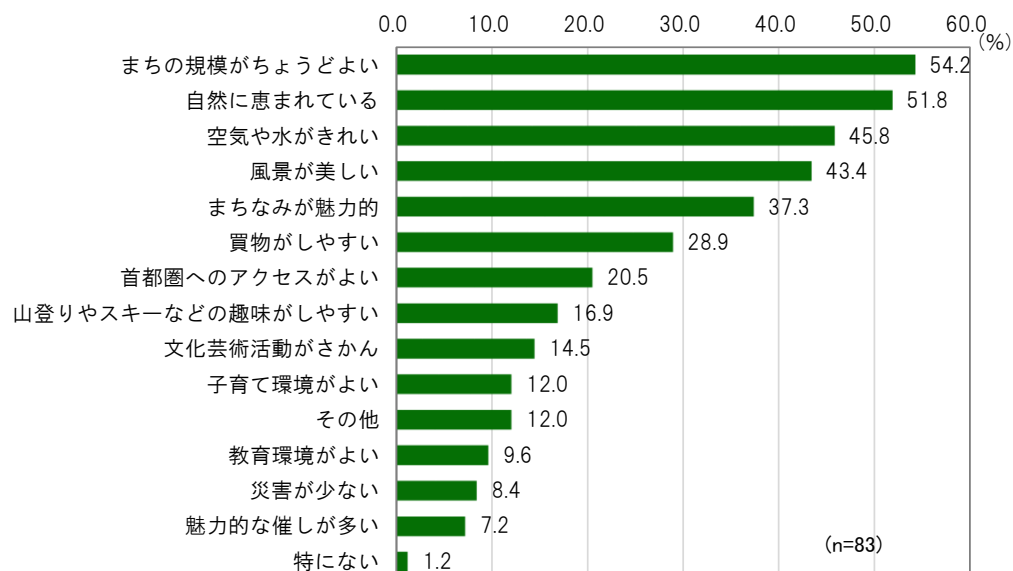
転入のきっかけは「仕事」が多い。松本市で暮らしたくて転入してきた層は「まちの規模」や「自然環境」を魅力に感じている。

回答者の約7割が松本に転入した経験を持っていた（市内出身者含む）。転入理由は「転勤」「就職」「転職」「就農」など仕事関係がきっかけとなっている人が53.7%を占めた。次いで「結婚」の比率が高く、17.5%である。

転入時の思いとしては、81.2%が「特に松本に住みたいという思いがあったわけではなく、転入してきた」と回答した。転入のきっかけは、地域自体の魅力よりも仕事、結婚などの影響が大きい。

なお、「松本市で暮らしてみたくて、転入してきた」と回答した人は14.0%で、この層があげた松本の魅力としては「まちの規模がちょうどよい」「自然に恵まれている」「空気や水がきれい」「風景が美しい」「まちなみが魅力的」など自然や都市空間に関する項目が多い。移住促進のためのPRとしては、自然や都市空間の魅力を発信していくことが有効と考えられる。

図表 22 【松本市で暮らしたくて転入してきた方】松本にどんなところを魅力に感じたか（複数回答）



未就労者のうち、今後、松本近郊の就労を希望する者でも企業情報を知らない人が多い。テレワークなど在宅での仕事に関心を示しているのは約3割。

就労していない人のうち、松本近郊で仕事に就く予定がある人は63.0%である。それら回答者のうち、松本近郊で能力を活かし、やりがいを持って働ける企業があるかを聞いたところ、「ある」と回答した人は28.1%である。近郊の企業情報について「調べたが、わからない」「調べていないので、わからない」など「わからない」とした回答者の割合はあわせて67.8%である。定住促進の観点から、市内在住者への近郊の企業情報の発信が求められる。

また、テレワークなど在宅での仕事を「始めてみたい」と回答した割合は29.7%である。「主婦・主夫」層で「始めてみたい」と回答した人が多い。

**町会の加入率は7割を超えるが、活動に参加しているのは半数。
ご近所付き合いは希薄化。**

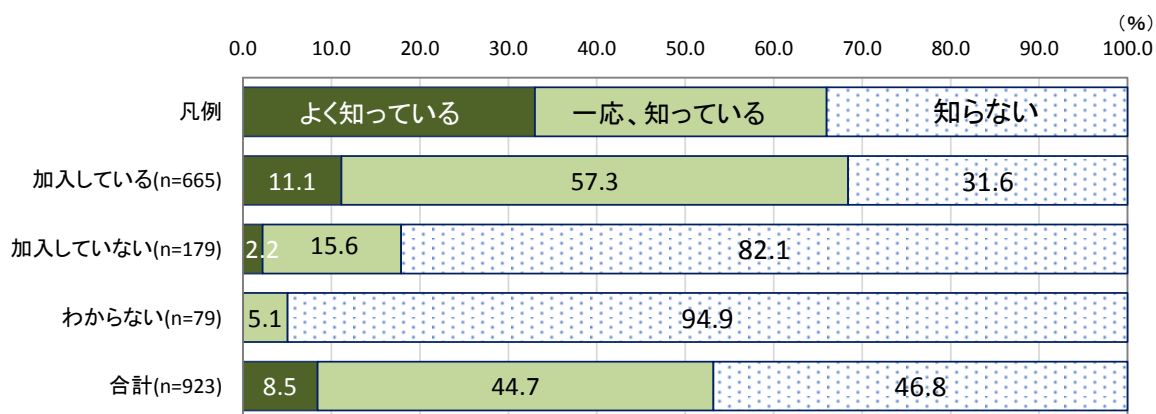
アンケートでの町会の加入率は72.0%であり、松本市全体の加入率である78.86%（平成29年4月時点）よりもやや低いが、多くの若者が町会に加入している状況である。しかし、加入していても、活動を知らない人の割合は31.6%、活動に参加している人の割合は50.8%である。町会のイメージに関しては、「面倒・大変・役員の負担が大きい」「高齢者が多い・古い・旧態依然」など、ネガティブな回答が多い。

ご近所と「親しく付き合っている」という割合は14.4%、「挨拶をする程度」の割合は68.9%である。戸建て住宅に住んでいる層の方が「親しく付き合っている」割合が高い。

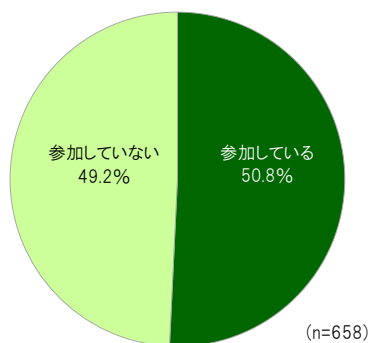
今後の近所付き合いの仕方としては、「日頃から親しい付き合いをしたい」という回答はわずかであり、「ある程度、親しい付き合いをしたい」「深入りせず浅く付き合いたい」と回答した人が多い。

地域コミュニティとは、一定程度、距離をおいて付き合いたいという希望があり、活動参加への積極性は低い傾向にある。また、今後についても交流を強く望んでいるわけではない。

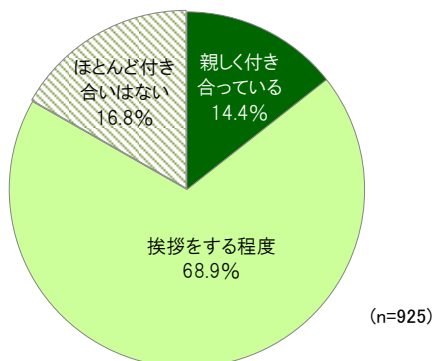
図表 23 町会加入状況別 町会活動の認知状況



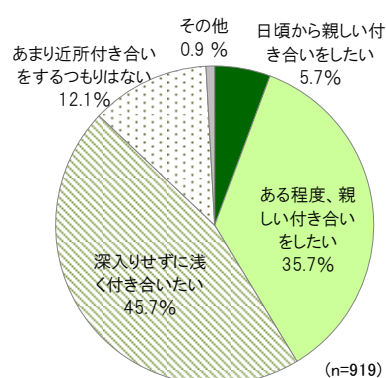
図表 24 【町会に加入している方】町会活動への参加状況



図表 25 ご近所付き合いの状況



図表 26 今後の近所付き合いの仕方



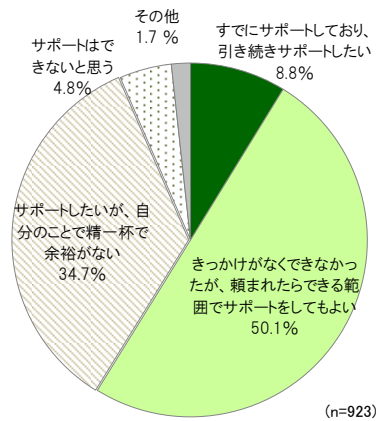
若者は地域とのかかわりを拒絶しているわけではなく、ちょっとした活動のきっかけを探している。また、人とのつながりを求めている。

地域において、雪かきなど何らかの手助けを必要としている人へのサポートや地域活動を頼まれたときの考え方として、最も多いのは「きっかけがなくできなかったが、頼まれたらできる範囲でサポートをしてもよい」という回答で50.1%を占める。何らかのサポートをしたいと考える若者は半数程度いると考えられる。

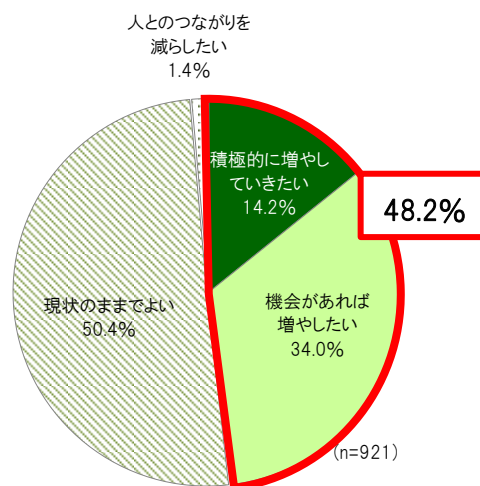
また、趣味や余暇等を楽しめる人とのつながりを「積極的に増やしていきたい」「機会があれば増やしたい」をあわせると約5割になる。

ご近所付き合いには消極的であるが、きっかけがあれば地域の活動に協力する意向があり、趣味や余暇に関しては人とのつながりを増やしたい層が一定数いる状況である。

図表 27 地域において、雪かきなど何らかの手助けを必要としている人へのサポートや地域活動を頼まれたときの考え方



図表 28 趣味や余暇等を楽しめる人とのつながりを増やしたいか



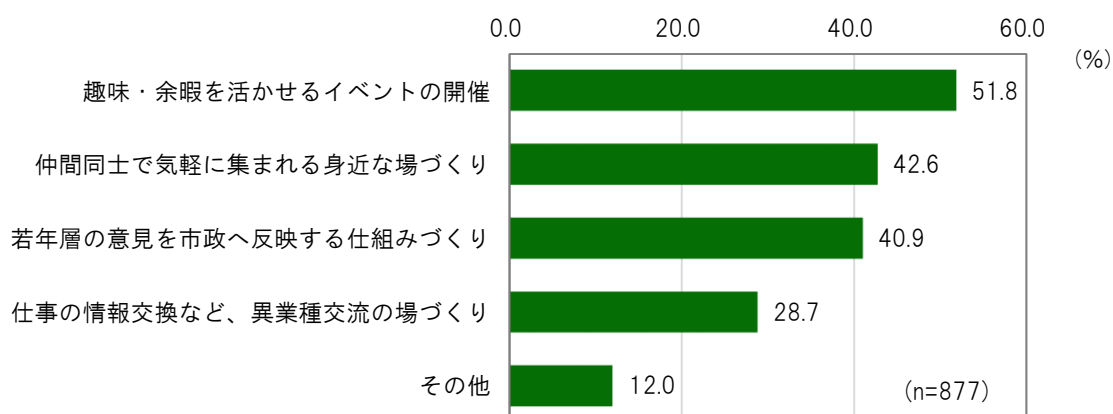
6. 若者にとって魅力的なまちにするために

若者同士の交流の場、若年層の意見を市政へ反映す仕組みづくりが求められる。

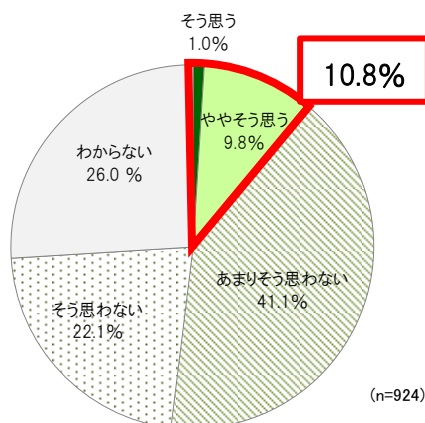
若者にとって松本を魅力的なまちにするために重要なこととして「趣味・余暇を活かせるイベントの開催」という回答が約5割、「仲間同士で気軽に集まれる身近な場づくり」「若年層の意見を市政へ反映する仕組みづくり」という回答が約4割である。若者同士の交流の場や、若年層の意見を市政に反映する仕組みづくりへの期待が高い。

なお、市民の意見や考えが市政に反映されやすいかという設問に対して、肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）の割合は10.8%に留まる。若者の多くが何らかの仕組みを求めている。

図表 29 同世代にとって松本を魅力的なまちにするために、重要なこと（複数回答）



図表 30 市民の意見や考えが市政に反映されやすいか



7. 若者に伝える手段

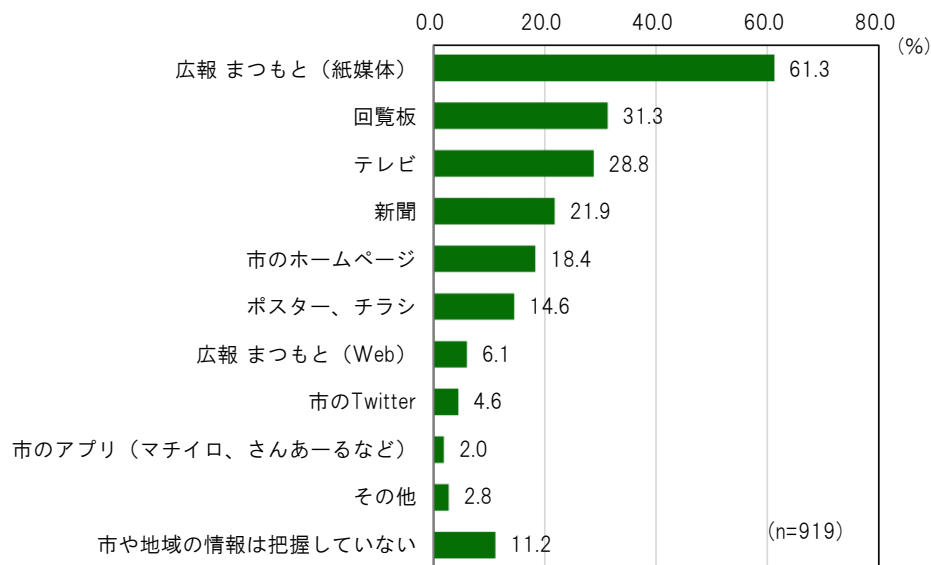
「広報まつもと（紙媒体）」が約6割、「回覧板」が約3割。
年代別には傾向に違いがある

市政や地域の情報を把握するメディアとしては、全体では「広報まつもと（紙媒体）」が61.3%と最も高い。次いで「回覧板」が31.3%となっている。その後「テレビ」「新聞」と続く。一方、「広報まつもと（Web）」「市のTwitter」「市のアプリ」は1割未満と低調である。

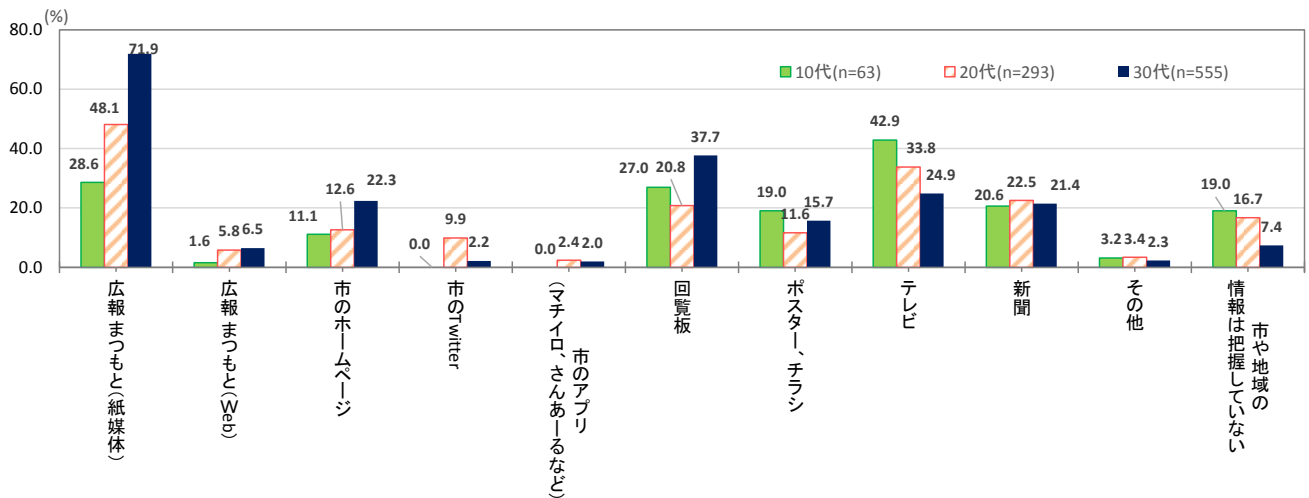
年代別にみると、10代は「テレビ」、20代は「広報まつもと（紙媒体）」「テレビ」の割合が高く、30代は「広報まつもと（紙媒体）」「回覧板」の利用割合が高い。「新聞」はどの年代も2割程度である。

若者が取り入れやすい情報ツール（インターネット、アプリ）の活用に課題がある。

図表 31 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）



図表 32 年代別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）



第3章 調査分析結果

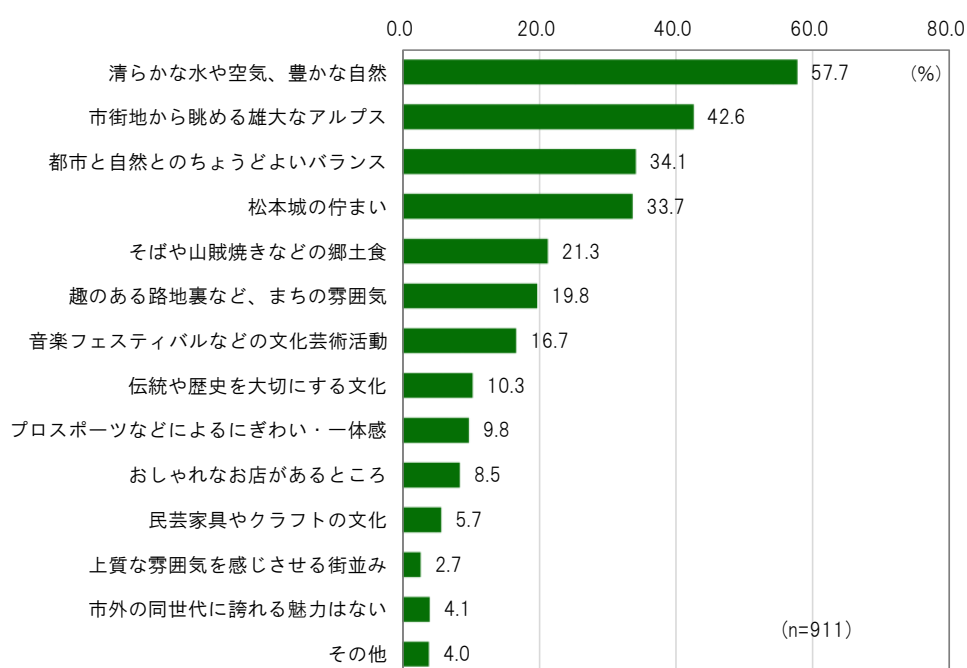
第1節 若者が考える松本で暮らす魅力・課題・満足度

1. 松本の魅力・課題

(1) 同世代に誇れる松本市の魅力

- 市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力としては「清らかな水や空気、豊かな自然」が最も高い。次いで、「市街地から眺める雄大なアルプス」「都市と自然とのちょうどよいバランス」「松本城の佇まい」など、立地や都市空間に関する項目が上位にきている。

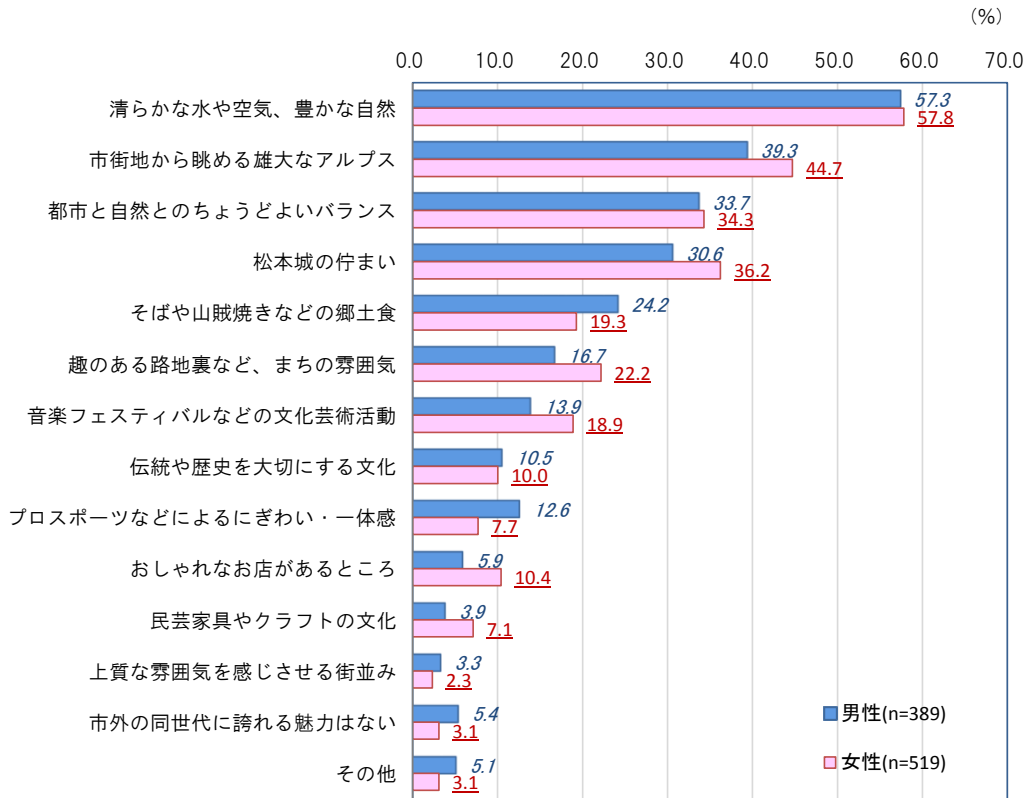
図表 33 市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力（最大3つ選択）



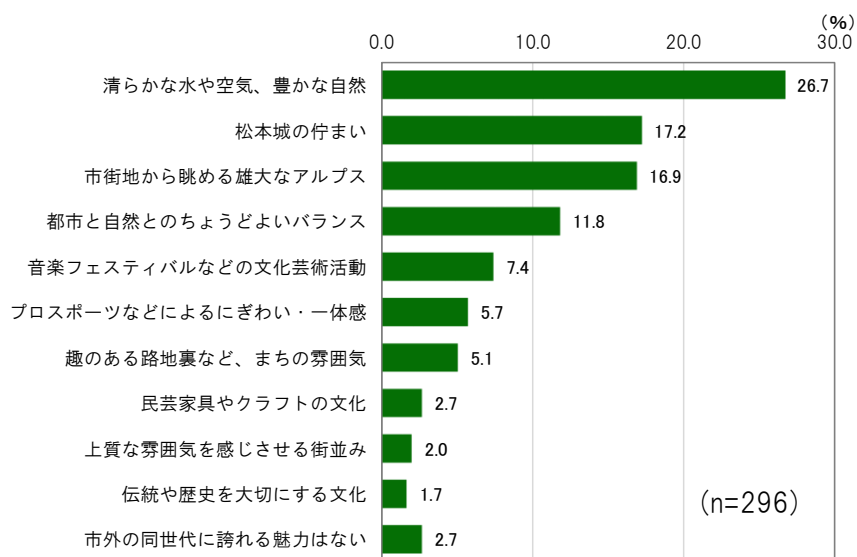
	度数 (人)	割合 (%)
清らかな水や空気、豊かな自然	526	57.7
市街地から眺める雄大なアルプス	388	42.6
都市と自然とのちょうどよいバランス	311	34.1
松本城の佇まい	307	33.7
そばや山賊焼きなどの郷土食	194	21.3
趣のある路地裏など、まちの雰囲気	180	19.8
音楽フェスティバルなどの文化芸術活動	152	16.7
伝統や歴史を大切にす文化	94	10.3
プロスポーツなどによるにぎわい・一体感	89	9.8
おしゃれなお店があるところ	77	8.5
民芸家具やクラフトの文化	52	5.7
上質な雰囲気を感じさせる街並み	25	2.7
市外の同世代に誇れる魅力はない	37	4.1
その他	36	4.0

- 男女別にみると「市街地から眺める雄大なアルプス」「松本城の佇まい」は女性の方が魅力的と評価している傾向にある。
- 平成 27 年度に実施した調査と比較しても、上位の項目の傾向はほぼ同じである。

図表 34 【男女別】市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力（最大3つ選択）



図表 35 <参考>平成 27 年度調査 市外の同世代の人に誇れる松本市の魅力

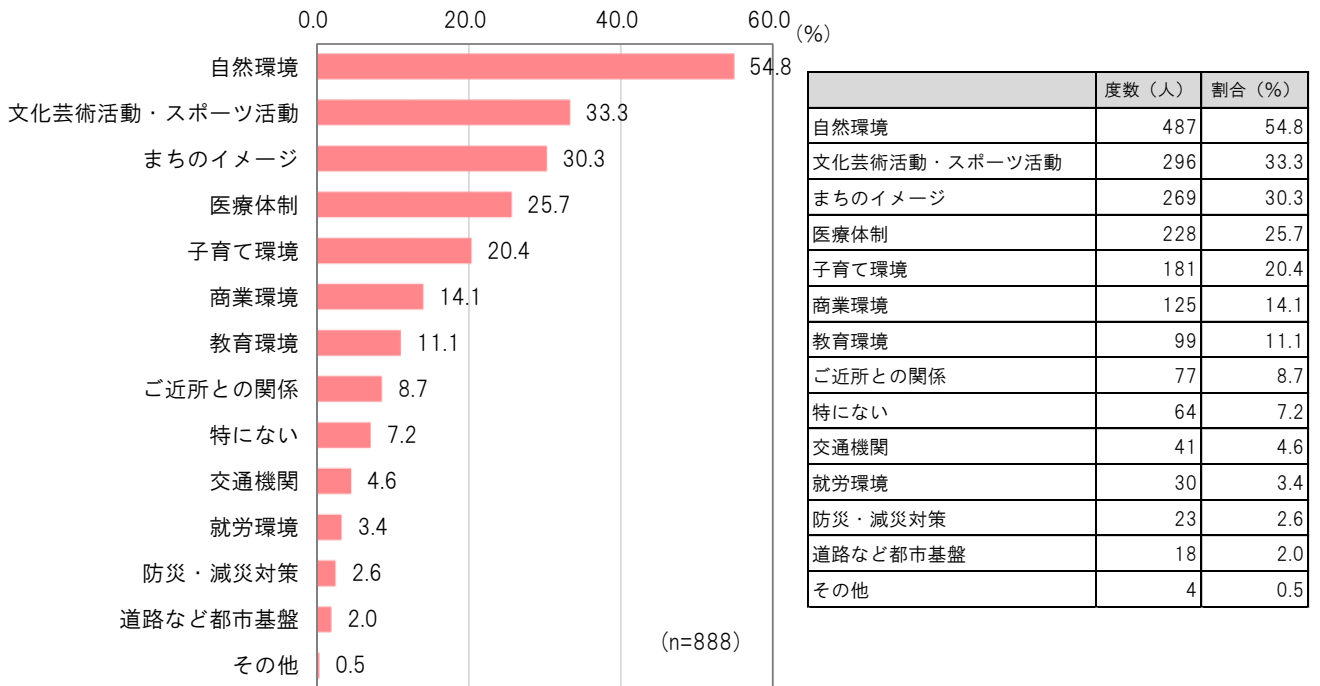


※平成 27 年度調査時は単一回答であったが、今回は最大 3 つまで選択可能であるため、単純比較はできない。

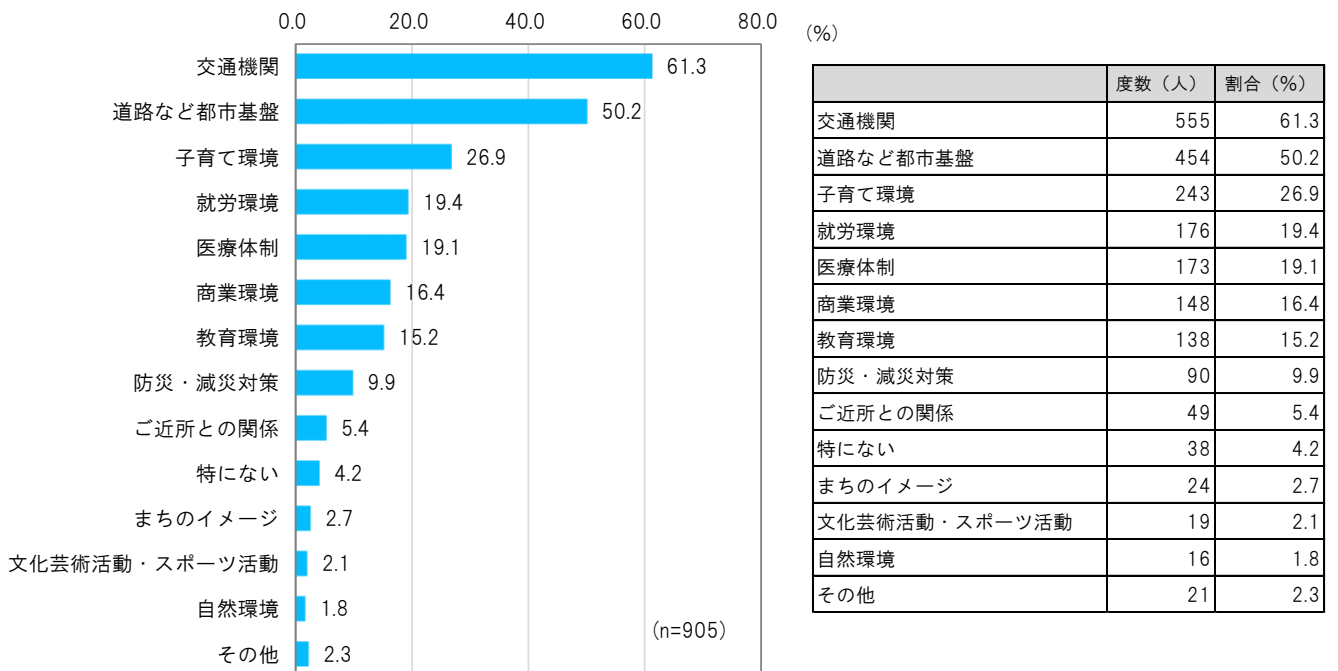
(2) 松本市での生活の中で感じる魅力・良さと改善が必要なところ

- 松本市で生活している中で感じる魅力・良いところとしては、「自然環境」と回答した人が最も多く、次いで「文化芸術活動・スポーツ活動」「まちのイメージ」「医療体制」となる。
- 改善が必要なところとしては、「交通機関」と回答した人が最も多く、次いで「道路など都市基盤」「子育て環境」「就労環境」「医療体制」となる。

図表 36 松本市で生活している中で感じる「魅力・良いところ」(最大3つ選択)

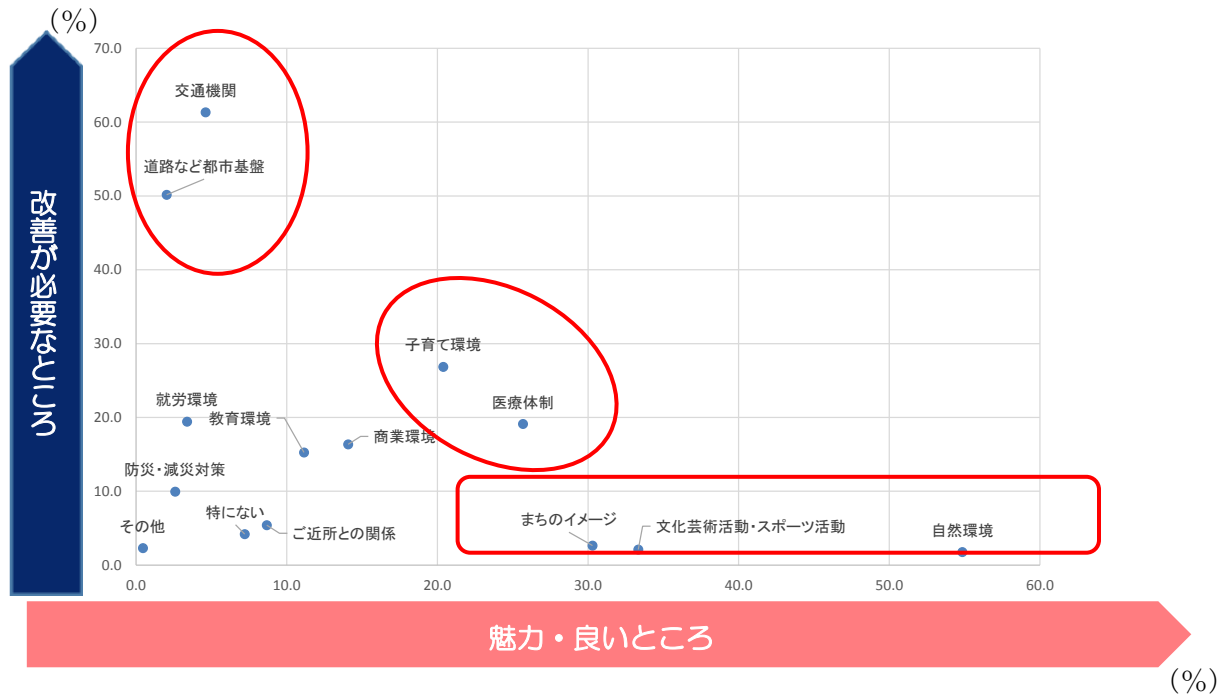


図表 37 松本市で生活している中で感じる「改善が必要なところ」(最大3つ選択)

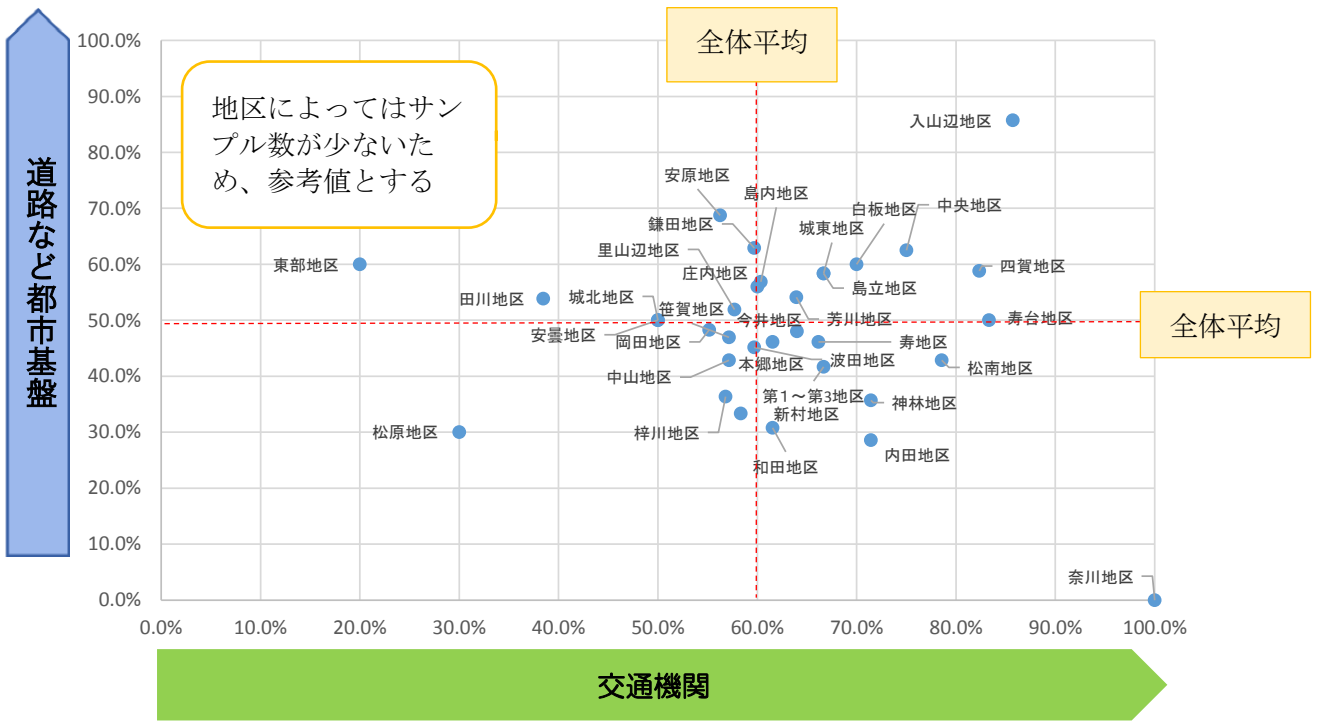


- 魅力・良さであり、改善点が少ないのは「自然環境」「文化芸術活動・スポーツ活動」「まちのイメージ」である。一方、改善点すべきという回答が多く、魅力・良さが低いのは「交通機関」「道路など都市基盤」である。「子育て環境」「医療体制」は魅力・良さでもあるが、改善が必要と感じている人がいる状況である。
- 図表 39 は「交通機関」「道路など都市基盤」の課題を地区ごとに分析したものである。

図表 38 松本市で生活している中で感じる「魅力・良いところ」「改善が必要なもの」の回答割合の関係（最大3つ選択）

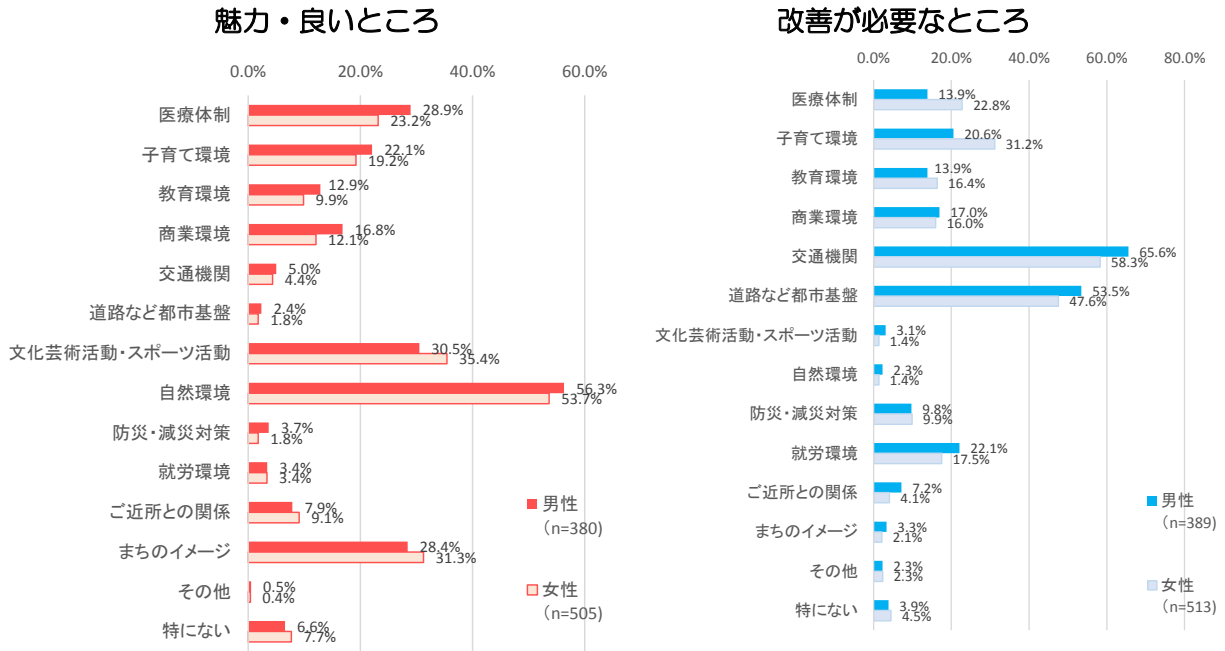


図表 39 <参考> 地区別 松本市で生活している中で感じる課題「交通機関」「道路など都市基盤」の分析

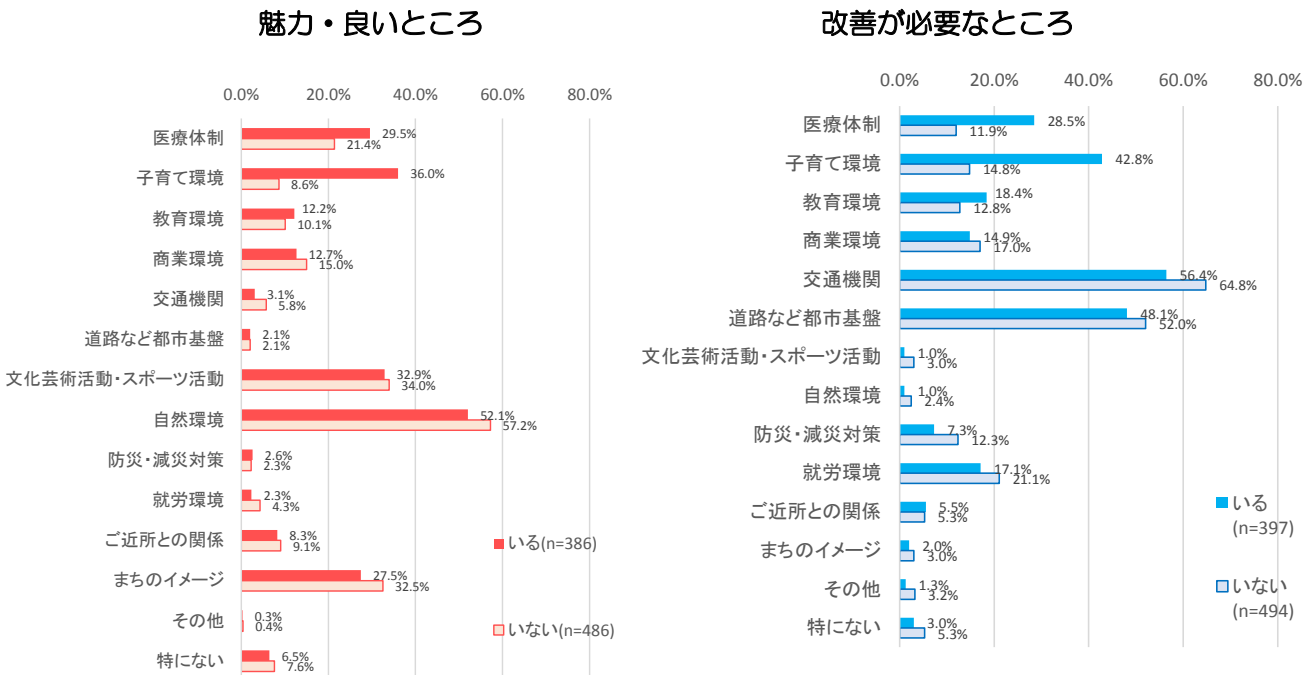


- 男女別にみると、改善が必要なところの結果をみると、「交通機関」「道路など都市基盤」「就労環境」は男性の方が、「子育て環境」「医療体制」は女性の方が課題としてあげている人の割合が高い。
- 子どもの有無別にみると、「子育て環境」「医療体制」に関しては子どもがいる人で、魅力・良いところと改善が必要なところの双方で高くなっている。

図表 40 男女別 松本市で生活している中で感じる「魅力・良いところ」「改善が必要なところ」(最大3つ選択)



図表 41 子どもの有無別 松本市で生活している中で感じる「魅力・良いところ」「改善が必要なところ」(最大3つ選択)



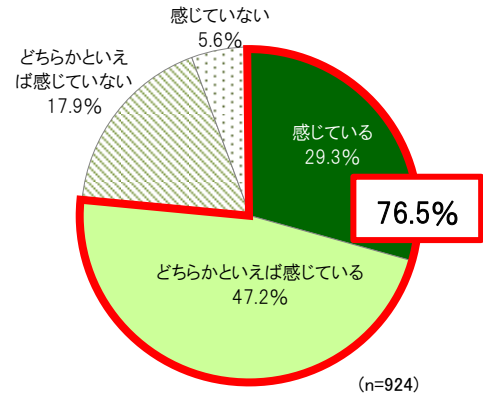
2. 松本市での暮らしの総合評価

(1) 暮らしのなかでの生きがい

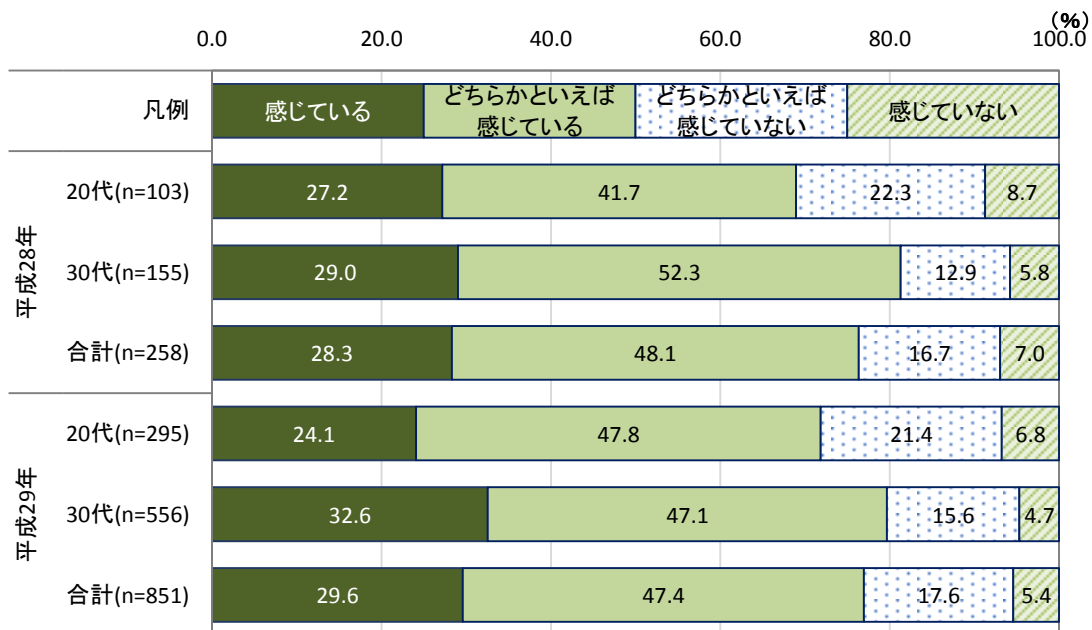
- 若者の76.5%が暮らしのなかで生きがいを感じている（「感じている」「どちらかといえば感じている」の回答割合）と回答している。
- 年代別にみると、20代より30代の方が生きがいを感じている割合が高い。

図表 42 暮らしのなかでの生きがい

	度数 (人)	割合 (%)
感じている	271	29.3
どちらかといえば感じている	436	47.2
どちらかといえば感じていない	165	17.9
感じていない	52	5.6
合計	924	100.0



図表 43 年代別 暮らしのなかで生きがいを感じている人の経年比較



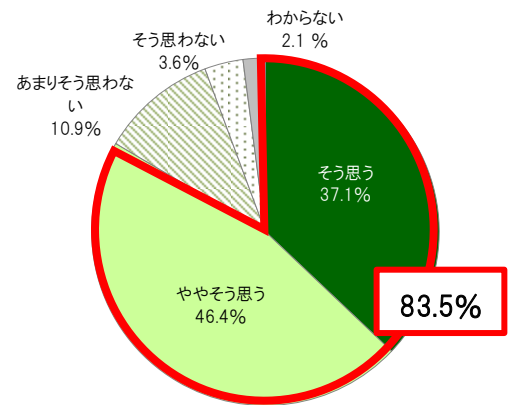
生きがい		感じている	どちらかといえ ば感じている	どちらかといえ ば感じていない	感じていない	全体	
平成28年	20代	度数(人)	28	43	23	9	103
		割合(%)	27.2	41.7	22.3	8.7	100.0
	30代	度数(人)	45	81	20	9	155
		割合(%)	29.0	52.3	12.9	5.8	100.0
平成29年	合計	度数(人)	73	124	43	18	258
		割合(%)	28.3	48.1	16.7	7.0	100.0
	20代	度数(人)	71	141	63	20	295
		割合(%)	24.1	47.8	21.4	6.8	100.0
平成29年	30代	度数(人)	181	262	87	26	556
		割合(%)	32.6	47.1	15.6	4.7	100.0
	合計	度数(人)	252	403	150	46	851
		割合(%)	29.6	47.4	17.6	5.4	100.0

(2) 松本の地域の魅力度・暮らしの満足度・定住意向

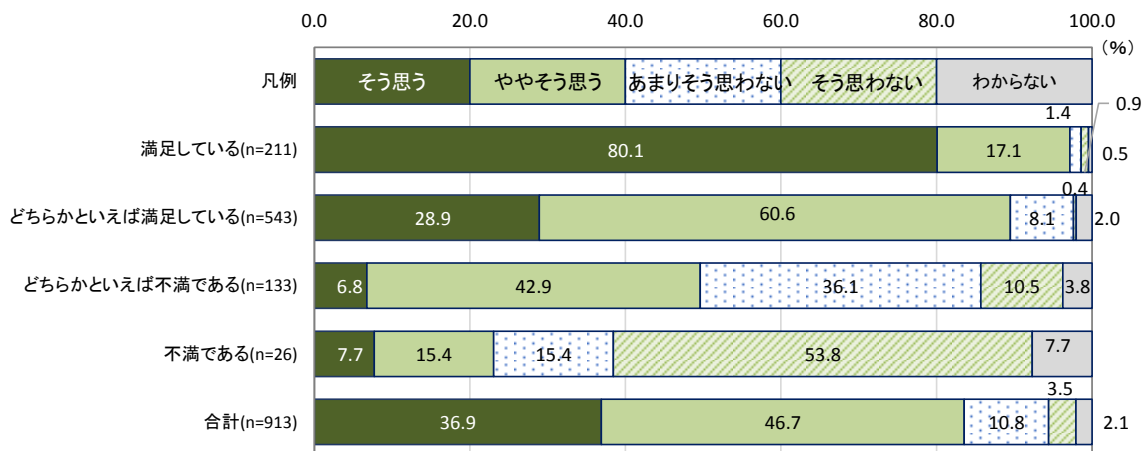
- 若者の83.5%（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）が松本は魅力的な地域であると回答している。
- 松本での暮らしの満足度別に、松本は魅力的な地域であるかという評価をみると、暮らしの満足度が高い人は大半が肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）をしている。不満度が高い人は、否定的評価（「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答割合）の割合が高い。
- 定住意向別に松本は魅力的な地域であるかという評価をみると、定住意向が低い人の方が否定的評価の割合が高い。

図表 44 松本は魅力的な地域である

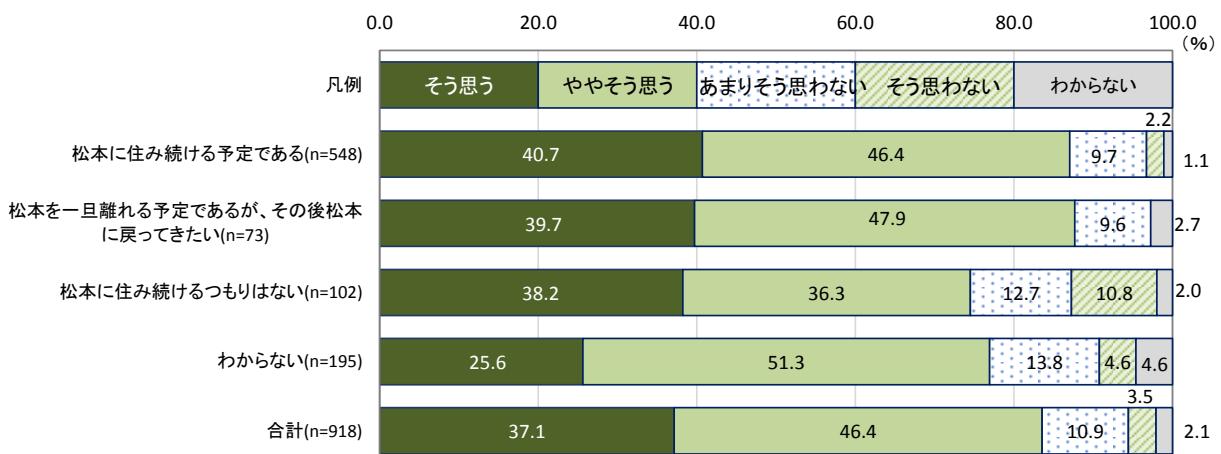
	度数 (人)	割合 (%)
そう思う	341	37.1
ややそう思う	427	46.4
あまりそう思わない	100	10.9
そう思わない	33	3.6
わからない	19	2.1
合計	920	100.0



図表 45 松本での暮らしの満足度別 松本は魅力的な地域であるかの回答結果



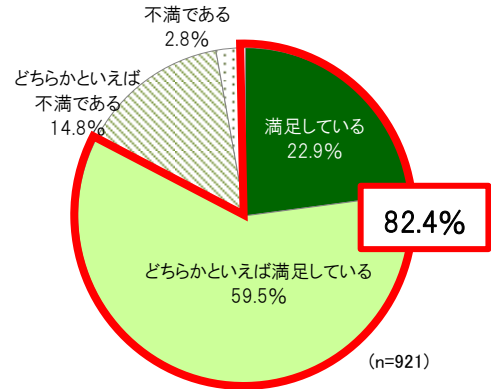
図表 46 定住意向別 松本は魅力的な地域であるかの回答結果



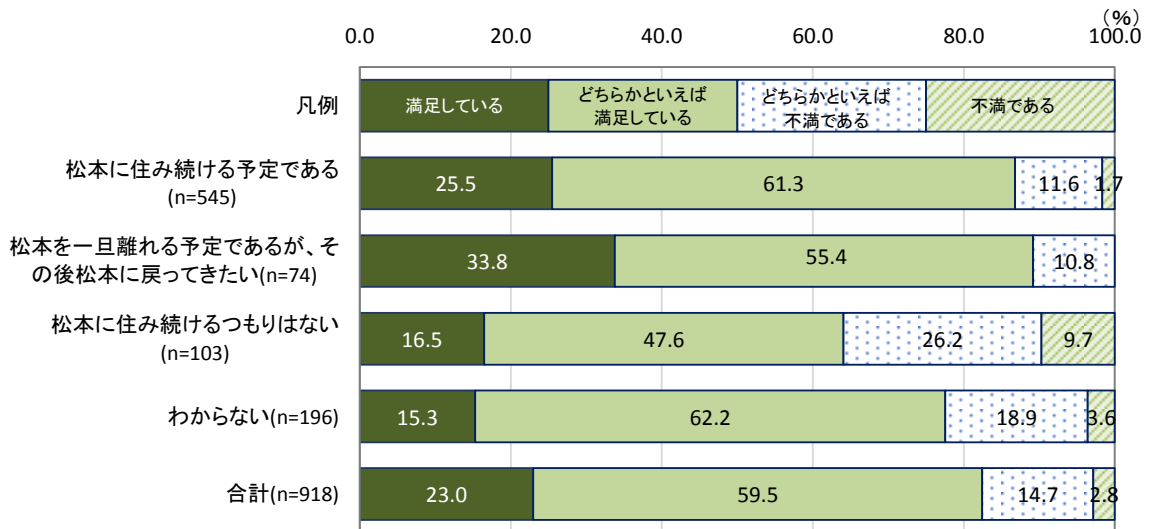
- 若者の82.4%が松本での暮らしに満足している（「満足している」「どちらかといえば満足している」の回答割合）と回答している。
- 松本での暮らし満足度と定住意向の関係をみると、定住意向が低い人は不満足割合（「どちらかといえば不満である」「不満である」の回答割合）が高い。また、松本での暮らし満足度を経年で比較すると低下傾向にあるが、8割を超える水準を維持している。

図表 47 松本での暮らしの満足度

	度数（人）	割合（％）
満足している	211	22.9
どちらかといえば満足している	548	59.5
どちらかといえば不満である	136	14.8
不満である	26	2.8
合計	921	100.0

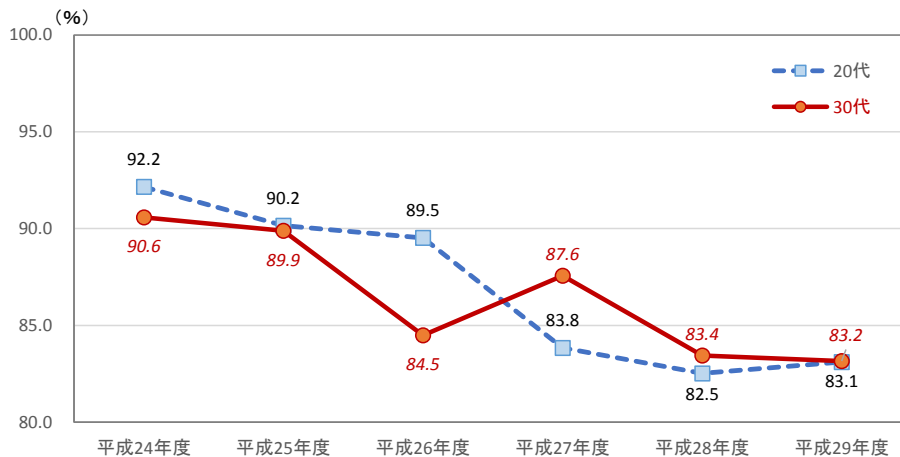


図表 48 定住意向別 松本での暮らしの満足度



図表 49 年代別 松本での暮らしの満足度の経年比較

「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計の割合



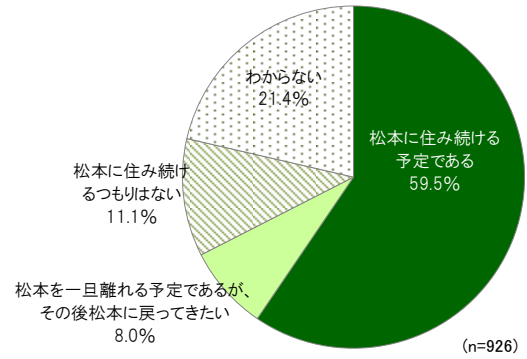
※過去調査は、各年の市民満足度調査の結果である

※平成24年度から実施している市民満足度調査は20歳以上を対象としている。経年比較分析をするため、平成29年度の結果は18、19歳の回答は除いたものである

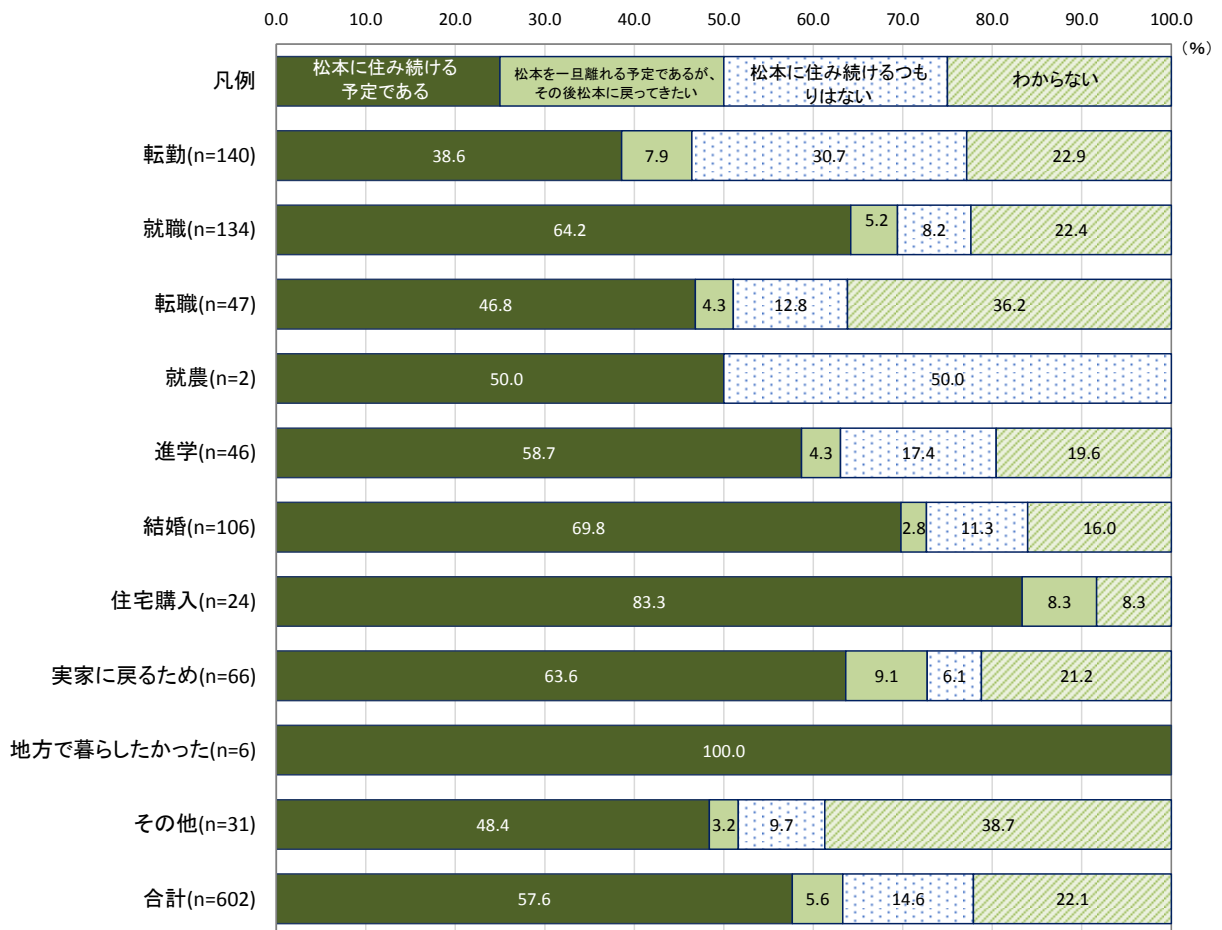
- 若者の59.5%が「松本に住み続ける予定である」と回答し、8.0%が「松本を一旦離れる予定であるが、その後松本に戻ってきたい」と回答している。「松本に住み続けるつもりはない」という回答は11.1%、「わからない」は21.4%である。
- 転入理由別に定住意向をみると「転勤」で転入した人は「住み続けるつもりはない」という回答割合が高い。「転職」で転入した人は「わからない」という回答が多い。

図表 50 松本市での定住意向

	度数 (人)	割合 (%)
松本に住み続ける予定である	551	59.5
松本を一旦離れる予定であるが、その後松本に戻ってきたい	74	8.0
松本に住み続けるつもりはない	103	11.1
わからない	198	21.4
合計	926	100.0

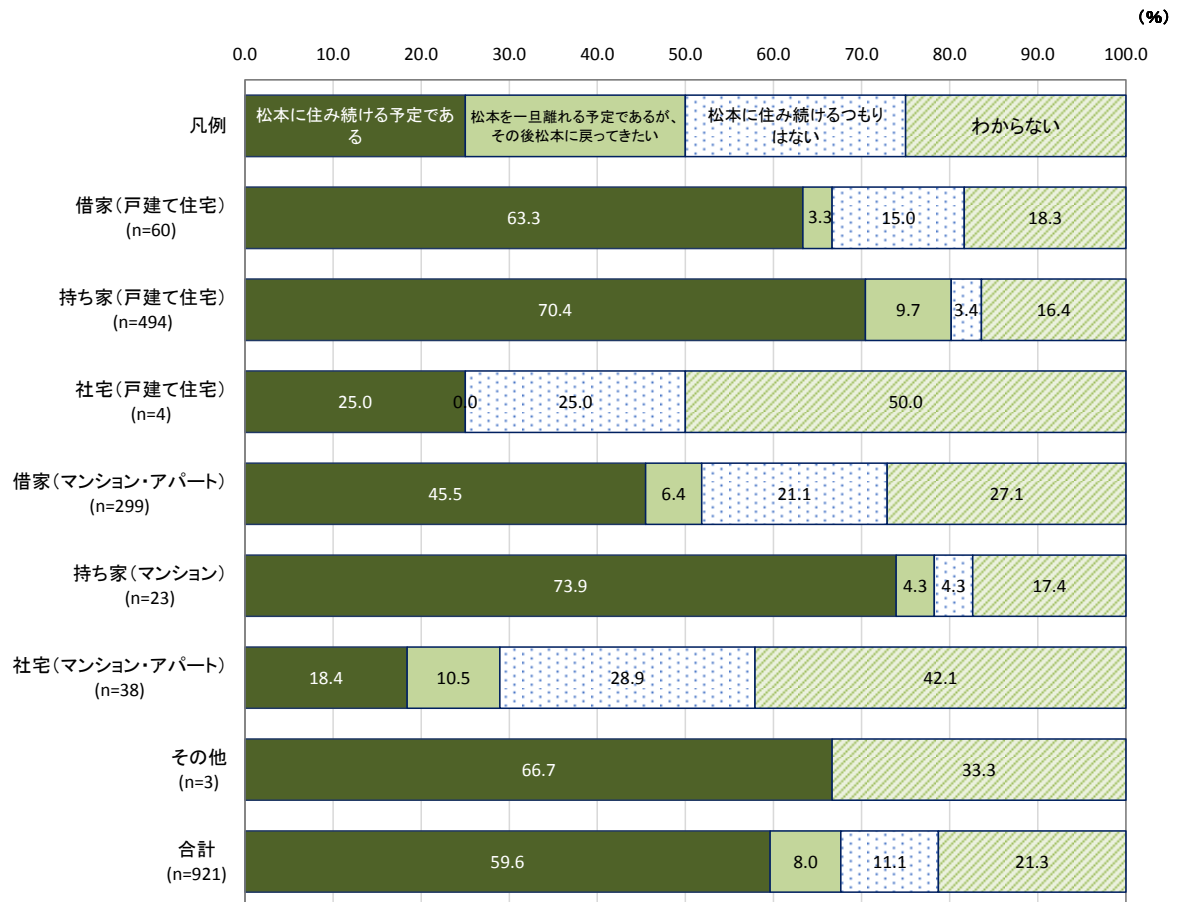


図表 51 【松本市への転入経験者】松本市への転入理由別 定住意向



- 住まいのタイプ別に定住意向をみると、借家（戸建て住宅）、持ち家（戸建て住宅）、持ち家（マンション）に住んでいる人は「松本に住民続ける予定である」という回答割合が高い。一方、借家（マンション・アパート）や社宅（戸建て住宅・マンション・アパート）に住んでいる人は「松本に住民続けるつもりはない」や「わからない」という回答が多い。

図表 52 住まいのタイプ別 定住意向

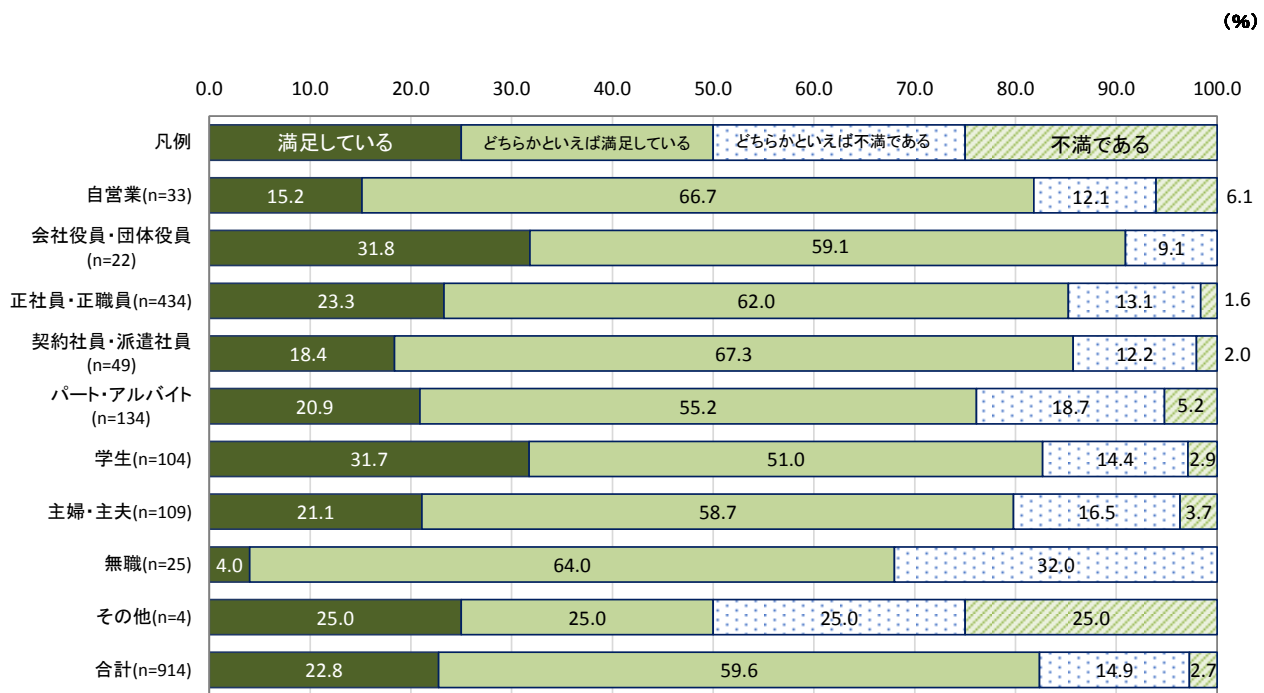


(3) 松本での暮らしの満足度の詳細分析

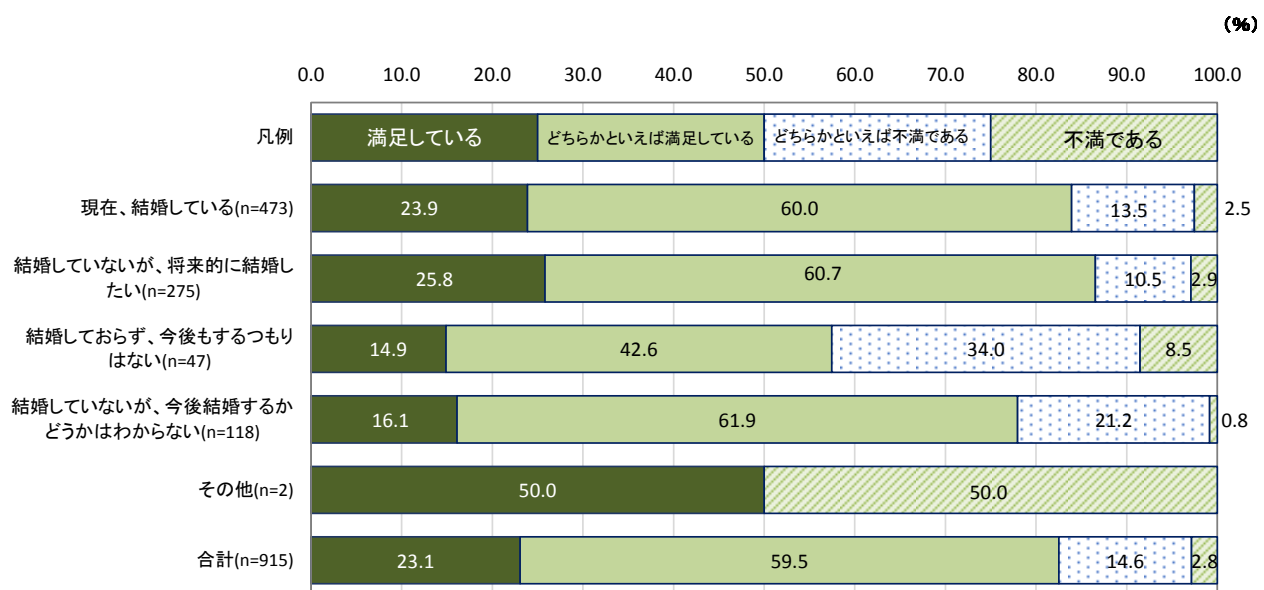
松本での暮らしの満足度との関連を見たところ、年代、性別、出身地、子どもの有無では、大きな違いは見られなかった。属性別、意識別で違いが見られた項目について示す。

- 就業形態状況別にみると、「パート・アルバイト」「無職」と回答した人で不満足度の割合（「どちらかといえば不満である」「不満である」の回答割合）が高くなっている。
- 結婚の状況・意向別にみると、「結婚しておらず、今後もするつもりはない」「結婚していないが、今後結婚するかどうかはわからない」と回答した人で、不満足度の割合が高くなっている。

図表 53 就業形態別 松本での暮らしの満足度

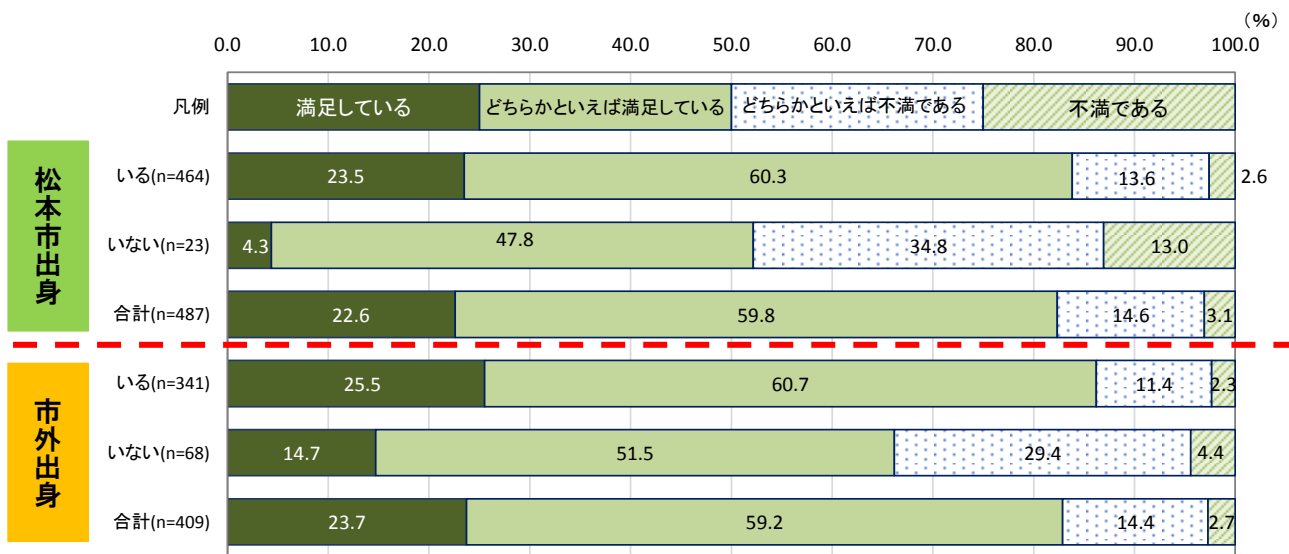


図表 54 結婚の状況・意向別 松本での暮らしの満足度

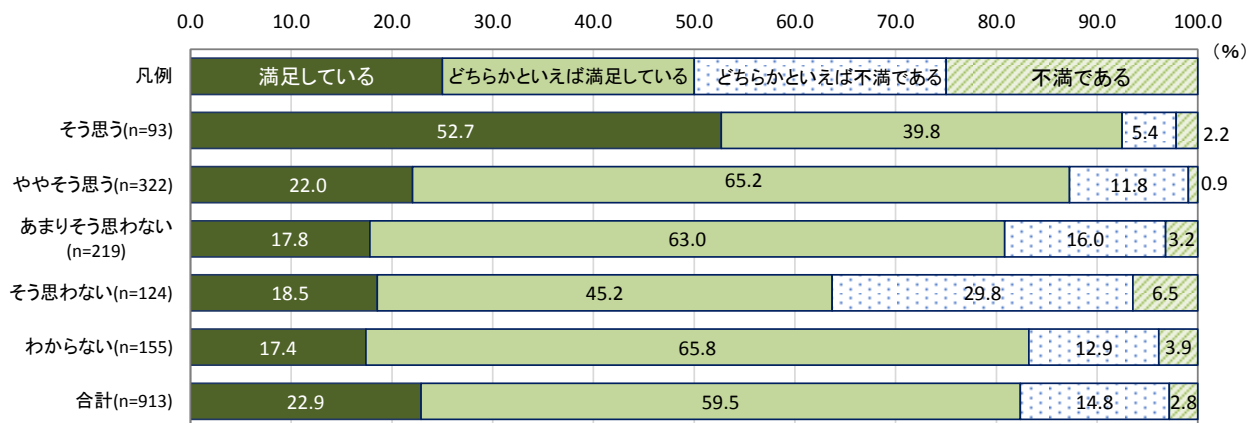


- 出身地別かつ、身近に頼れる人（家族、友人、知人など）の有無ごとに暮らしの満足度をみると出身地に関わらず身近に頼れる人が「いない」と回答した人で、不満足の高割合が高くなっている。
- 住んでいる地域の新しい人のとけこみやすさ別にみると、とけこみやすさを感じていない人で不満足の高割合が高くなっている。

図表 55 出身地別 身近に頼れる人（家族、友人、知人など）の有無と松本での暮らしの満足度

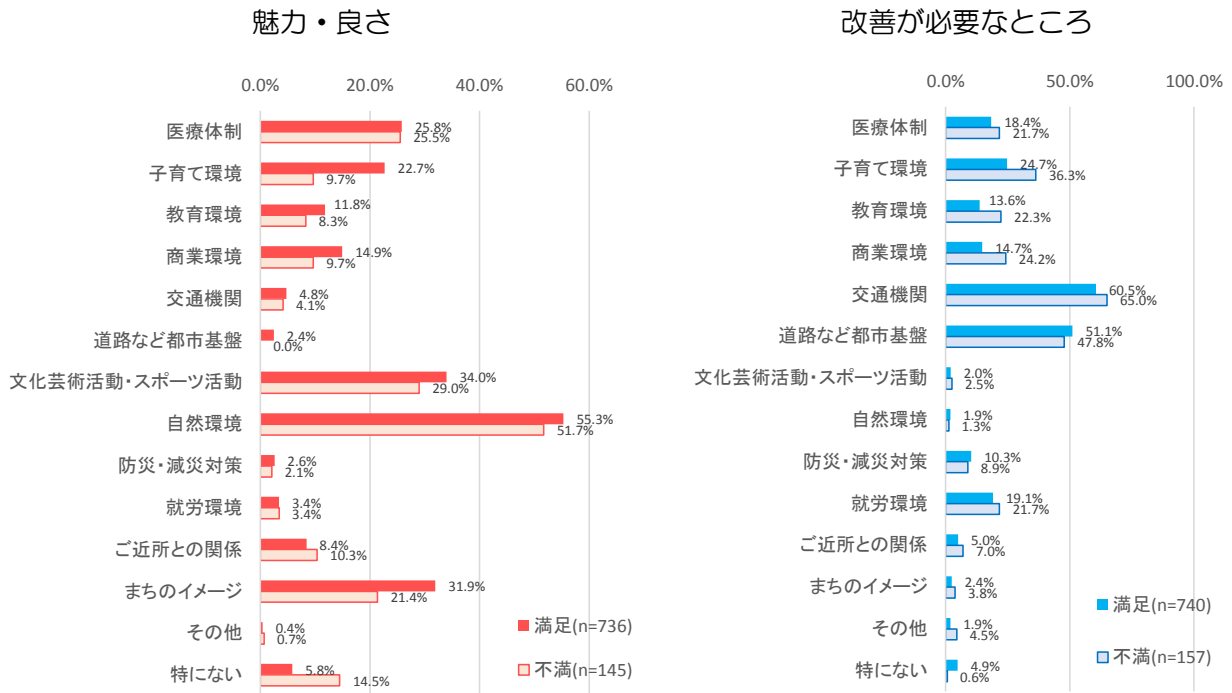


図表 56 住んでいる地域の新しい人のとけこみやすさ別 松本での暮らしの満足度

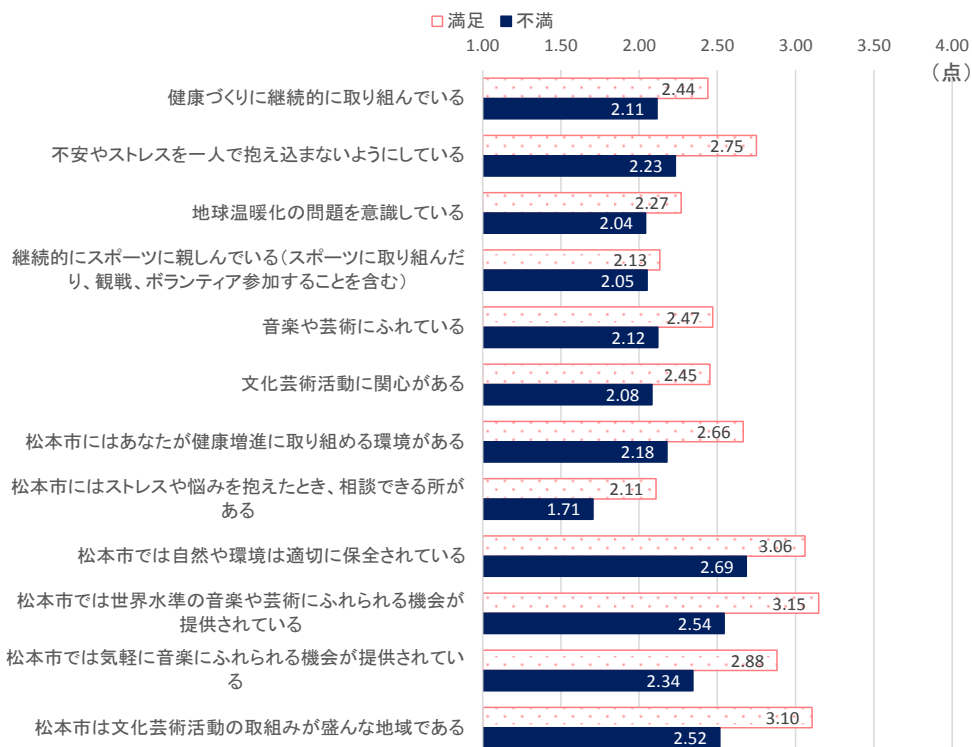


- 松本での暮らしの満足度別に、松本での生活の中で改善が必要なところをみると、特に「子育て環境」「教育環境」「商業環境」では不満と回答した人の方が割合が高くなっている。
- 松本市の健康、文化芸術活動・スポーツ活動、自然環境、子育て等の評価をみると、どの分野でも不満と回答した人の方が評価が低くなっている。特定の分野に強い不満があるというわけではなく、総じて課題を感じている傾向にある。

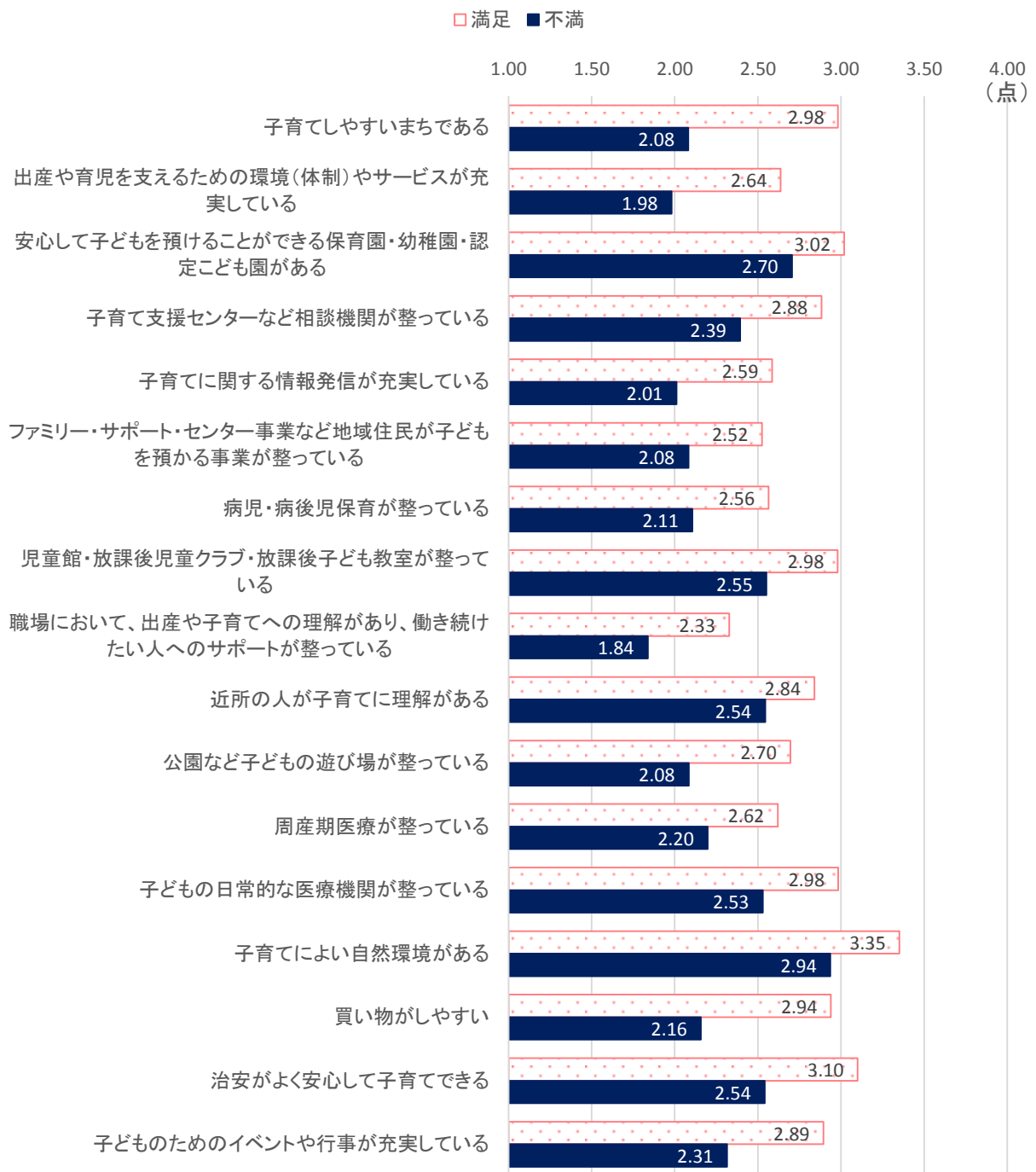
※満足は「満足」「どちらかといえば満足」、不満は「どちらかといえば不満」「不満」と回答した層
 図表 57 松本での暮らしの満足度別 松本市で生活している中で感じる（最大3つ選択）



図表 58 松本での暮らしの満足度別 松本市の健康、文化芸術活動・スポーツ活動、自然環境等の評価・自身の取組状況



図表 59 松本での暮らしの満足度別 子育て環境の評価



第2節 松本での結婚・出産・子育ての現状と課題

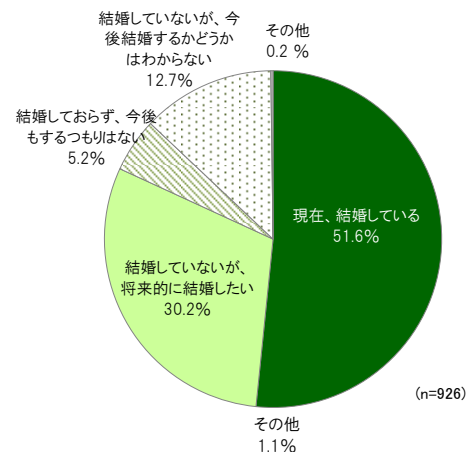
1. 結婚

(1) 結婚の状況と意向

- 現在、結婚している」と回答した人の割合は51.6%、「結婚していないが、将来的に結婚したい」と回答した人の割合は30.2%である。結婚している人の62.2%は「共働き」である。
- 結婚していない理由としては「男女の出会いの場や機会が少ない」という回答が最も多い。

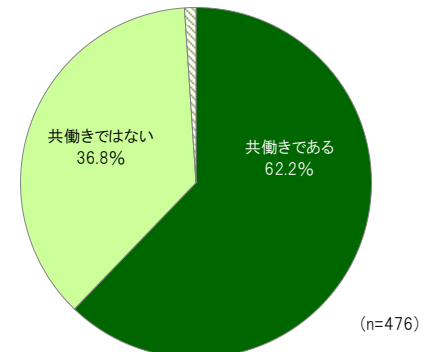
図表 60 結婚の状況・意向

	度数 (人)	割合 (%)
現在、結婚している	478	51.6
結婚していないが、将来的に結婚したい	280	30.2
結婚しておらず、今後もするつもりはない	48	5.2
結婚していないが、今後結婚するかどうかはわからない	118	12.7
その他	2	0.2
合計	926	100.0



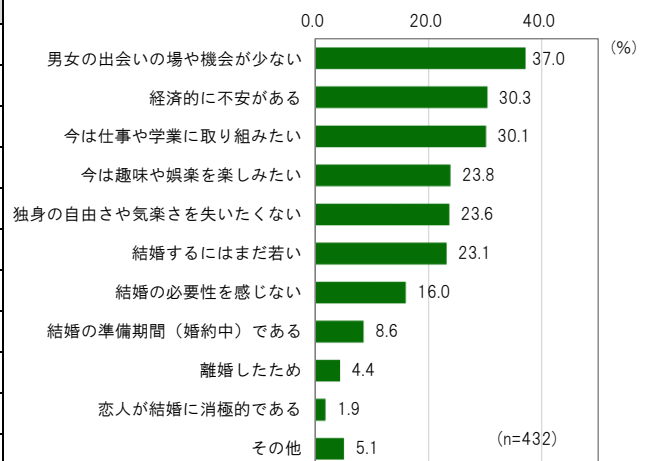
図表 61 【既婚者】共働きの状況

	度数 (人)	割合 (%)
共働きである	296	62.2
共働きではない	175	36.8
その他	5	1.1
合計	476	100.0



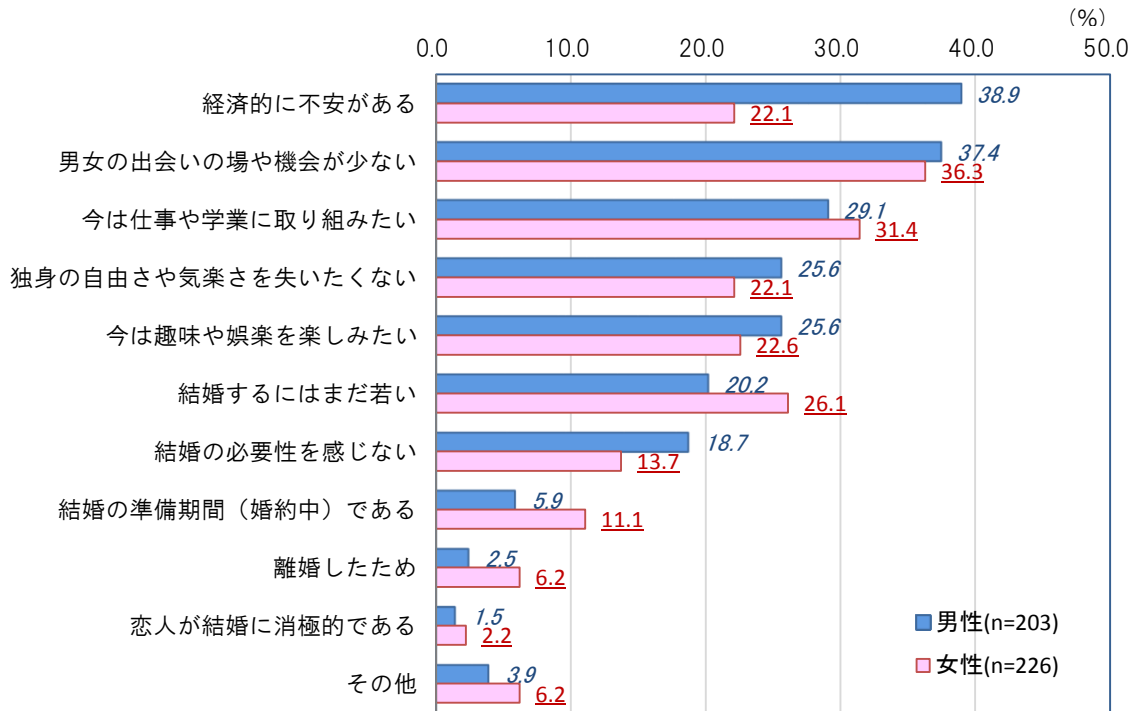
図表 62 【未婚者】結婚していない理由 (複数回答)

	度数 (人)	割合 (%)
男女の出会いの場や機会が少ない	160	37.0
経済的に不安がある	131	30.3
今は仕事や学業に取り組みたい	130	30.1
今は趣味や娯楽を楽しみたい	103	23.8
独身の自由さや気楽さを失いたくない	102	23.6
結婚するにはまだ若い	100	23.1
結婚の必要性を感じない	69	16.0
結婚の準備期間 (婚約中) である	37	8.6
離婚したため	19	4.4
恋人が結婚に消極的である	8	1.9
その他	22	5.1

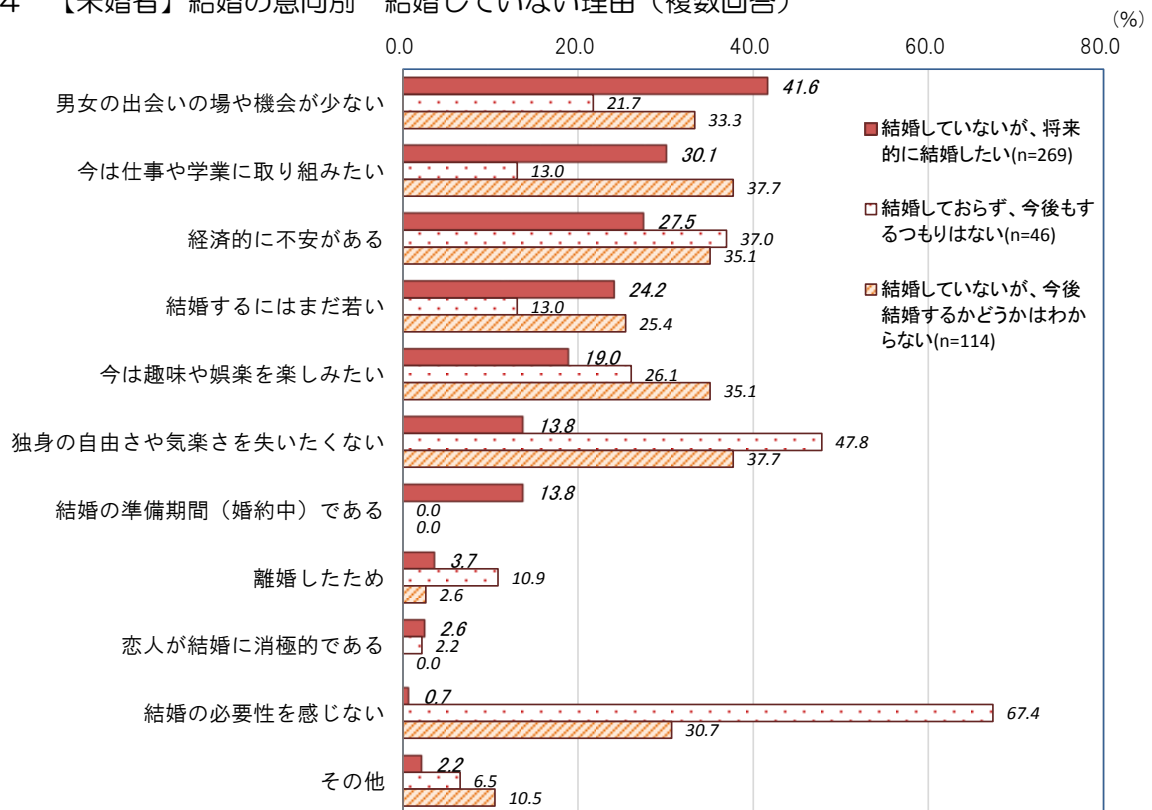


- 男女別に結婚していない理由をみると、男性は「経済的に不安がある」という回答が最も多く、次いで「男女の出会いの場や機会が少ない」となっている。
- 結婚の意向別にみると、今後も結婚するつもりがない人は「結婚の必要性を感じない」「独身の自由さや気楽さを失いたくない」という回答が多い。

図表 63 【未婚者】男女別 結婚していない理由（複数回答）



図表 64 【未婚者】結婚の意向別 結婚していない理由（複数回答）



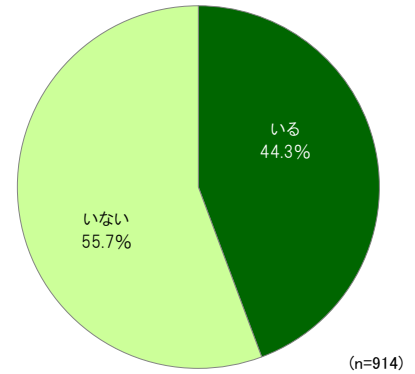
2. 出産・子育て

(1) 子育ての状況

- 回答者の44.3%が、子どもがいる状況である。
- 子どもがいる人のうち、76.5%が身近に子育てをサポートしてくれる人がいると回答している。サポートしてくれる人は大半が「親」である。

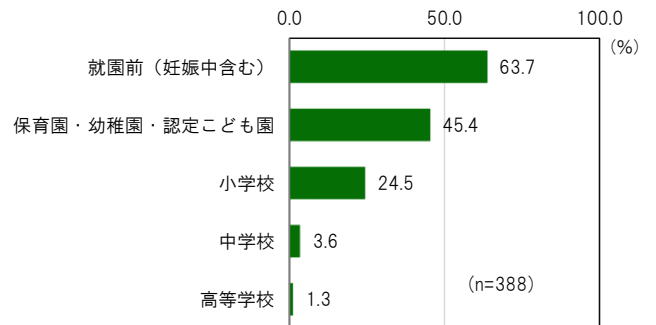
図表 65 お子さんの状況

	度数 (人)	割合 (%)
いる	405	44.3
いない	509	55.7
合計	914	100.0



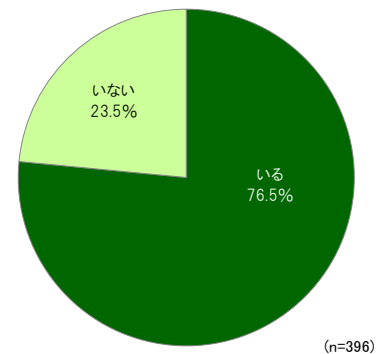
図表 66 お子さんの就園・就学状況 (複数回答)

	度数 (人)	割合 (%)
就園前 (妊娠中含む)	247	63.7
保育園・幼稚園・認定こども園	176	45.4
小学校	95	24.5
中学校	14	3.6
高等学校	5	1.3



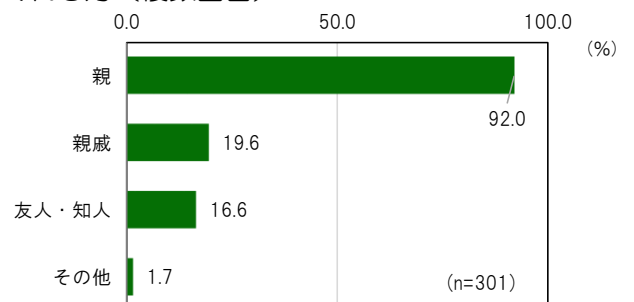
図表 67 【お子さんがいる方】配偶者以外にも、身近に子育てをサポートしてくれる人はいますか

	度数 (人)	割合 (%)
いる	303	76.5
いない	93	23.5
合計	396	100.0



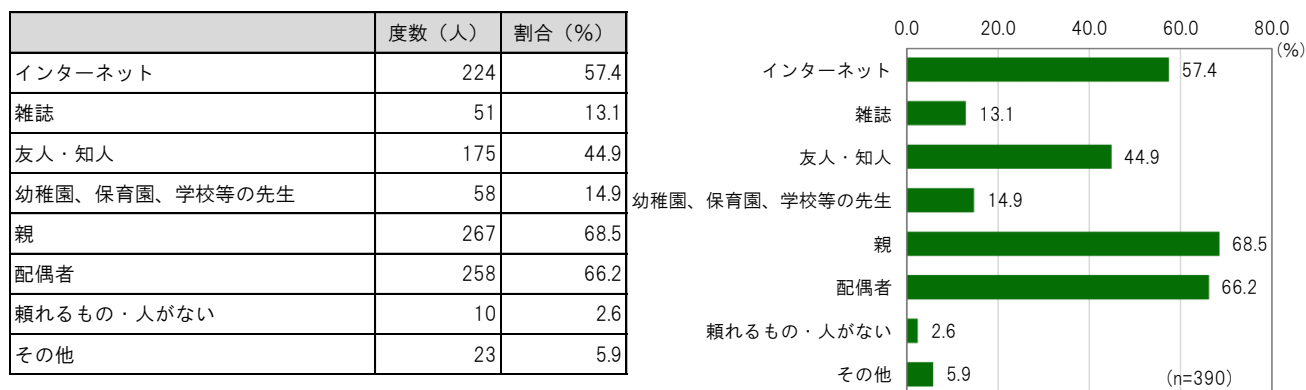
図表 68 【サポートしてくれる人がいる方】サポートしてくれる方 (複数回答)

	度数 (人)	割合 (%)
親	277	92.0
親戚	59	19.6
友人・知人	50	16.6
その他	5	1.7

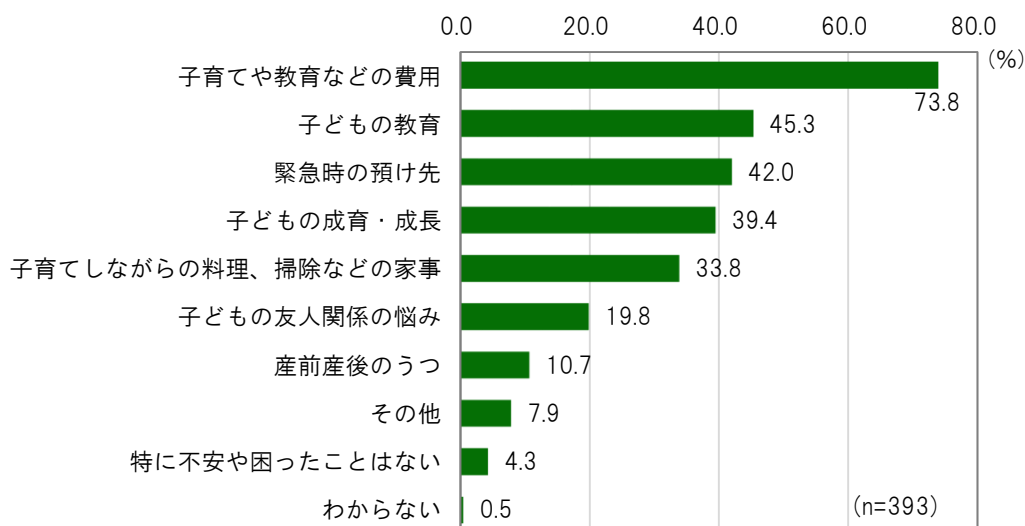


- 出産・子育てで困ったときに頼りにするのは、「親」「配偶者」に次いで「インターネット」となっている。
- 子育てする中で、不安に感じたり、困っていることは「子育てや教育などの費用」が最も高く、次いで「子どもの教育」「緊急時の預け先」である。

図表 69 【お子さんがいる方】 出産・子育てで困ったときに、何を頼りにしますか（最大3つ選択）



図表 70 【お子さんがいる方】 子育てする中で、不安に感じたり、困っていること（複数回答）



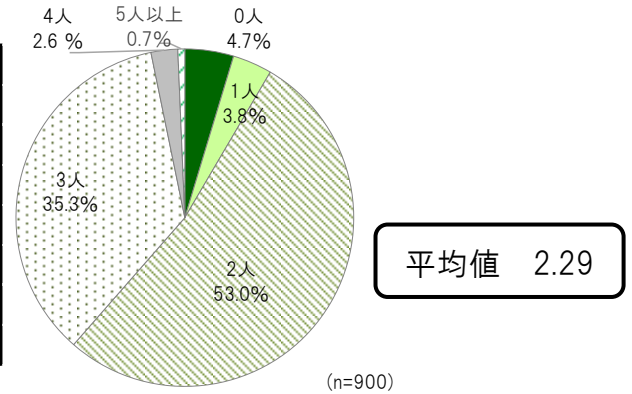
	度数（人）	割合（％）
子育てや教育などの費用	290	73.8
子どもの教育	178	45.3
緊急時の預け先	165	42.0
子どもの成育・成長	155	39.4
子育てしながらの料理、掃除などの家事	133	33.8
子どもの友人関係の悩み	78	19.8
産前産後のうつ	42	10.7
その他	31	7.9
特に不安や困ったことはない	17	4.3
わからない	2	0.5

(2) 子育ての理想と現実のギャップの状況

- 理想の子どもの人数の平均は 2.29 人、最終的に持つ子どもの人数の平均は 1.86 人であり、乖離がある。
- 最終的に持つ子どもの人数が「1人」の人で、理想として2人以上を希望している割合は 74.8% である。最終的に持つ子どもの人数が2人以上からギャップは少なくなる。

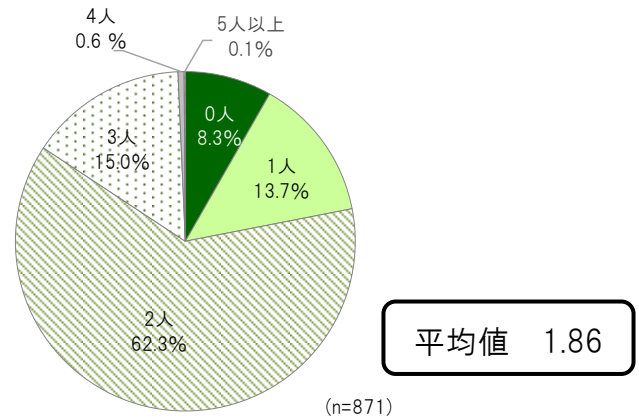
図表 71 理想の子どもの人数

	度数 (人)	割合 (%)
0人	42	4.7
1人	34	3.8
2人	477	53.0
3人	318	35.3
4人	23	2.6
5人以上	6	0.7
合計	900	100.0

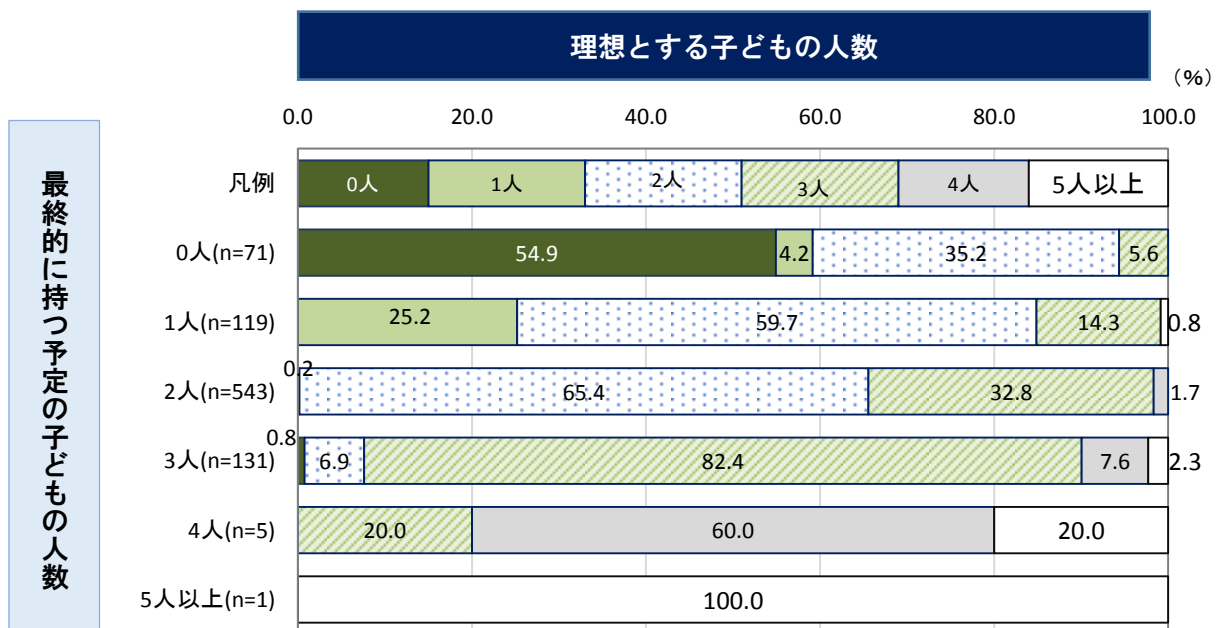


図表 72 最終的に持つ子どもの人数

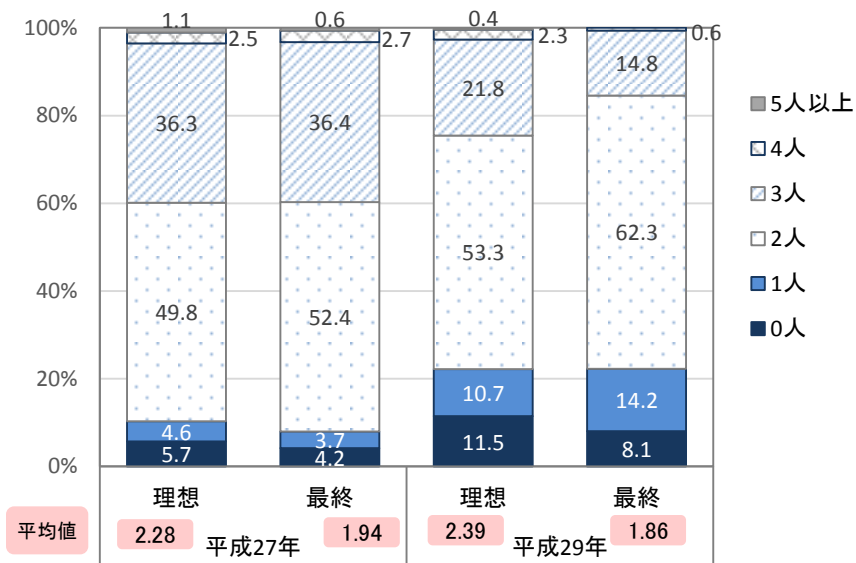
	度数 (人)	割合 (%)
0人	72	8.3
1人	119	13.7
2人	543	62.3
3人	131	15.0
4人	5	0.6
5人以上	1	0.1
合計	871	100.0



図表 73 最終的に持つ子どもの人数と理想とする子どもの人数のギャップ

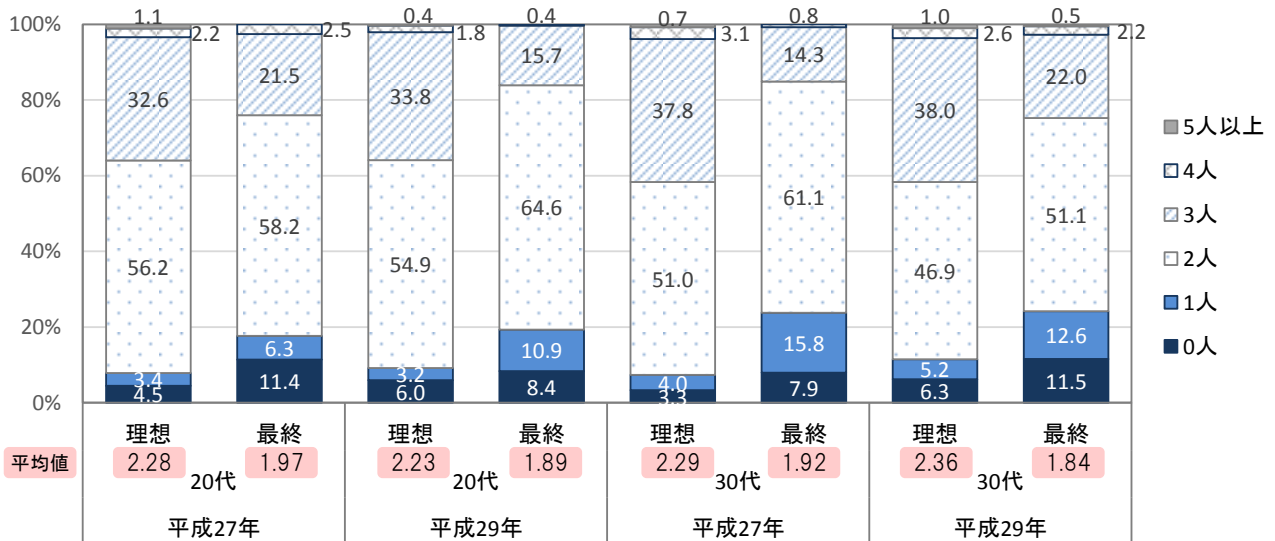


図表 74 【20代、30代の方】理想の子ども的人数と最終的に持つ予定の子ども的人数
平成27年度との比較



※20代と30代を分析したもので、前ページの平均値とは異なる。

図表 75 【20代、30代の方】年代別 理想の子ども的人数と最終的に持つ予定の子ども的人数
平成27年度との比較



- 最終的に持つ予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由としては「経済的理由」という回答が最も多い。次いで「子育てと仕事の両立の不安」「体力的・年齢的理由」である。

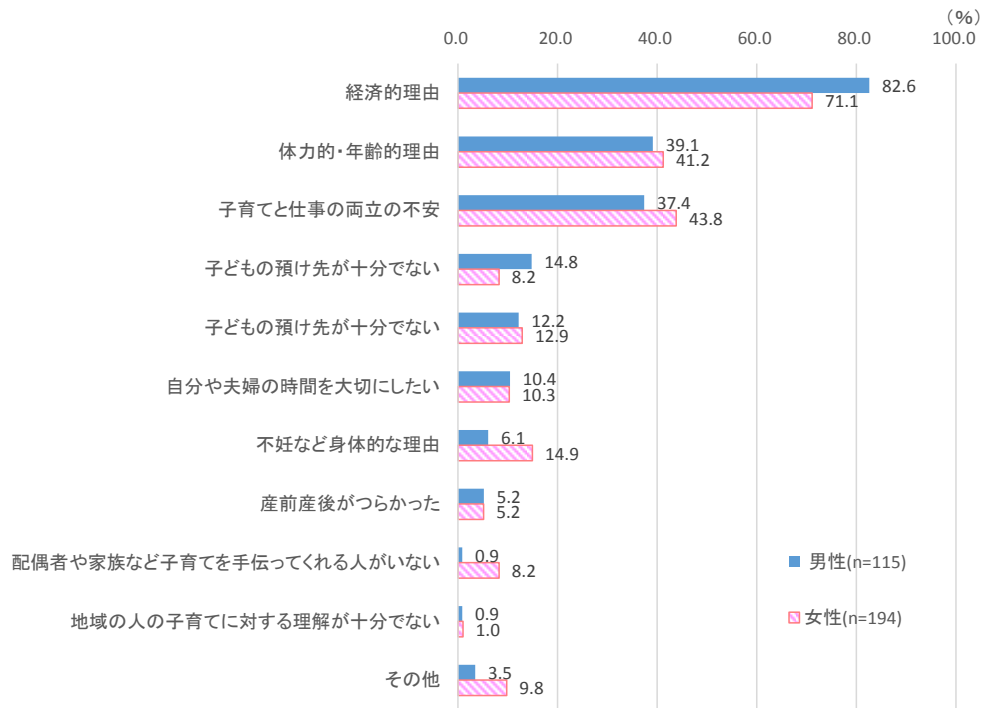
図表 76 最終的に持つ予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由（最大3つ選択）



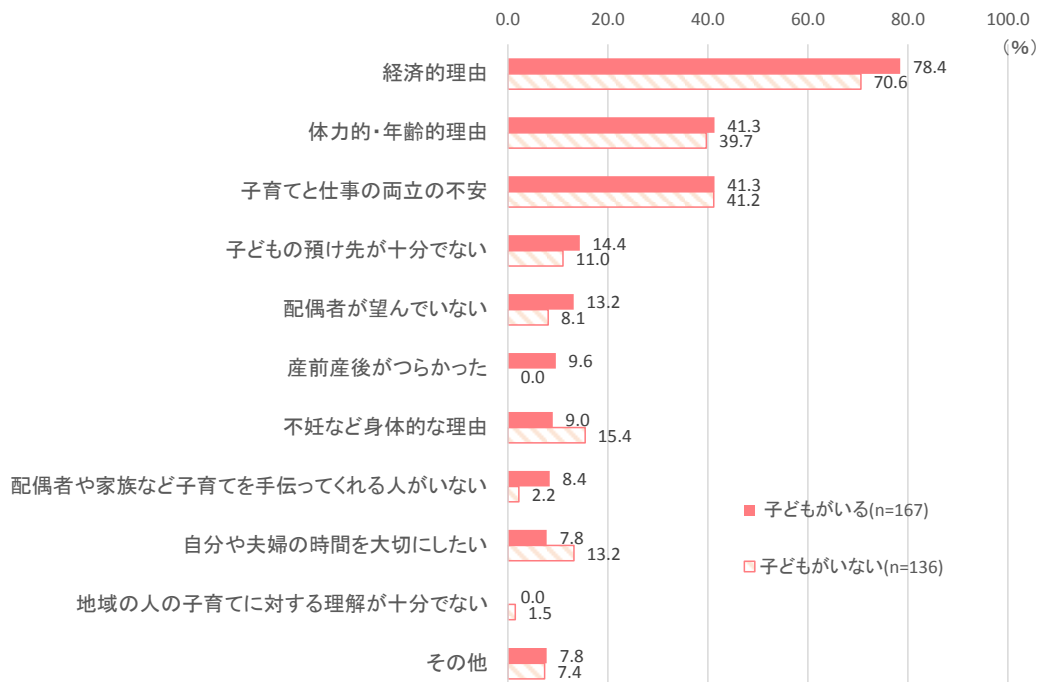
	度数 (人)	割合 (%)
経済的理由	233	75.4
子育てと仕事の両立の不安	128	41.4
体力的・年齢的理由	125	40.5
子どもの預け先が十分でない	39	12.6
不妊など身体的な理由	36	11.7
配偶者が望んでいない	33	10.7
自分や夫婦の時間を大切にしたい	32	10.4
配偶者や家族など子育てを手伝ってくれる人がいない	17	5.5
産前産後がつかかった	16	5.2
地域の人の子育てに対する理解が十分でない	3	1.0
その他	23	7.4

- 男女別にみると、特に「経済的理由」で男性の方が、「子育てと仕事の両立の不安」「不妊など身体的な理由」「配偶者や家族など子育てを手伝ってくれる人がいない」では女性の方が割合が高い。
- 子どもの有無別にみると、子どもがいる人の方が「経済的理由」をあげる人の割合が高い。

図表 77 男女別 最終的に持つ予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由
(最大3つ選択)



図表 78 子どもの有無別 最終的に持つ予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由
(最大3つ選択)



- 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこととしては「経済的な課題の解消」という回答が最も多い。次いで「労働環境の改善」「柔軟な働き方を容認する職場」「託児環境の充実」「職場の出産・子育てに対する理解促進」など、仕事関係や預け先の課題が上位にきている。

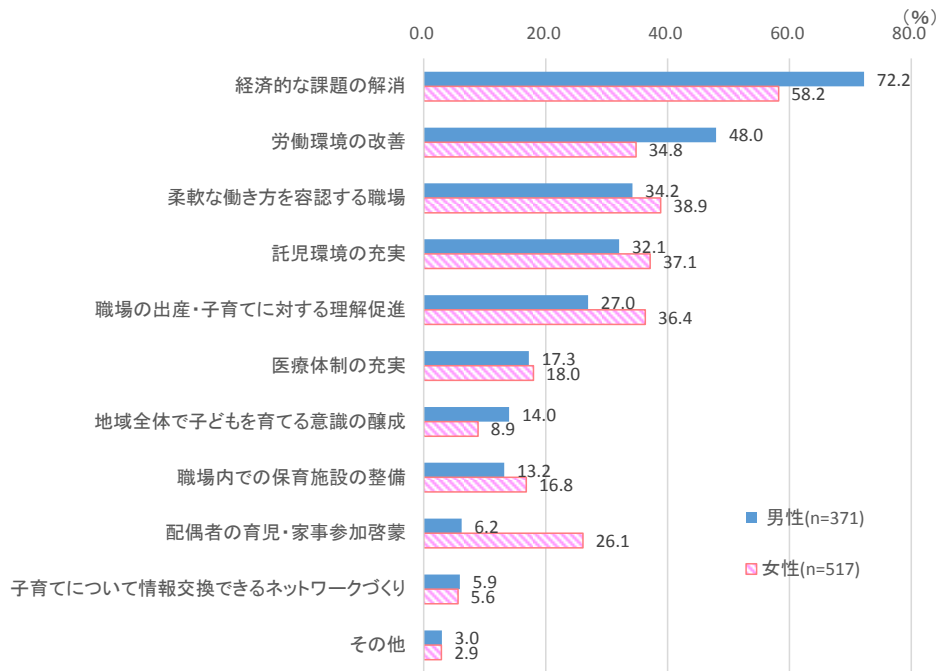
図表 79 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（最大3つ選択）



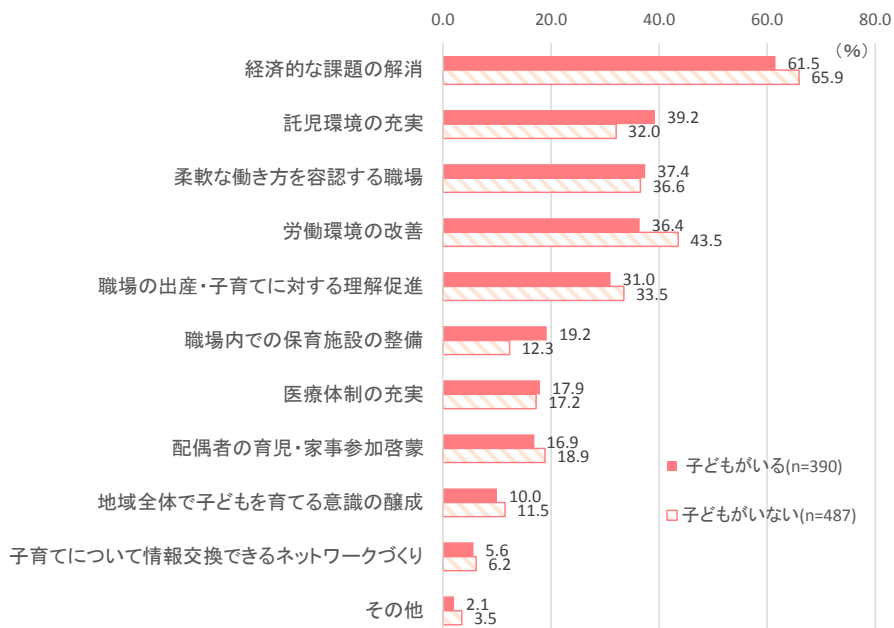
	度数 (人)	割合 (%)
経済的な課題の解消	571	64.1
労働環境の改善	361	40.5
柔軟な働き方を容認する職場	328	36.8
託児環境の充実	311	34.9
職場の出産・子育てに対する理解促進	290	32.5
配偶者の育児・家事参加啓蒙	158	17.7
医療体制の充実	158	17.7
職場内での保育施設の整備	137	15.4
地域全体で子どもを育てる意識の醸成	98	11.0
子育てについて 情報交換できるネットワークづくり	52	5.8
その他	26	2.9

- 男女別にみると、「経済的な課題の解消」「労働環境の改善」では男性の方が回答割合が高い。一方、「柔軟な働き方を容認する職場」「託児環境の充実」「職場の出産・子育てに対する理解促進」「配偶者の育児・家事参加啓蒙」では女性の方が回答割合が高い。
- 子どもの有無別に比較すると、「託児環境の充実」「職場内での保育施設の整備」では子どもがいる人の方が回答割合が高くなっている。「労働環境の改善」では子どもがいない人の方が回答割合が高い。

図表 80 男女別 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（最大3つ選択）

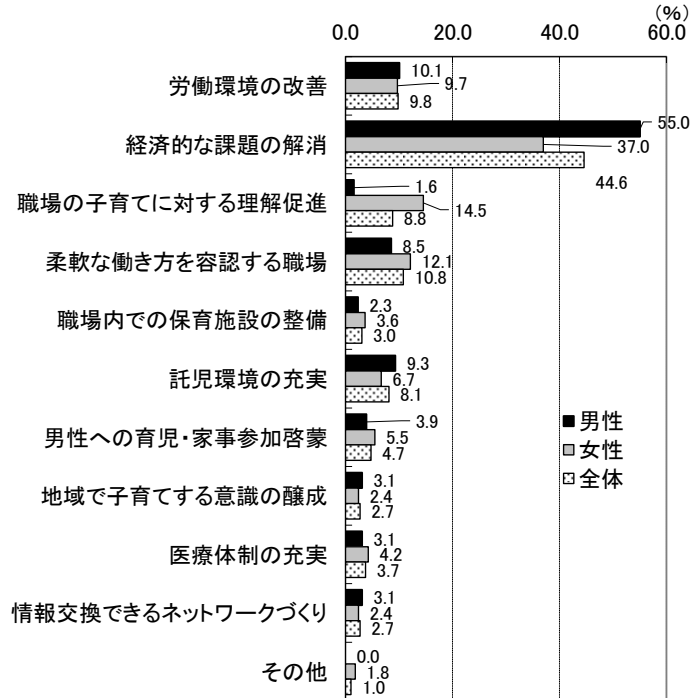


図表 81 子どもの有無別 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（最大3つ選択）



- 平成 27 年度調査と比較すると「経済的な課題の解消」が高いという傾向は同じである。

図表 82 <参考>平成 27 年度調査 男女別 希望する人数の子どもを産み、育てるために必要なこと（単一回答）



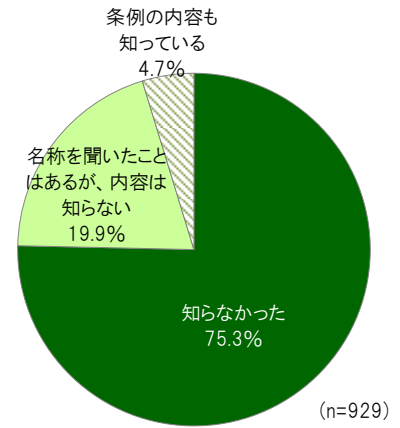
※平成 27 年度調査時は単一回答であったが、今回は最大 3 つまで選択可能であるため、単純比較はできない。

(3) 松本市の子育てに関する各種取組の評価

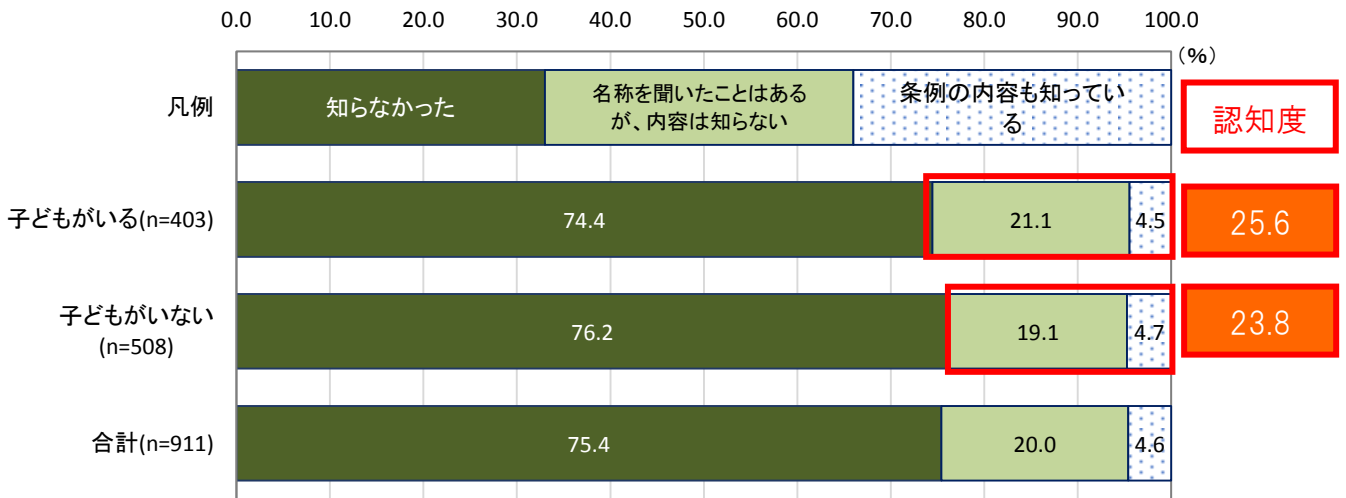
- 「松本市子どもの権利に関する条例」を知っている人の割合（「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」「条例の内容も知っている」）は24.6%である。
- 子どもの有無別に、知っている人の割合をみると子どもがいる人は25.6%、子どもがいない人は23.8%である。

図表 83 「松本市子どもの権利に関する条例」の認知度

	度数（人）	割合（%）
知らなかった	700	75.3
名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	185	19.9
条例の内容も知っている	44	4.7
合計	929	100.0



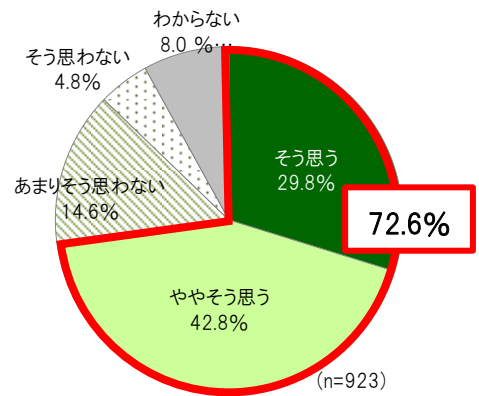
図表 84 子どもの有無別 「松本市子どもの権利に関する条例」の認知度



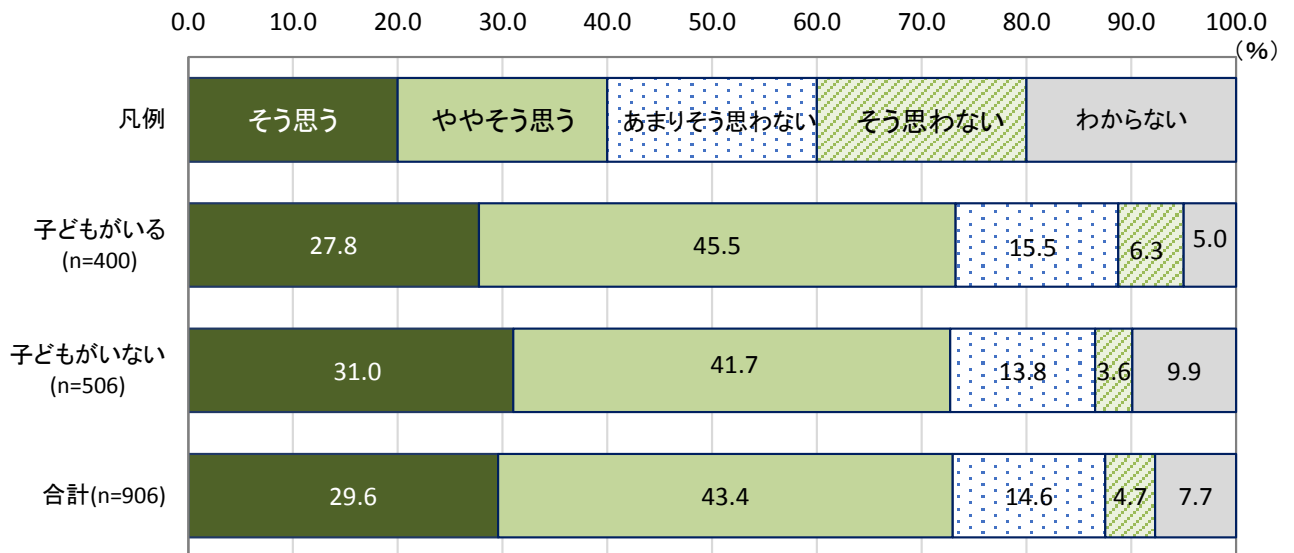
- 地域の子どもたちにコミュニティの一員として、地域活動への参加を促し、担い手としての役割を持たせることに関して、肯定的な回答（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は 72.6% である。
- 子どもの有無別にみても、傾向に大きな違いはない。

図表 85 地域の子どもたちにコミュニティの一員として、
地域活動への参加を促し、担い手としての役割を持たせることは必要と考えるか

	度数 (人)	割合 (%)
そう思う	275	29.8
ややそう思う	395	42.8
あまりそう思わない	135	14.6
そう思わない	44	4.8
わからない	74	8.0
合計	923	100.0

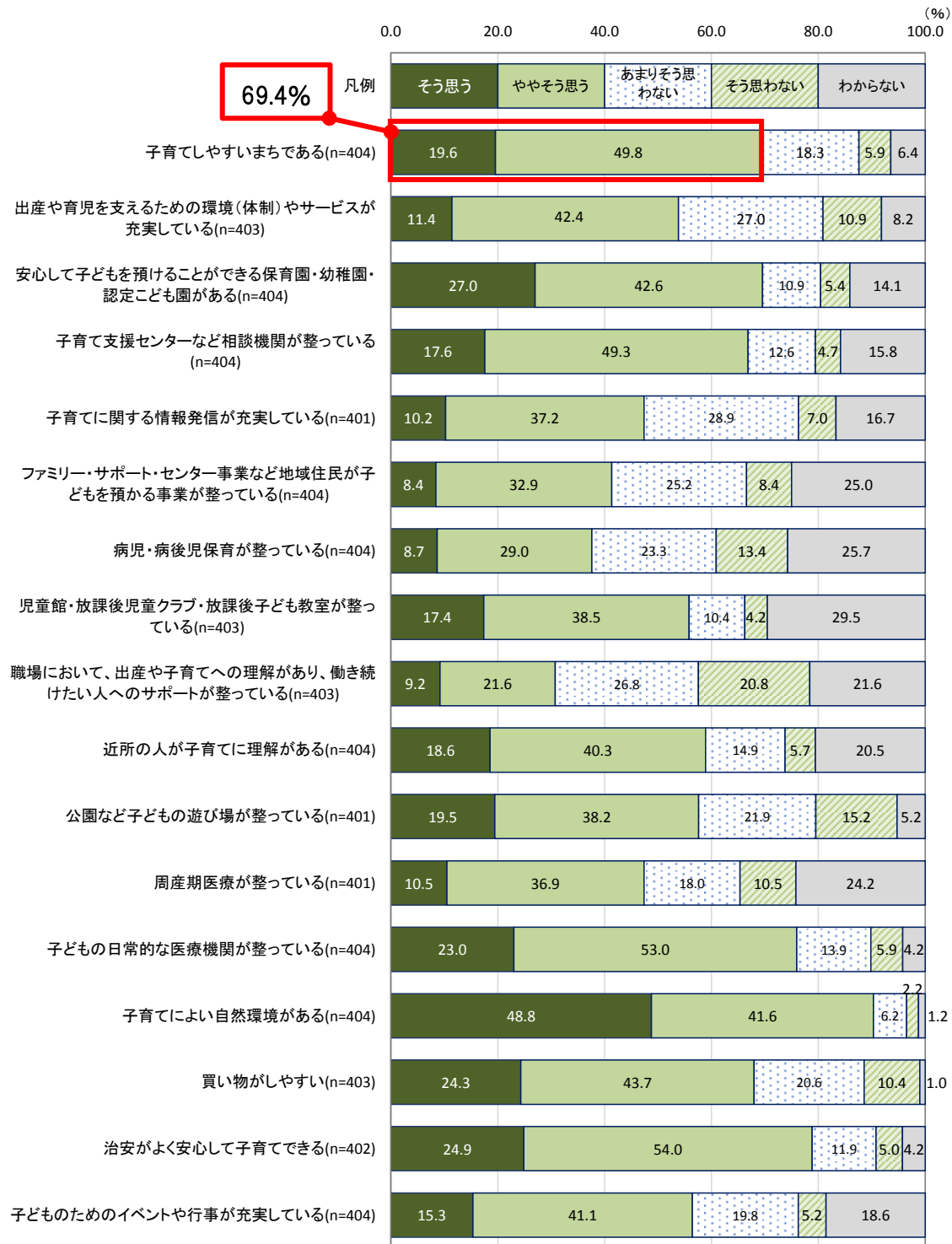


図表 86 子どもの有無別 地域の子どもたちにコミュニティの一員として、
地域活動への参加を促し、担い手としての役割を持たせることは必要と考えるか



- 子どもがいる人の松本市の子育て環境の評価をみると、「子育てしやすいまちである」の肯定的な回答（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は69.4%である。自然環境や治安、日常的な医療機関などの生活環境や、安心して預けることができる保育園・幼稚園・認定こども園、相談機関などの評価が高い。

図表 87 【お子さんがいる方】 松本市の子育て環境の評価

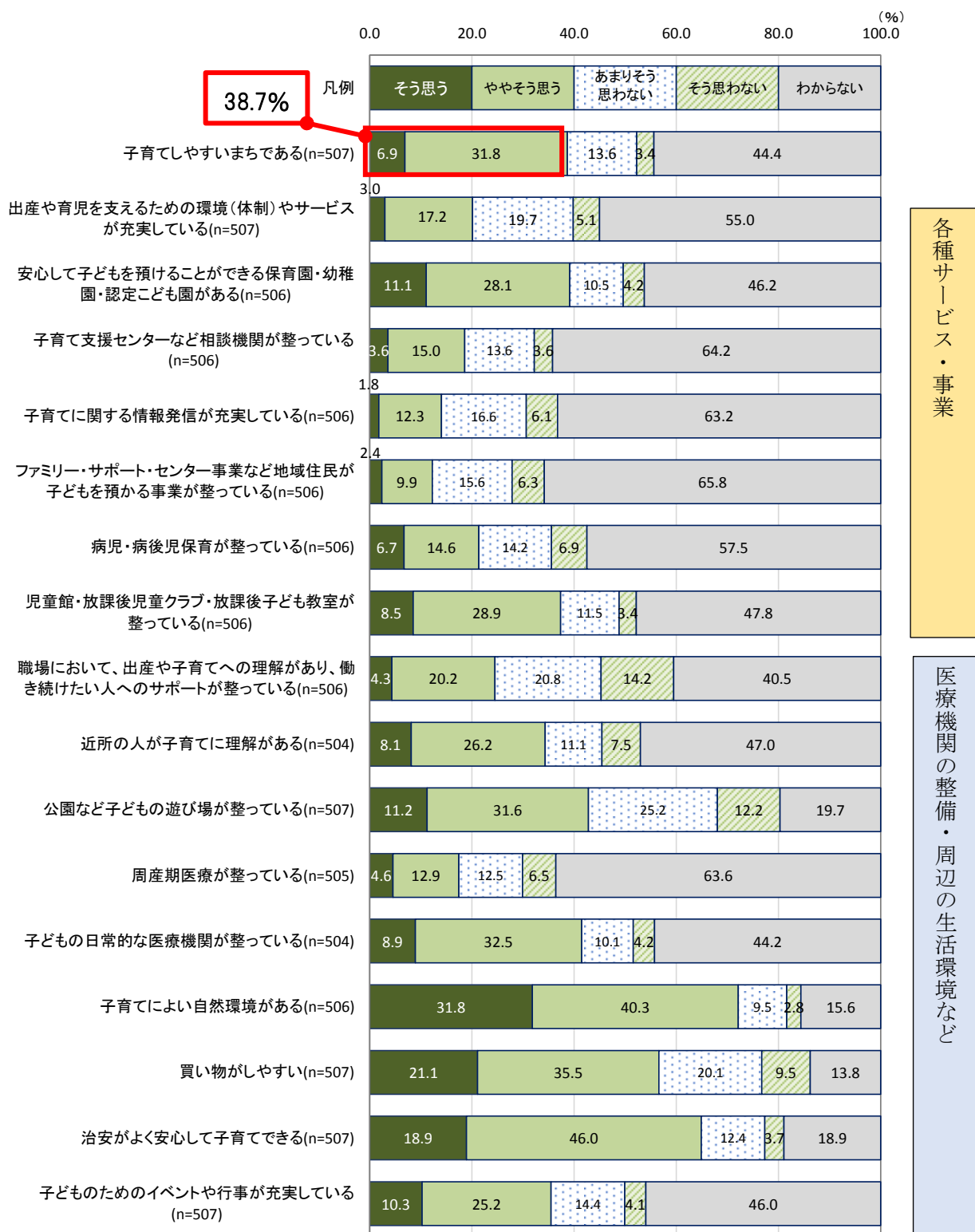


各種サービス・事業

医療機関の整備・周辺の生活環境など

- 子どもがいない人の松本市の子育て環境の評価をみると、「子育てしやすいまちである」の肯定的な回答（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は38.7%である一方、「わからない」という回答保留の割合は44.4%である。
- 各種サービス・事業や周産期の医療に関しては「わからない」という回答が5割を越えている。

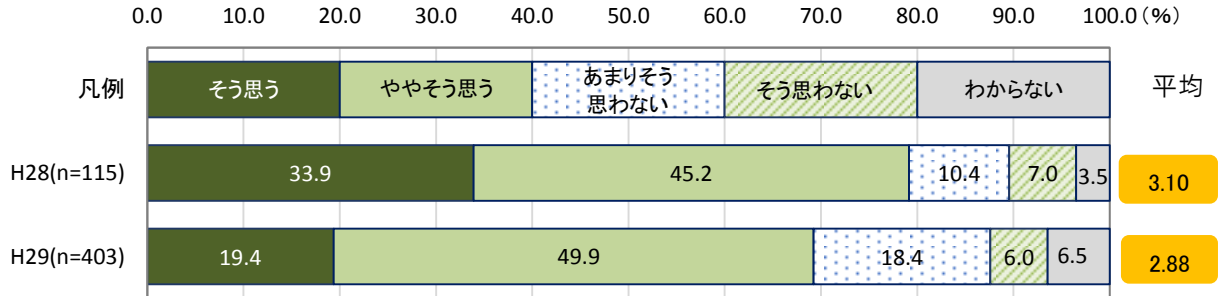
図表 88 【お子さんがいない方】松本市の子育て環境の評価



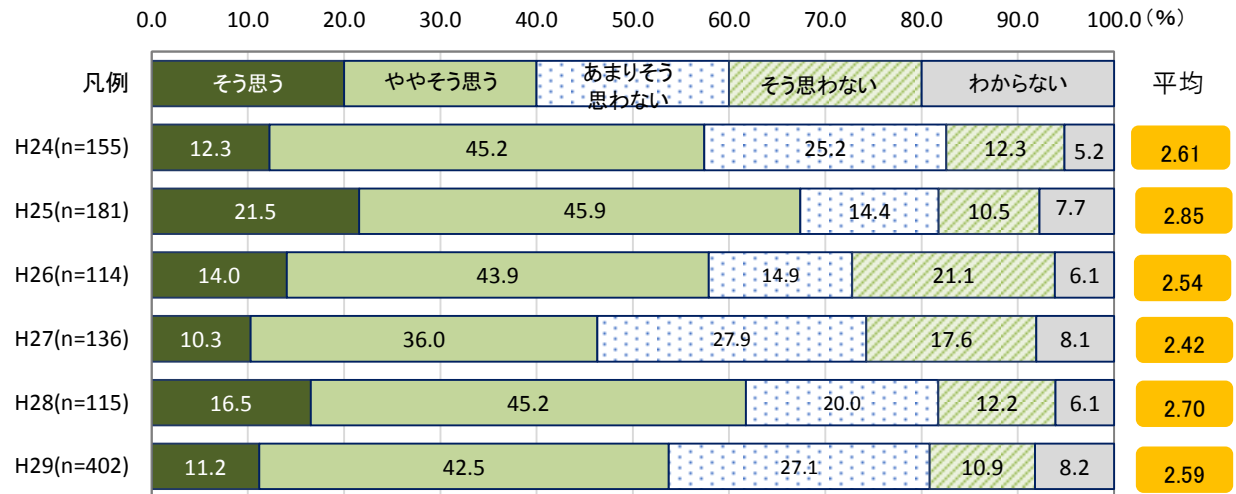
● 経年比較すると「子育てしやすいまちである」は平成 28 年度比較し評価が下がっている。

※平成 24 年度から実施している市民満足度調査は 20 歳以上を対象としている。経年比較分析をするため、平成 29 年度の結果は 18、19 歳の回答は除いたものである

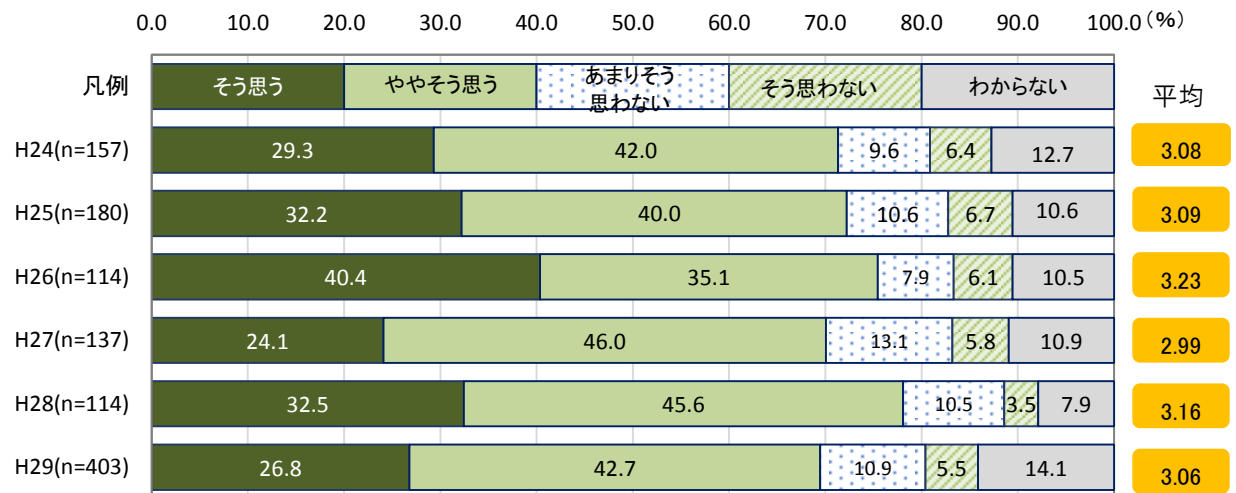
図表 89 【20代30代・お子さんがいる方】「子育てしやすいまちである」の経年比較分析



図表 90 【20代30代・お子さんがいる方】「出産や育児を支えるための環境（体制）やサービスが充実している」の経年比較分析



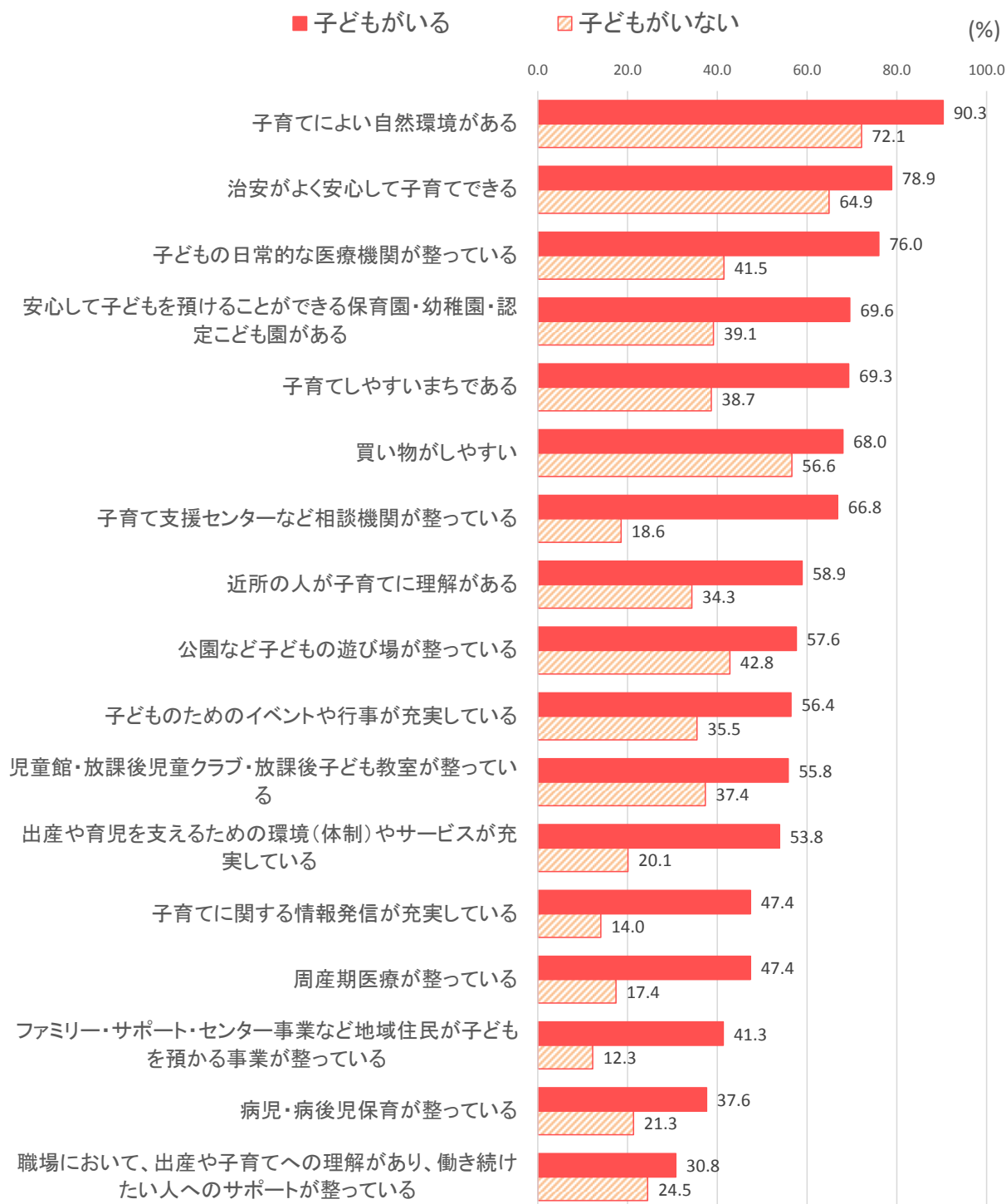
図表 91 【20代30代・お子さんがいる方】「安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園・認定こども園」の経年比較分析



- 子どもの有無別に松本市の子育て環境の肯定的評価の割合（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）を比較したところ、特に「相談機関」で子どもがいる人の方が、割合が高い。
- 子どもがいる人で肯定的評価の割合が最も低いのは「職場におけるサポート」である。

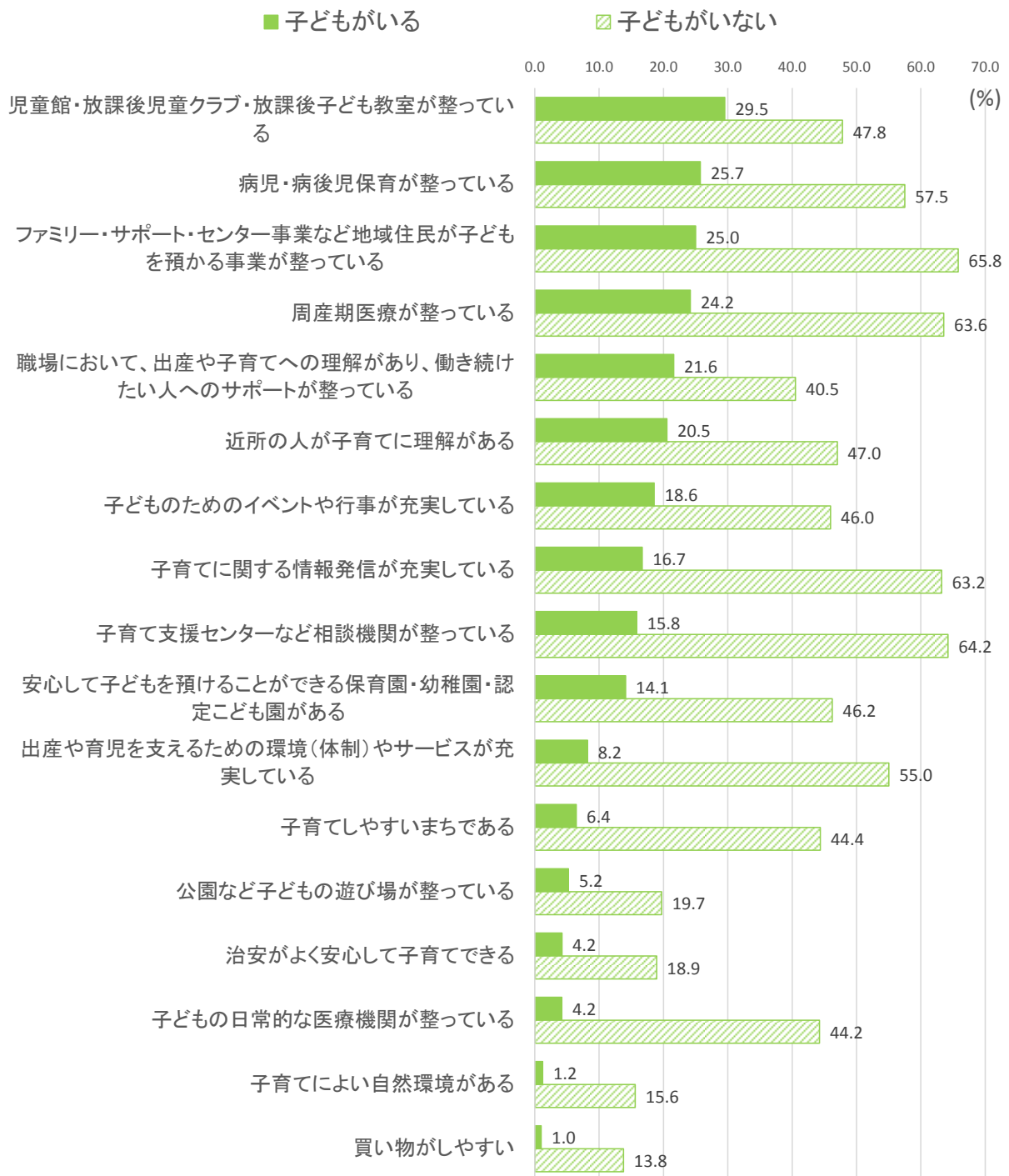
図表 92 子どもの有無別 松本市の子育て環境の肯定的評価の割合の比較

※肯定的評価「そう思う」「ややそう思う」の回答割合



- 子どもの有無別に「わからない」という回答保留の割合をみると、子どもがいる人で回答保留が多い項目は「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の整備」「病児・病後児保育」「ファミリー・サポート・センター事業」「周産期医療」「職場のサポート」「近所の理解」である。
- 子どもがいない人は生活環境関連の項目を除いては、多くの項目で回答保留の割合が高い。

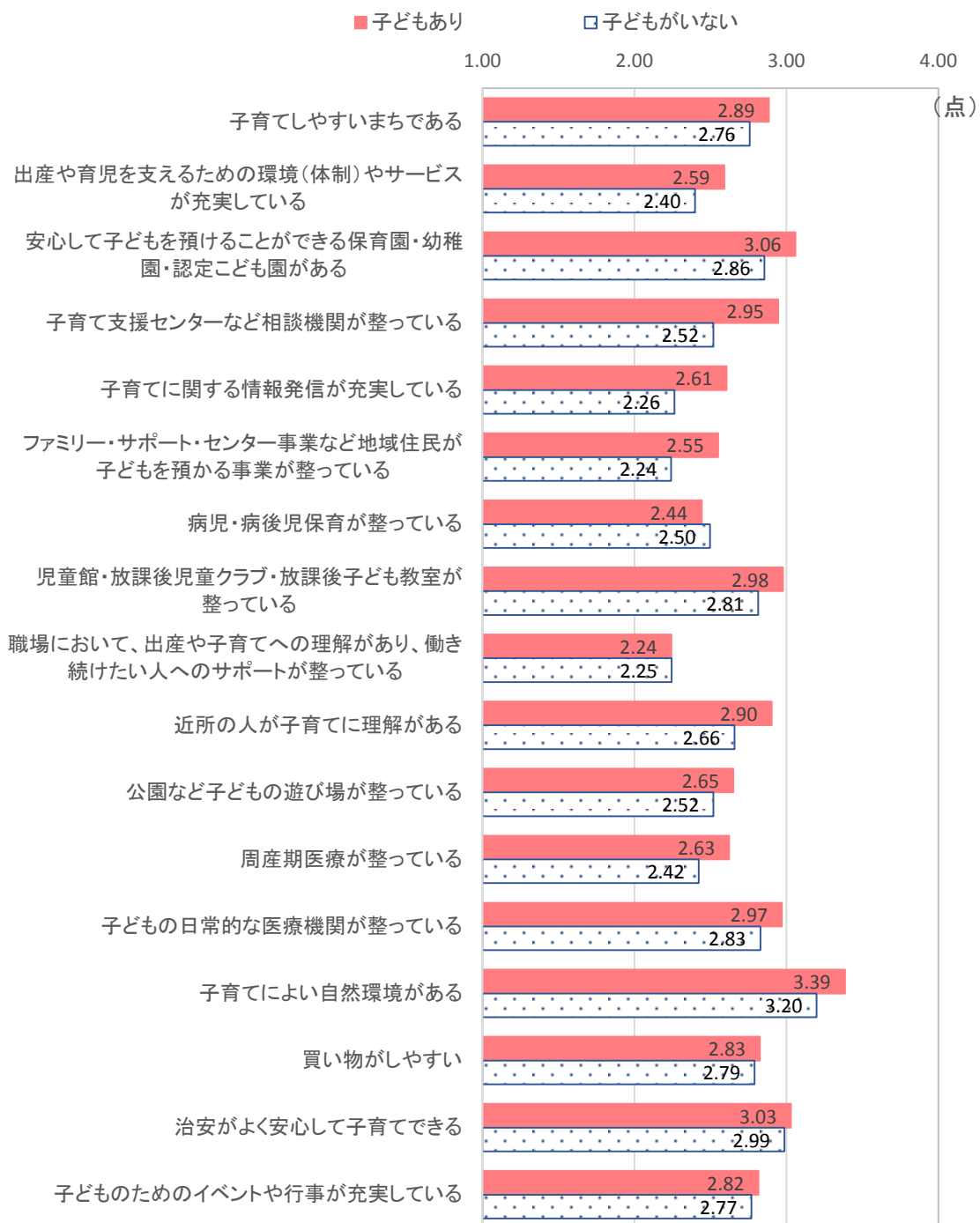
図表 93 子どもの有無別 松本市の子育て環境の回答保留（「わからない」の割合）の割合の比較



- 図表 94 は子どもの有無別に松本市の子育て環境の評価を比較するため、平均点化したものである。子どもがいる人で、中央値 2.5 点を下回るのは「病児・病後児保育」「職場のサポート」である。

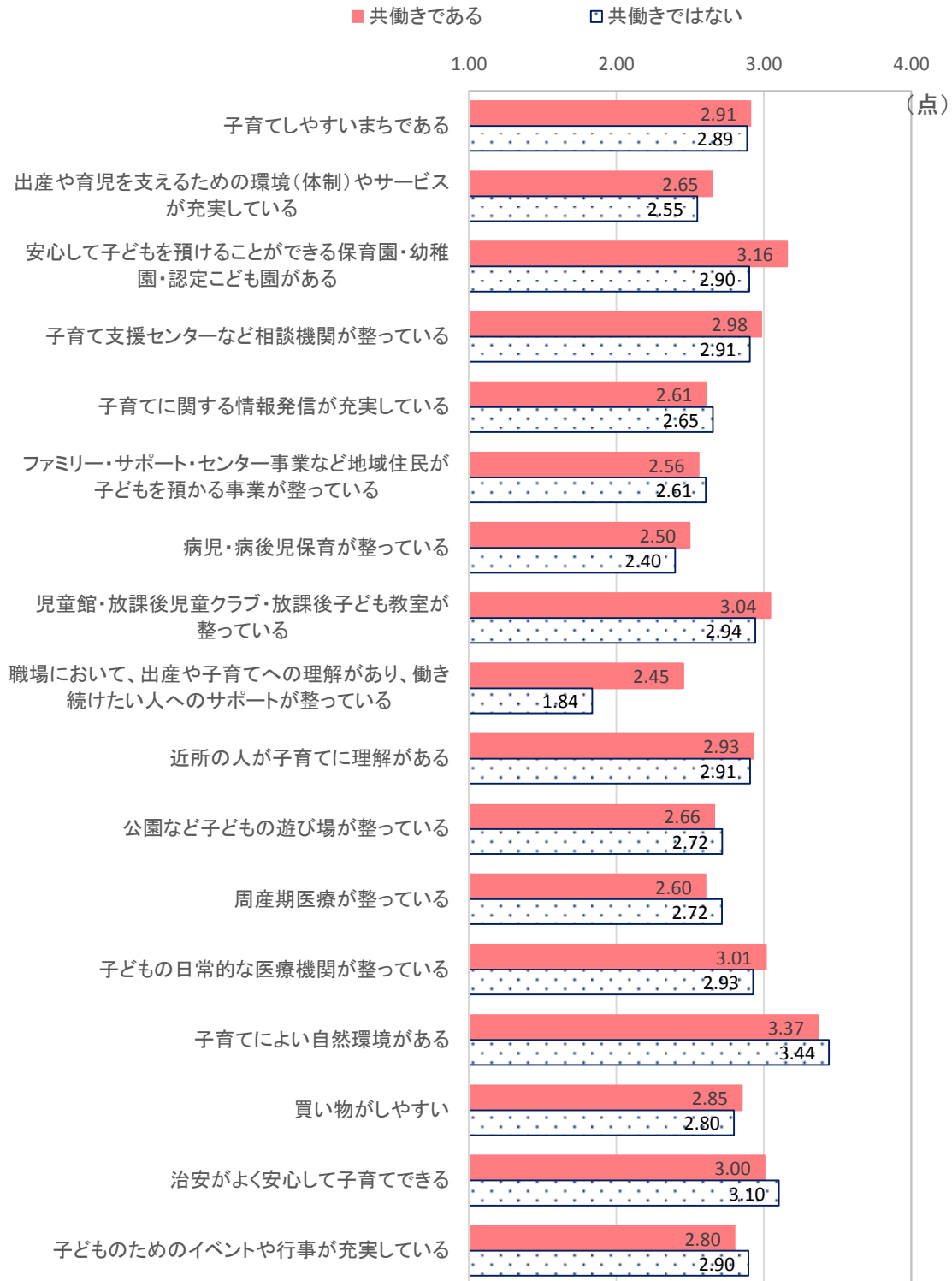
※平均点化にあたっては、判断の保留を意味する「わからない」や「無回答」が評価に影響を与えないように、集計からは除外している。

図表 94 子どもの有無別 松本市の子育て環境の平均点での比較



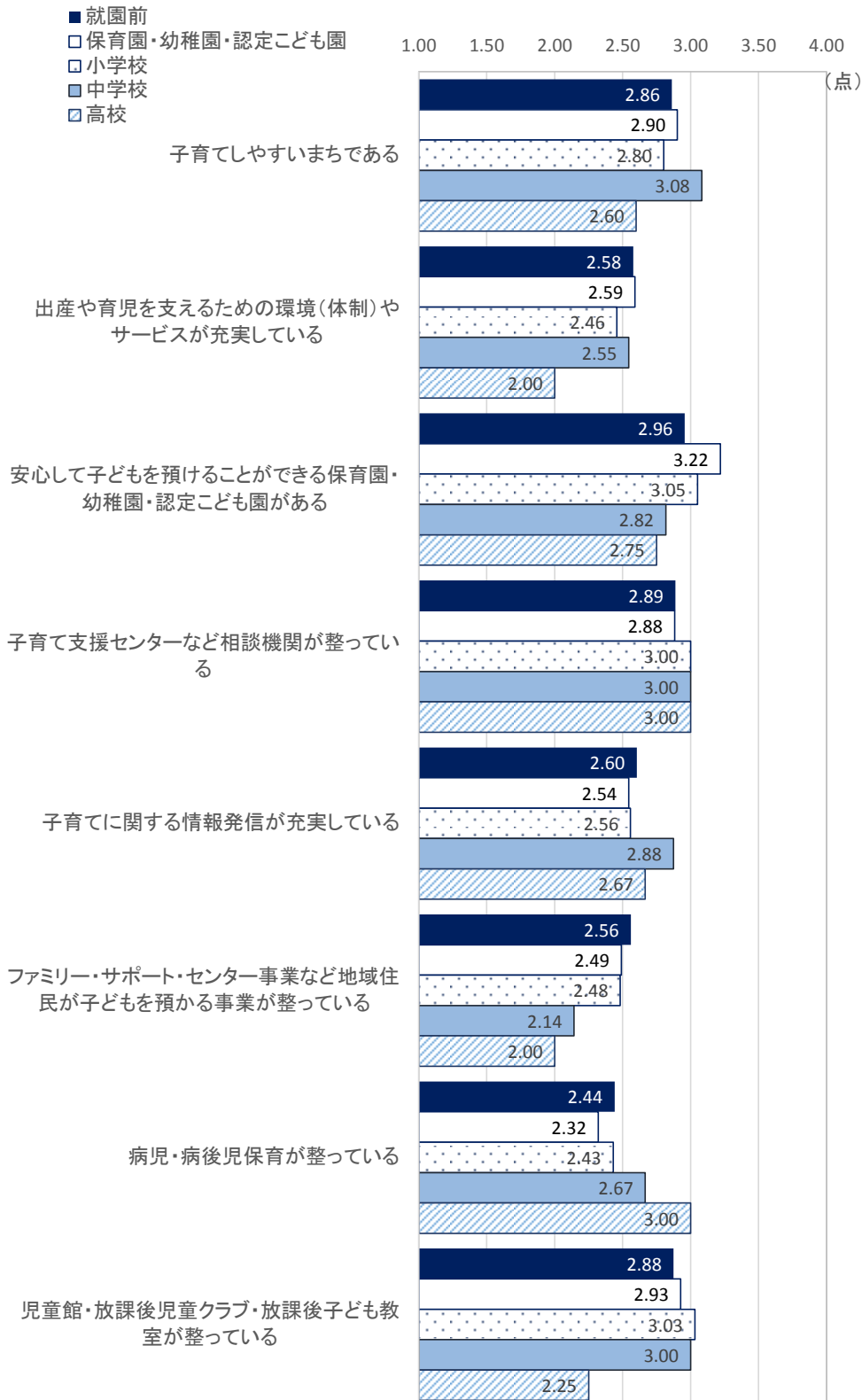
- 子どもがいる人の共働きの状況別でみると、共働きの状況で評価の傾向に違いがあるのは「職場におけるサポート」であり、共働きをしている人の方が、評価が高くなっている。

図表 95 【お子さんがいる方】共働きの状況別 松本市の子育て環境の平均点での比較

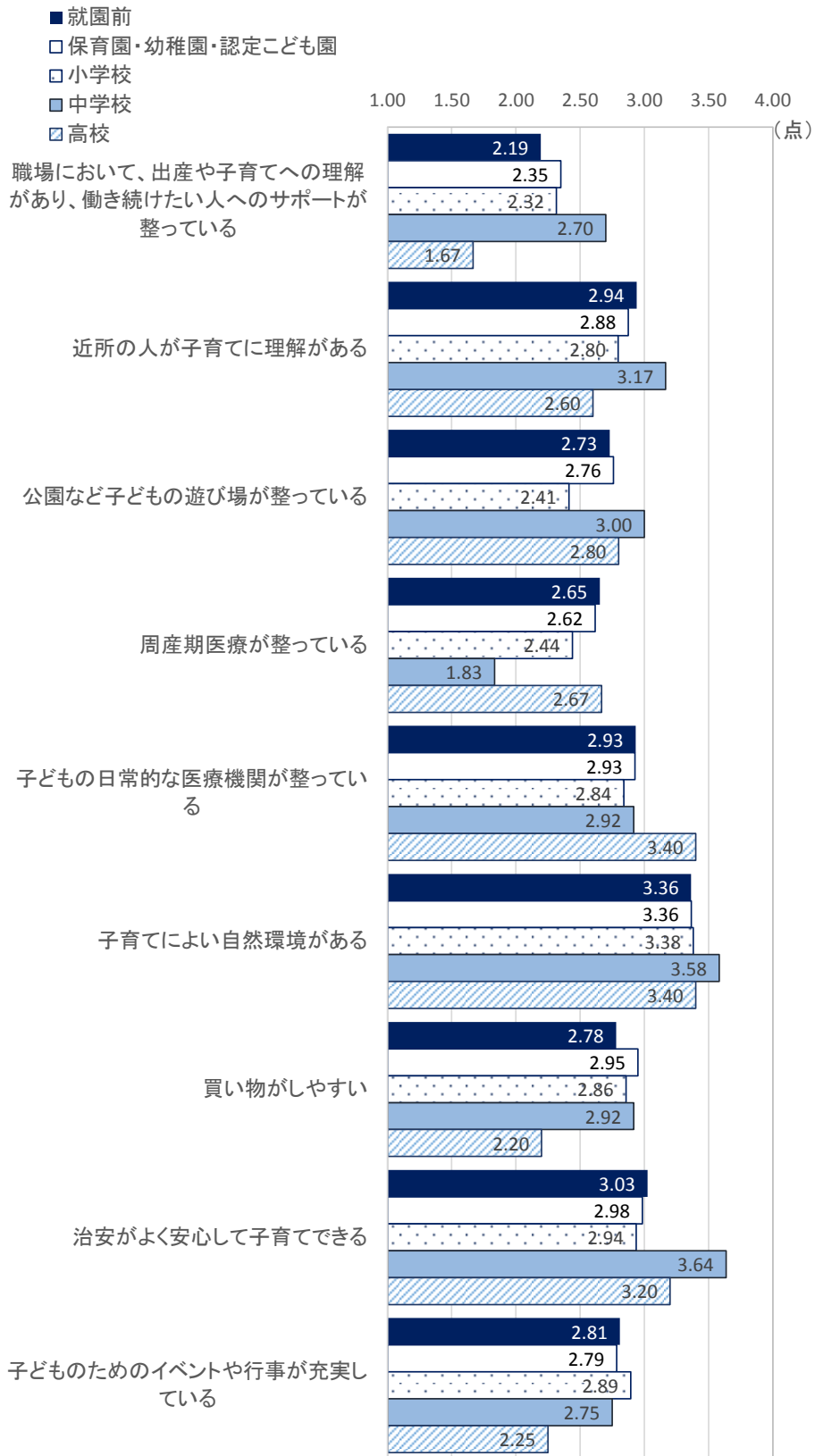


- 子どもの就園・就学の状況別では中学校、高校に通う子どもがいる人はサンプル数が少なく、参考値とする。
- 子どもの就園・就学の状況別にみると、保育園・幼稚園・認定こども園の子どもを持つ親で、保育園・幼稚園・認定こども園の評価が高い。

図表 96 【お子さんがいる方】子どもの就園・就学の状況別 松本市の子育て環境の平均点での比較



図表 97 【お子さんがいる方】子どもの就園・就学別 松本市の子育て環境の平均点での比較



第3節 松本への移住の決め手

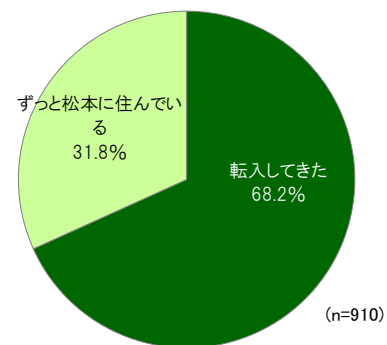
1. 移住者の転入のきっかけ・想い

(1) 転入のきっかけ

- 転入経験がある人の割合は68.2%である。転入してきた理由としては「転勤」「就職」「転職」など、仕事の関係で転入してきた人が多い。次いで「結婚」であり17.5%である。

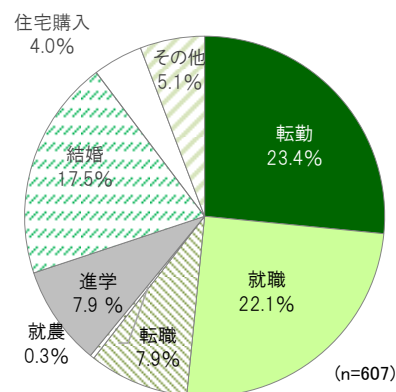
図表 98 転入経験

	度数 (人)	割合 (%)
転入してきた	621	68.2
ずっと松本に住んでいる	289	31.8
合計	910	100.0



図表 99 【転入してきた方】転入理由

	度数 (人)	割合 (%)
転勤	142	23.4
就職	134	22.1
転職	48	7.9
就農	2	0.3
進学	48	7.9
結婚	106	17.5
住宅購入	24	4.0
その他	31	5.1
合計	607	100.0

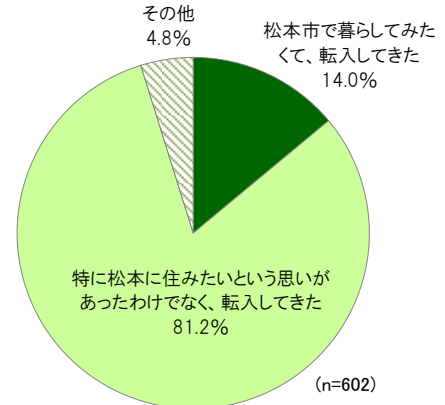


(2) 転入時の想いと松本に感じた魅力

- 転入時の想いとしては、81.2%の若者が「特に松本に住みたいという思いがあったわけではなく、転入してきた」と回答している。仕事や結婚、進学などが理由である。
- 「松本市で暮らしてみたくて、転入してきた」と回答した人は14.0%である。その理由としては「まちの規模がちょうどよい」という回答の割合が高く、次いで「自然に恵まれている」「空気や水がきれい」「風景がきれい」といった自然環境の良さに関する項目が上位にきている。

図表 100 【転入してきた方】転入時の想いとして近いもの

	度数 (人)	割合 (%)
松本市で暮らしてみたくて、転入してきた	84	14.0
特に松本に住みたいという思いがあったわけではなく、転入してきた	489	81.2
その他	29	4.8
合計	602	100.0



図表 101 【松本市で暮らしてみたくて転入してきた方】松本にどんなところを魅力に感じたか (複数回答)



	度数 (人)	割合 (%)
まちの規模がちょうどよい	45	54.2
自然に恵まれている	43	51.8
空気や水がきれい	38	45.8
風景が美しい	36	43.4
まちなみが魅力的	31	37.3
買物がしやすい	24	28.9
首都圏へのアクセスがよい	17	20.5
山登りやスキーなどの趣味がしやすい	14	16.9
文化芸術活動がさかん	12	14.5
子育て環境がよい	10	12.0
その他	10	12.0
教育環境がよい	8	9.6
災害が少ない	7	8.4
魅力的な催しが多い	6	7.2
特にない	1	1.2

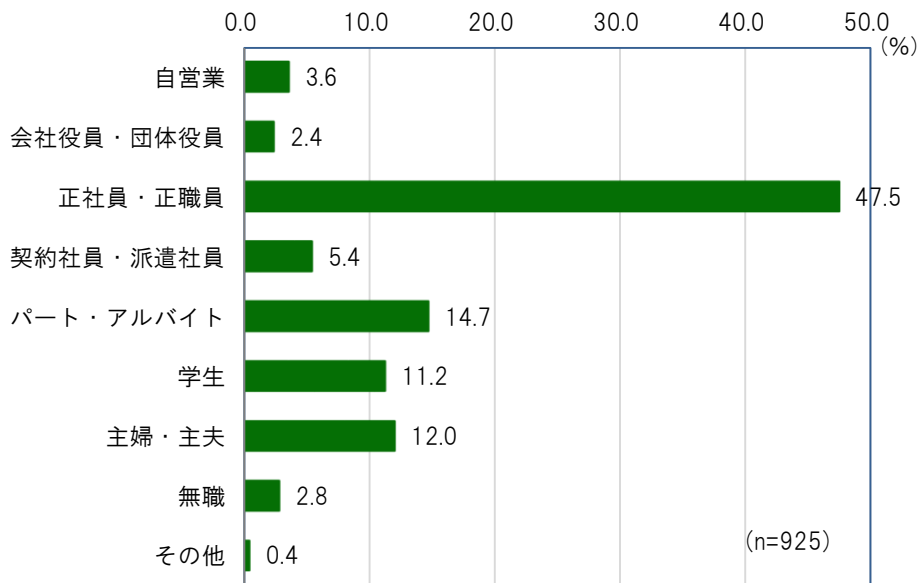
第4節 若者の仕事の状況～松本で暮らしながら働く環境

1. 松本で暮らしながら働く環境

(1) 現在の就労状況

- 回答者の就業形態としては、何らかの就労をしている人が73.6%、就労していない人が26.4%である。就労している人では「正社員・正職員」が多い。

図表 102 現在の就業形態



	度数 (人)	割合 (%)
自営業	33	3.6
会社役員・団体役員	22	2.4
正社員・正職員	439	47.5
契約社員・派遣社員	50	5.4
パート・アルバイト	136	14.7
学生	104	11.2
主婦・主夫	111	12.0
無職	26	2.8
その他	4	0.4
合計	925	100.0

就労している方
73.6%

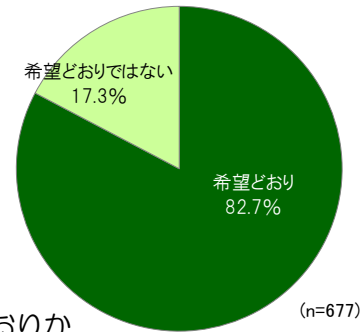
就労していない
方・その他 26.4%

(2) 就労している人の状況

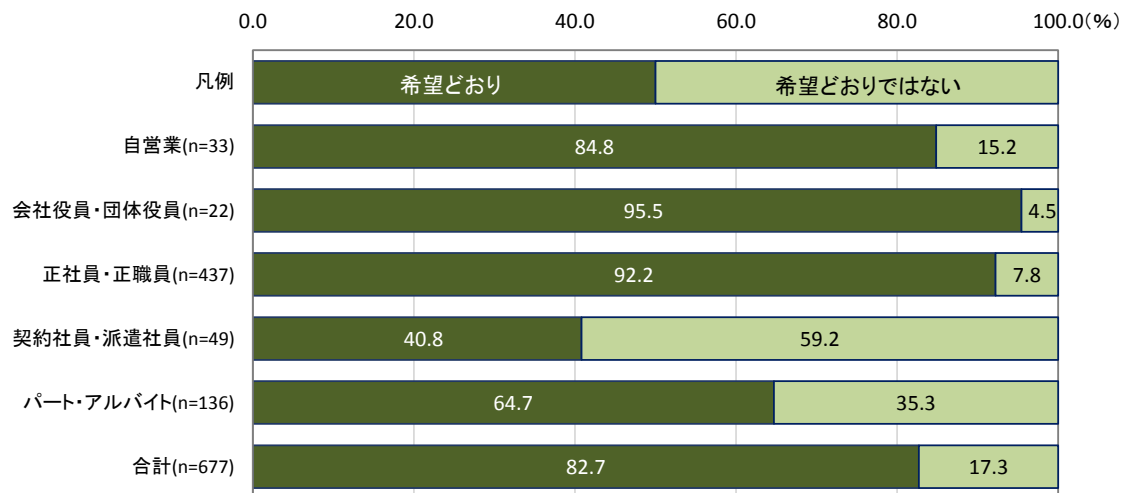
- 就労している人のうち、82.7%は「希望どおり」であり、17.3%は「希望どおりではない」と回答している。現在の就業形態別にみると契約社員・派遣社員やパート・アルバイトで「希望どおりではない」という回答割合が高い。
- 就業形態が希望どおりではない人が希望する就業形態をみると、現在、正社員・正職員の人では「自営業」、契約社員・派遣社員やパート・アルバイトの人では「正社員・正職員」が多い。

図表 103 【就労している方】現在の就業形態は希望どおりか

	度数 (人)	割合 (%)
希望どおり	560	82.7
希望どおりではない	117	17.3
合計	677	100.0

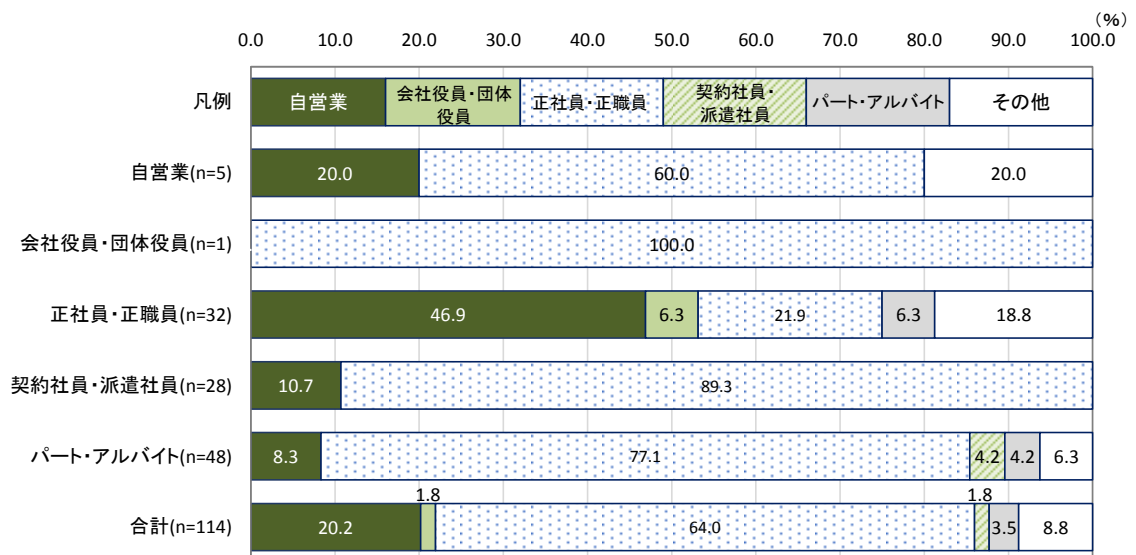


図表 104 【就労している方】就業形態別 現在の就業形態は希望どおりか



図表 105 【就労しており、現在の就業形態が希望どおりでない方】

現在の就業形態別 希望する就業形態

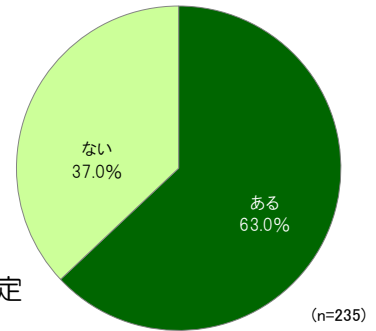


(3) 就労していない人の状況

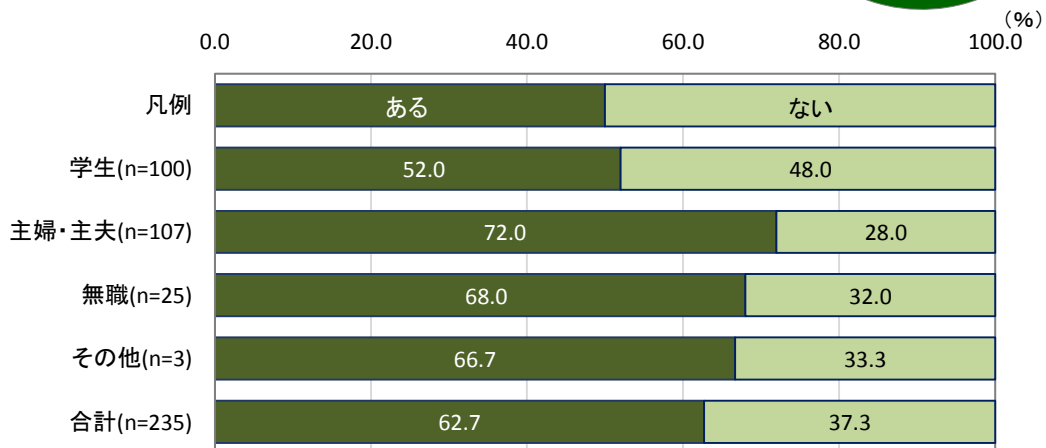
- 就労していない人のうち、松本近郊で仕事に就く予定がある人は63.0%である。就業形態別にみると、学生で予定が「ない」という割合が高い。
- 松本近郊での就労予定がある人のうち、能力を活かし、やりがいを持って働ける企業があるかを聞いたところ、「ある」人は28.1%である。「調べたが、わからない」「調べていないので、わからない」など、わからない人の割合は67.8%である。

図表 106 【就労していない方】松本近郊で仕事に就く予定

	度数 (人)	割合 (%)
ある	148	63.0
ない	87	37.0
合計	235	100.0

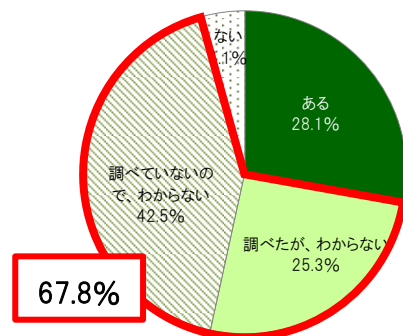


図表 107 【就労していない方】就業形態別 松本近郊で仕事に就く予定

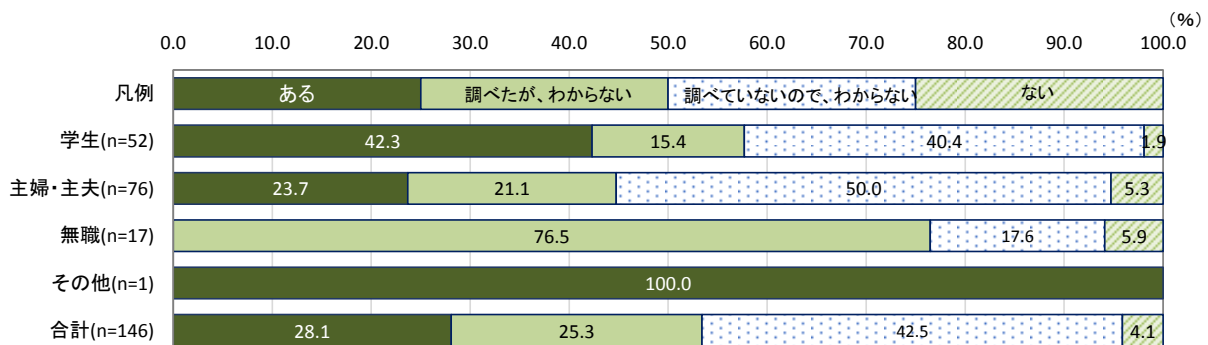


図表 108 【松本で就労予定の方】能力を活かし、やりがいを持って働ける企業の有無

	度数 (人)	割合 (%)
ある	41	28.1
調べたが、わからない	37	25.3
調べていないので、わからない	62	42.5
ない	6	4.1
合計	146	100.0



図表 109 【松本で就労予定の方】就業形態別 能力を活かし、やりがいを持って働ける企業の有無

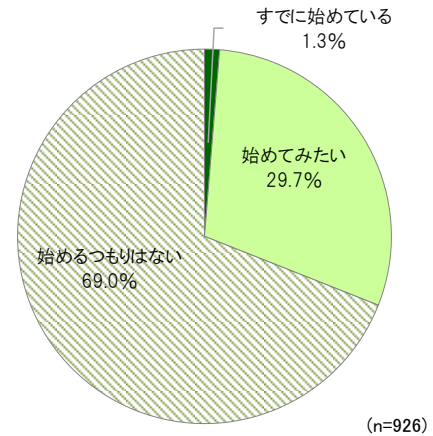


(4) 在宅ワークや仕事に活かせる知識・技術・資格の講座等への参加意向

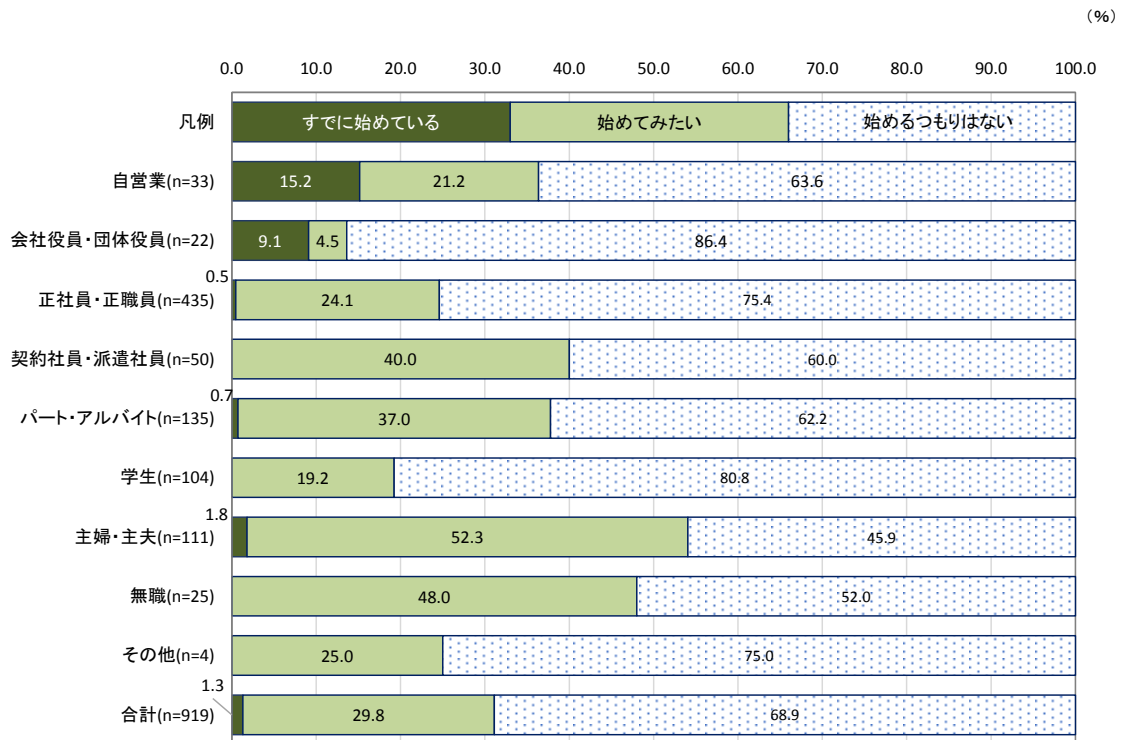
- テレワークなど在宅での仕事のニーズとしては「始めてみたい」の割合は29.7%である。就業形態別にみると「主婦・主夫」で「始めてみたい」という回答割合が5割を越えている。

図表 110 テレワークなど在宅での仕事を始めたいか

	度数 (人)	割合 (%)
すでに始めている	12	1.3
始めてみたい	275	29.7
始めるつもりはない	639	69.0
合計	926	100.0

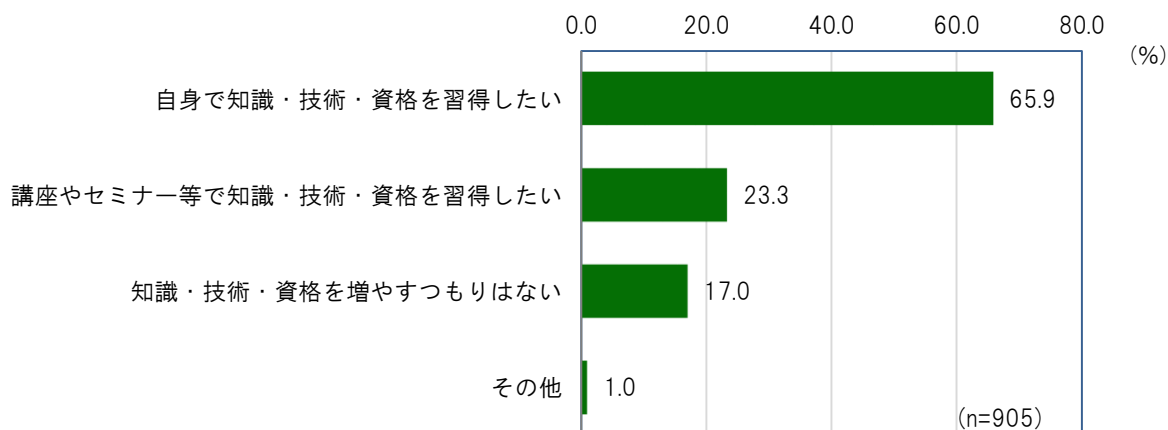


図表 111 就業形態別 テレワークなど在宅での仕事を始めたいか



- 仕事に活かせる知識・技術・資格の習得に関しては、「自身で」という人が多いが、23.3%は講座やセミナー等で習得したいという意向を持っている。
- 習得したい知識・技術・資格としては、「医療・福祉」関連が最も多い。

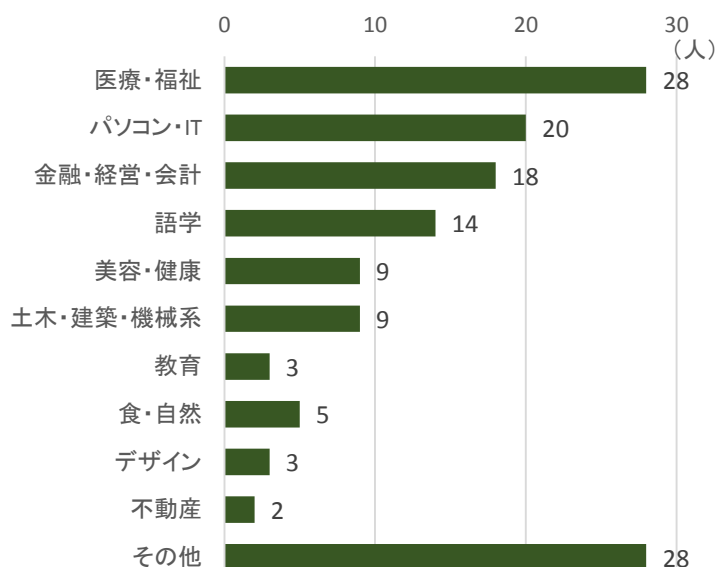
図表 112 仕事に活かせる知識・技術・資格を習得したいか（複数回答）



	度数 (人)	割合 (%)
自身で知識・技術・資格を習得したい	596	65.9
講座やセミナー等で知識・技術・資格を習得したい	211	23.3
知識・技術・資格を増やすつもりはない	154	17.0
その他	9	1.0

図表 113 講座やセミナー等で習得したい知識・技術・資格の具体例（自由記述）

	人数	割合
医療・福祉	28	23.1%
パソコン・IT	20	16.5%
金融・経営・会計	18	14.9%
語学	14	11.6%
美容・健康	9	7.4%
土木・建築・機械系	9	7.4%
教育	3	2.5%
食・自然	5	4.1%
デザイン	3	2.5%
不動産	2	1.7%
その他	28	23.1%



※121人が回答した記述を分類したものである

第5節 若者と地域コミュニティ、人とのつながりの状況・意向

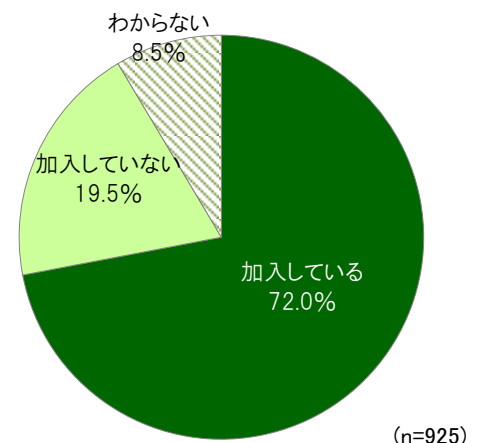
1. 若者の町会など地区活動やご近所との付き合いの状況・意向

(1) 町会への加入状況・活動の認知状況・活動状況

- 町会に加入しているのは全体では72.0%であった。松本市全体の町会加入率は78.86%であり、やや低い。
- 住まいのタイプ別にみると戸建て住宅と持ち家（マンション）で加入率が高い。一方、借家（マンション・アパート）や社宅（マンション・アパート）は加入率が3～4割と低い。

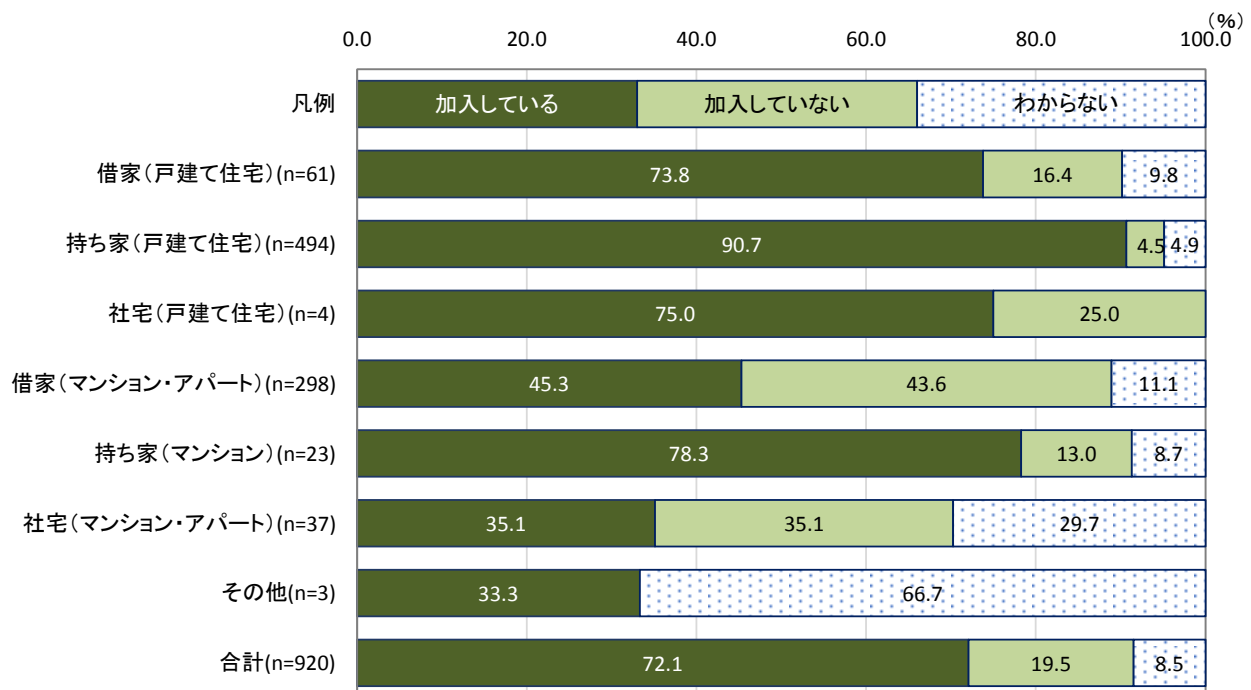
図表 114 町会への加入

	度数（人）	割合（%）
加入している	666	72.0
加入していない	180	19.5
わからない	79	8.5
合計	925	100.0



松本市の町会加入率 78.86%
平成 29 年 4 月

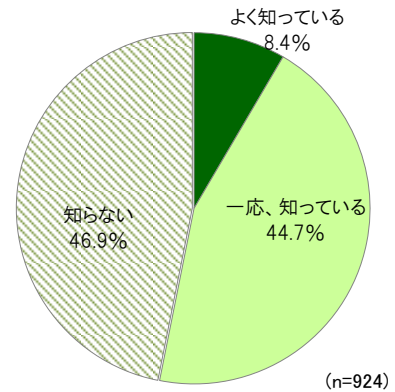
図表 115 住まいのタイプ別 町会への加入状況



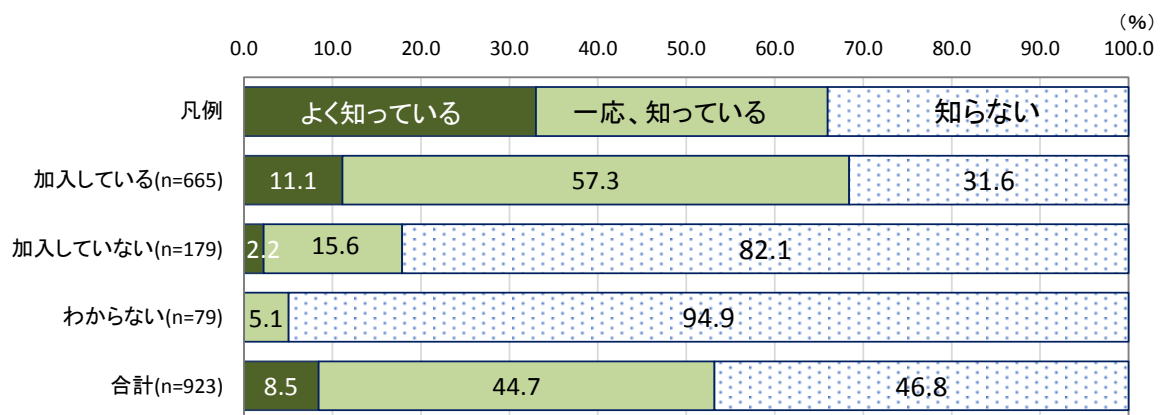
- 町会の活動の認知度をみると、全体では「よく知っている」は 8.4%に留まり、「知らない」が 46.9%である。
- 町会の加入状況別にみると、加入している人でも 31.6%が「知らない」と回答している。
- 住まいのタイプ別にみると、マンション・アパート居住者は「知らない」という回答割合が高い。

図表 116 町会活動の認知状況

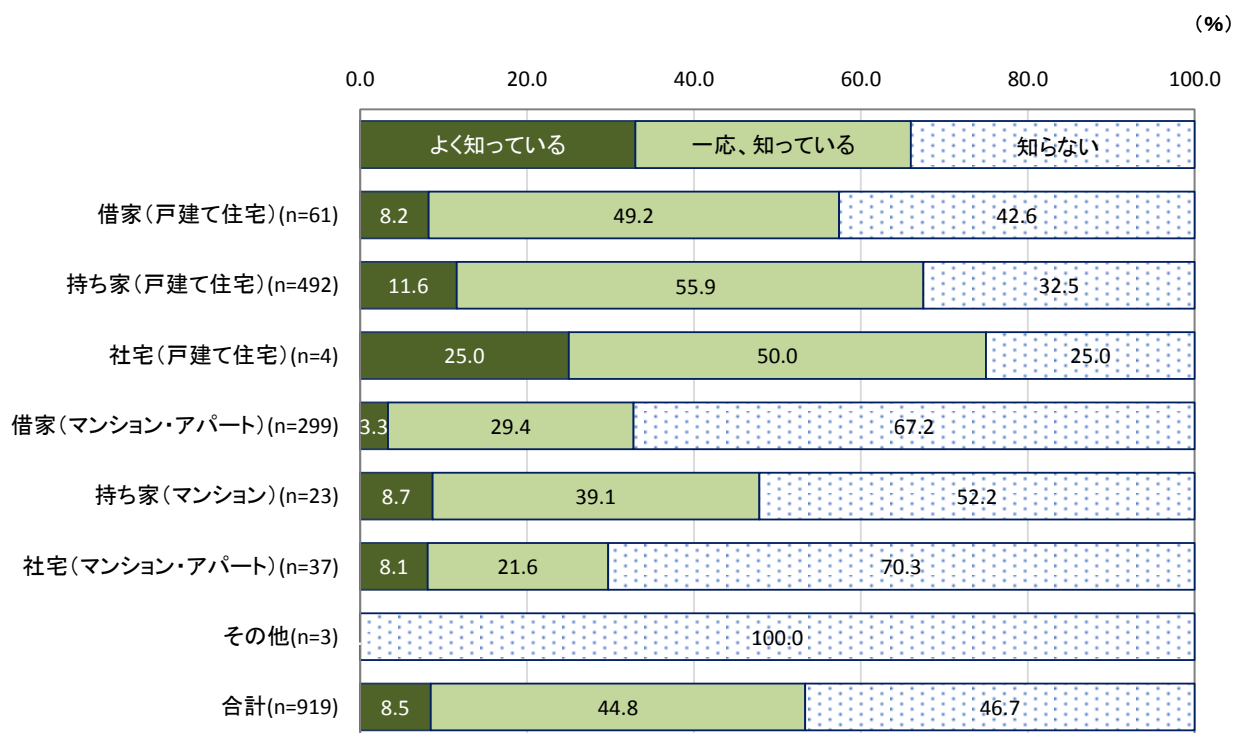
	度数 (人)	割合 (%)
よく知っている	78	8.4
一応、知っている	413	44.7
知らない	433	46.9
合計	924	100.0



図表 117 町会加入状況別 町会活動の認知状況



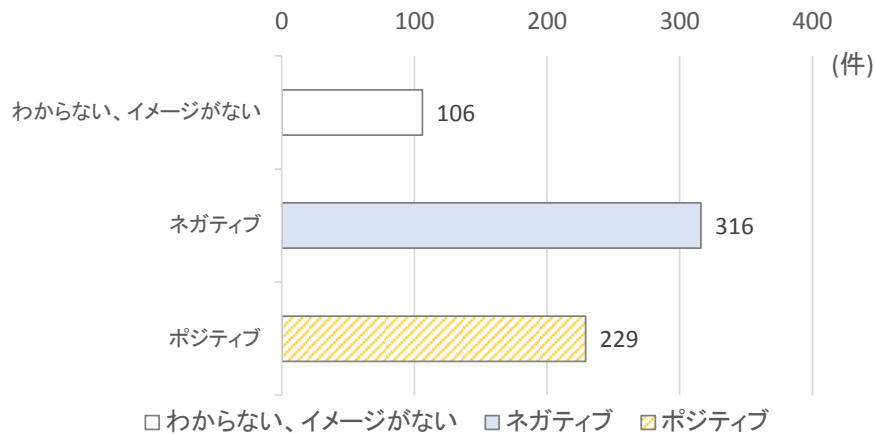
図表 118 住まいのタイプ別 町会活動の認知状況



- 527 人の若者から町会のイメージについて回答があった。そのうち、「イメージがない、わからない」という記述は 2 割であった。「面倒・大変・役員の負担が大変」「高齢者が多い・古い・旧態依然」などネガティブな意見が多かった。一方、「交流の場」など、ポジティブな意見もあった。

図表 119 町会のイメージ（自由記述）

※自由記述の意見を分類したものである。回答者 1 人で、ポジティブな意見とネガティブな意見をあげている場合は、それぞれカウントしている。527 人が回答した記述を分類したものである

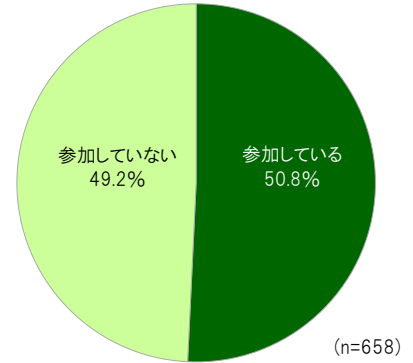


	主な意見	回答件数	割合
—	・イメージがない、よくわからない	106	20.1%
ネガティブ	・参加が面倒 ・役員の負担が重い	125	23.7%
	・高齢者が多く、集まっている ・古くさい、旧態依然	121	23.0%
	・参加しづらい、活発ではない ・閉ざされたコミュニティ、排他的	22	4.2%
	・会費が高い	20	3.8%
	・付き合いが大変そう	19	3.6%
	・必要性が低い	9	1.7%
	ポジティブ	・親切・活発・協力的・良い・情報交換・助け合い、交流の場	106
・色々なイベントがある		52	9.9%
・ゴミ当番、掃除がある		22	4.2%
・いざというときのコミュニティ ・防犯・災害		14	2.7%
・子どもの活動の場		14	2.7%
—	その他	21	4.0%

- 町会に加入していると回答した人のうち、町会活動に参加している人は50.8%であった。
- 今後の町会活動への参加意向をみると、「参加したい」と回答した人は33.4%である。
- 町会活動参加状況別にみると、参加している人の71.7%は続ける意向がある。参加していない人では13.2%が今後、新たに参加したいという意向を示している。

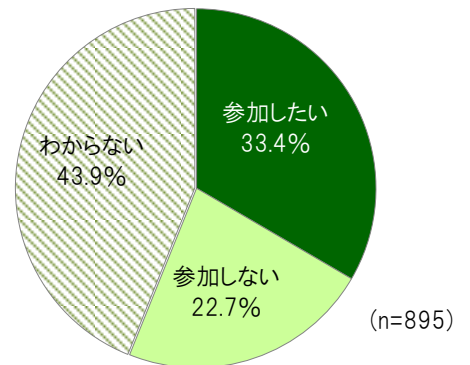
図表 120 【町会に加入している方】町会活動への参加状況

	度数 (人)	割合 (%)
参加している	334	50.8
参加していない	324	49.2
合計	658	100.0

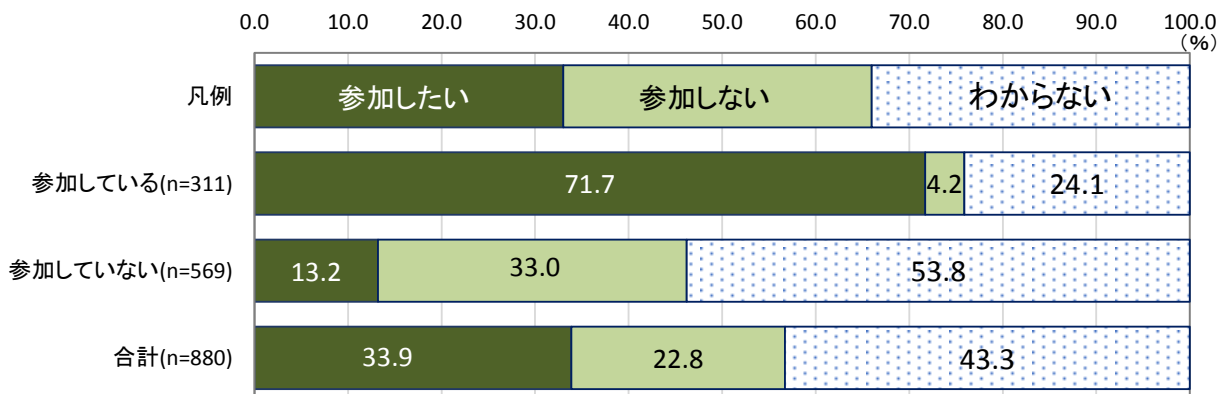


図表 121 町会活動への今後の参加意向

	度数 (人)	割合 (%)
参加したい	299	33.4
参加しない	203	22.7
わからない	393	43.9
合計	895	100.0



図表 122 町会活動への参加状況別 町会活動への今後の参加意向

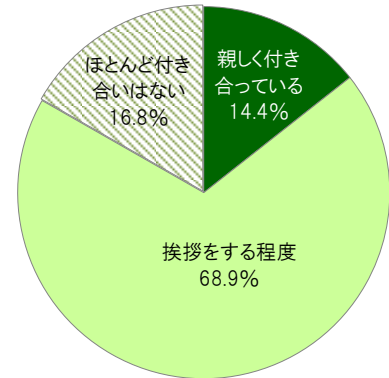


(2) ご近所付き合いの状況・意向

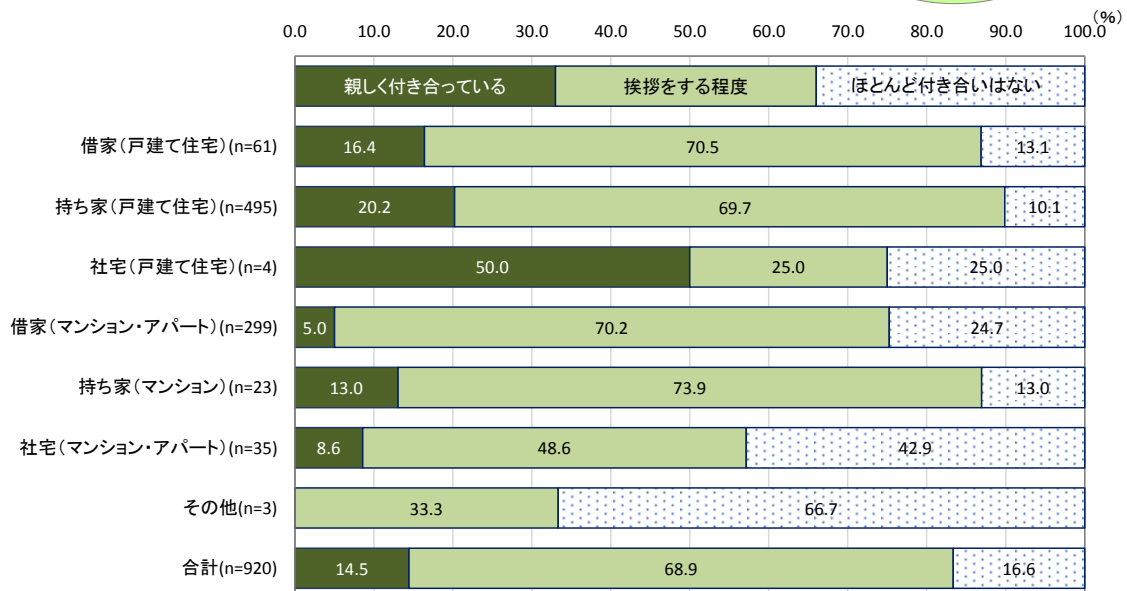
- ご近所付き合いの状況を見ると、「親しく付き合っている」と回答した人の割合は 14.4%であり、68.9%が「挨拶をする程度」である。
- 住まいのタイプ別にみると、戸建て住宅に住んでいる人の方が「親しく付き合っている」傾向にある。定住意向別にみると「松本で住み続けるつもりはない」と回答した人は「ほとんど付き合いはない」の回答割合が他と比べて高い。

図表 123 ご近所付き合いの状況

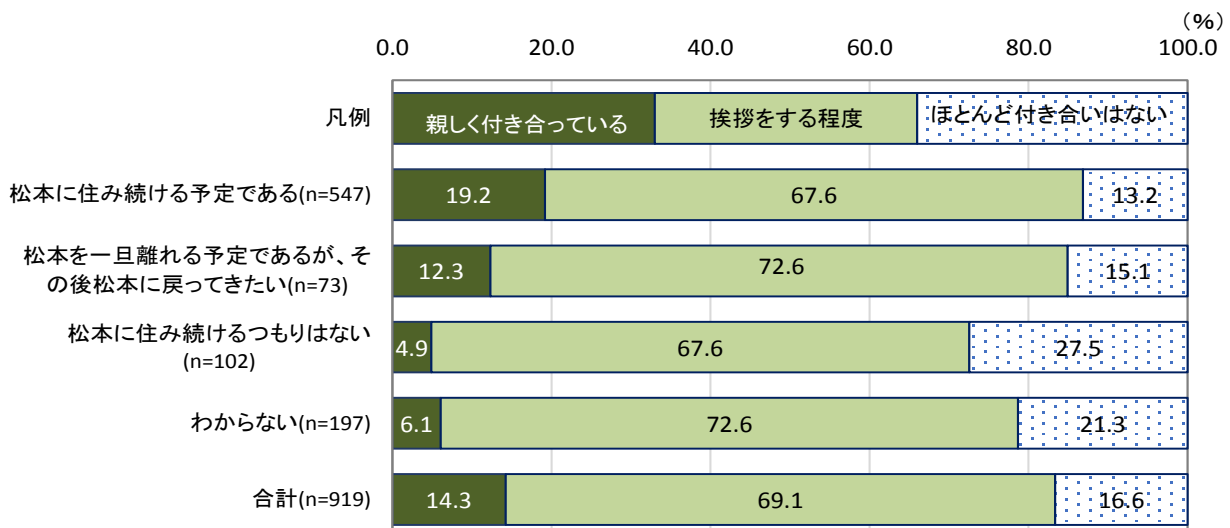
	度数 (人)	割合 (%)
親しく付き合っている	133	14.4
挨拶をする程度	637	68.9
ほとんど付き合いはない	155	16.8
合計	925	100.0



図表 124 住まいのタイプ別 ご近所付き合いの状況



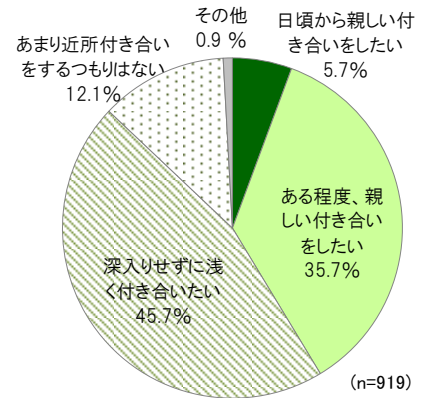
図表 125 定住意向別 ご近所付き合いの状況



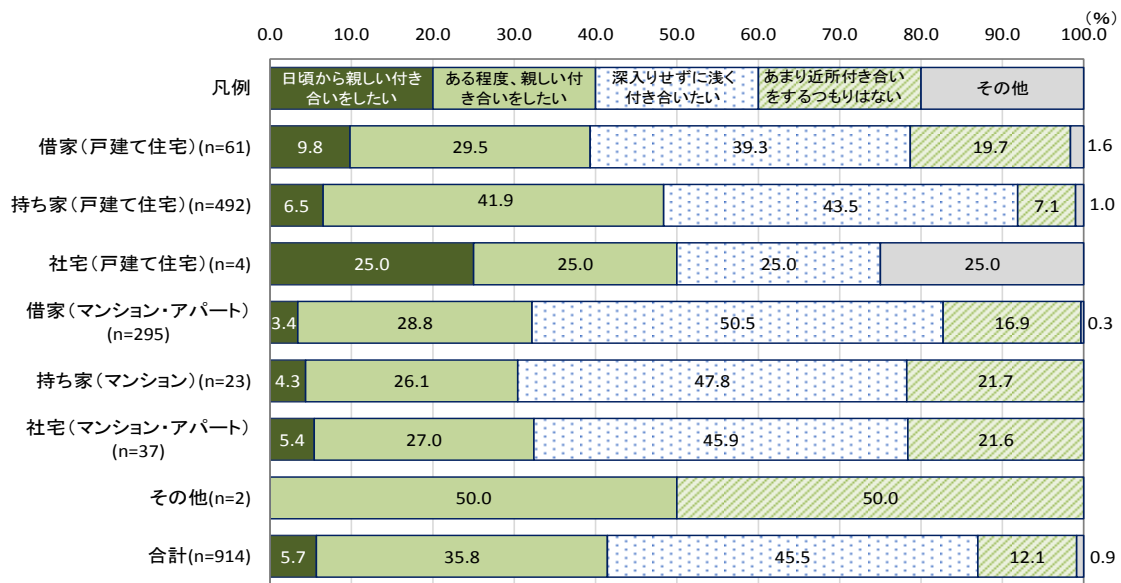
- 今後のご近所付き合いの仕方としては「日頃から親しい付き合いをしたい」は 5.7%とわずかである。最も多いのは「深入りせずに浅く付き合いたい」であり、45.7%である。
- 住まいのタイプ別にみると、戸建て住宅居住者の方が「日頃から親しい付き合いをしたい」「ある程度、親しい付き合いをしたい」というご近所付き合いに好意的な人が多い。一方、マンション・アパート居住者は「深入りせずに浅く付き合いたい」の割合が高く、一定の距離を保ちたいと考えている人が多い。

図表 126 今後のご近所付き合いの仕方

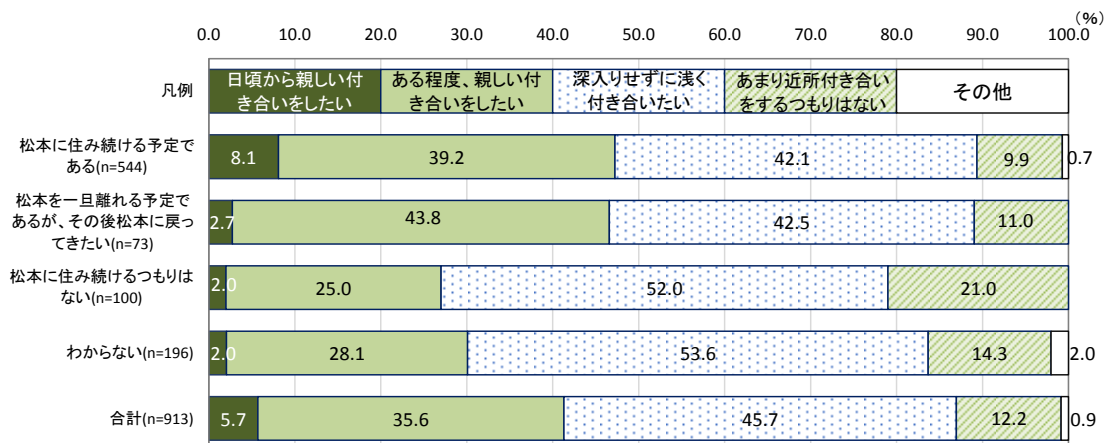
	度数 (人)	割合 (%)
日頃から親しい付き合いをしたい	52	5.7
ある程度、親しい付き合いをしたい	328	35.7
深入りせずに浅く付き合いたい	420	45.7
あまり近所付き合いをするつもりはない	111	12.1
その他	8	0.9
合計	919	100.0



図表 127 住まいのタイプ別 今後のご近所付き合いの仕方



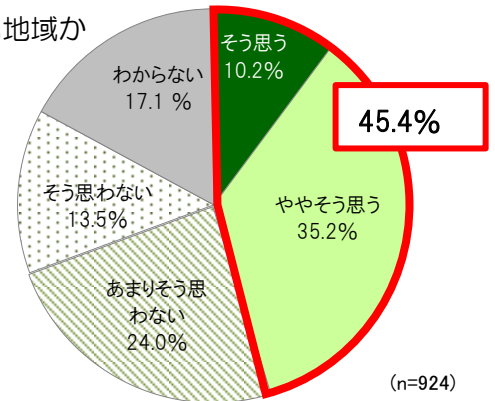
図表 128 定住意向別 今後のご近所付き合いの仕方



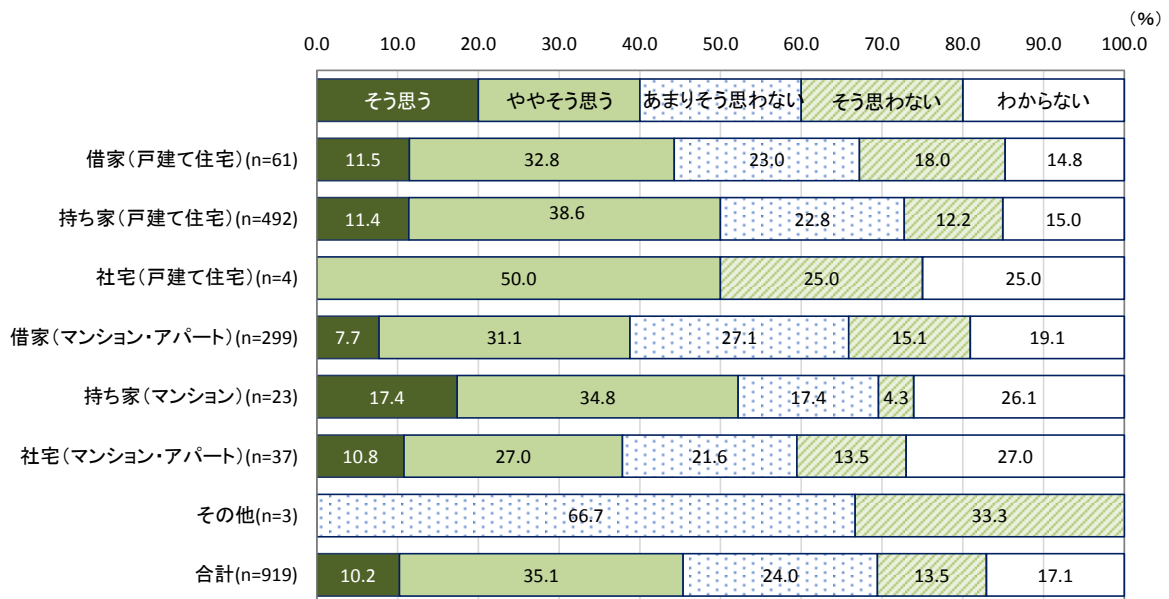
- 住んでいる地域が新しい人がとけこみやすい（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と感じている人の割合は45.4%である。
- 住まいのタイプ別にみると、借家（マンション・アパート）や社宅（マンション・アパート）に住んでいる人の方が、新しい人がとけこみやすいと感じている割合が低い。
- 定住意向別にみると、「松本に住み続けるつもりはない」や「わからない」と回答した人の方が、新しい人がとけこみやすいと感じている割合が低い。

図表 129 あなたの住んでいる地域は新しい人がとけこみやすい地域か

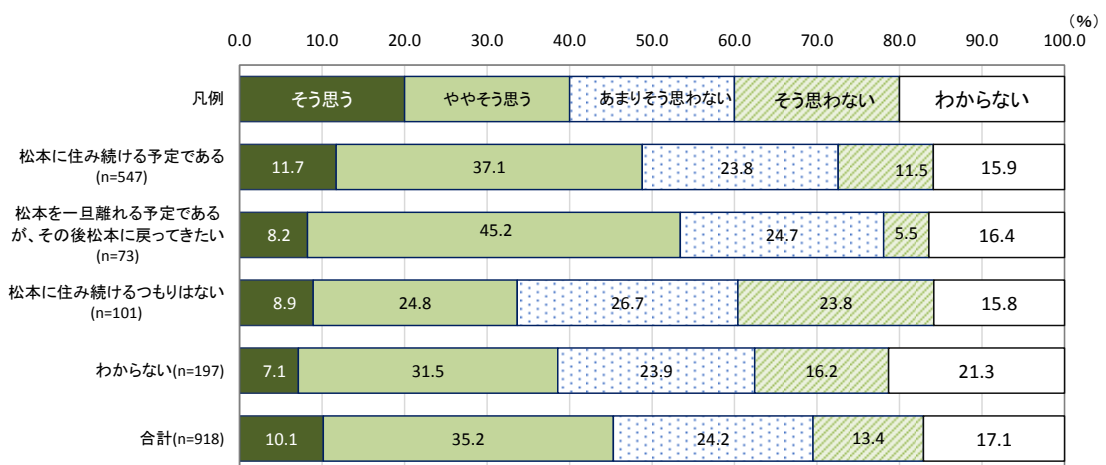
	度数（人）	割合（%）
そう思う	94	10.2
ややそう思う	325	35.2
あまりそう思わない	222	24.0
そう思わない	125	13.5
わからない	158	17.1
合計	924	100.0



図表 130 住まいのタイプ別 新しい人がとけこみやすい地域か



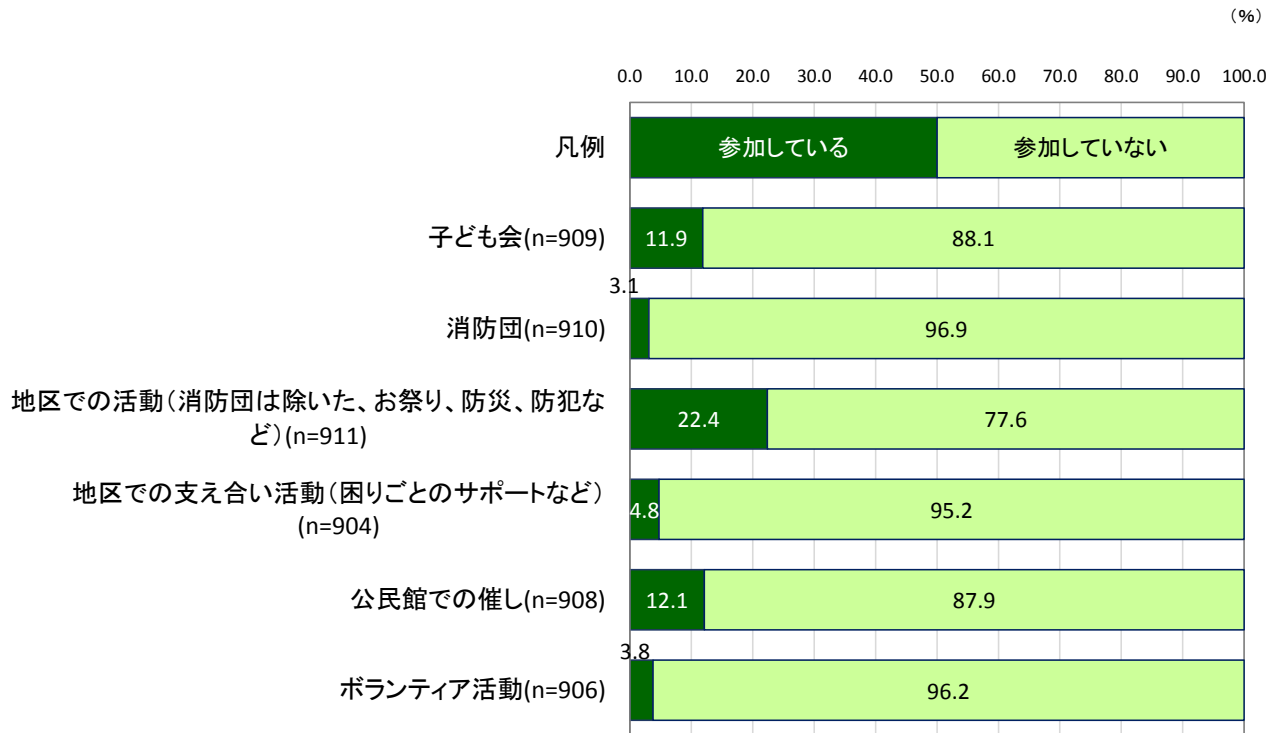
図表 131 定住意向別 新しい人がとけこみやすい地域か



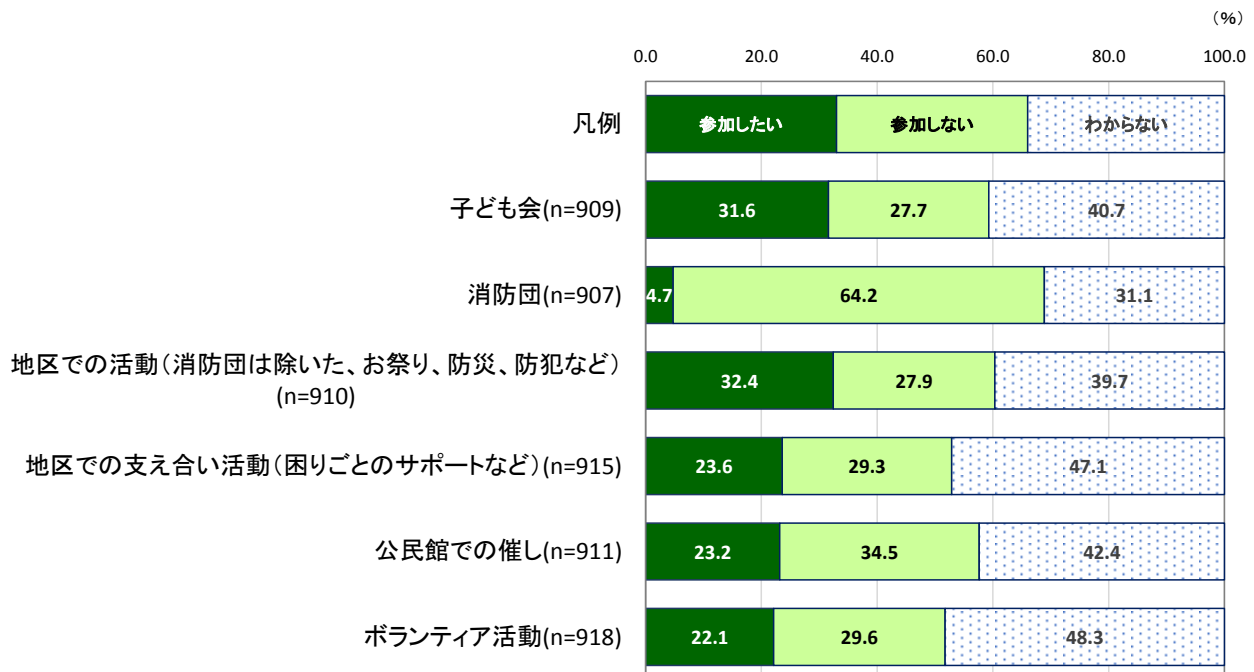
(3) 地域での活動状況・今後の意向

- 地域での活動状況をみると、「地区での活動」に参加している人の割合は 22.4%と最も高い。次いで「公民館での催し」で 12.1%である。
- 今後の地域での活動意向をみると、「地区での活動」に参加したい人の割合は 32.4%と最も高い。次いで「子ども会」が 31.6%である。

図表 132 現在の地域での活動状況

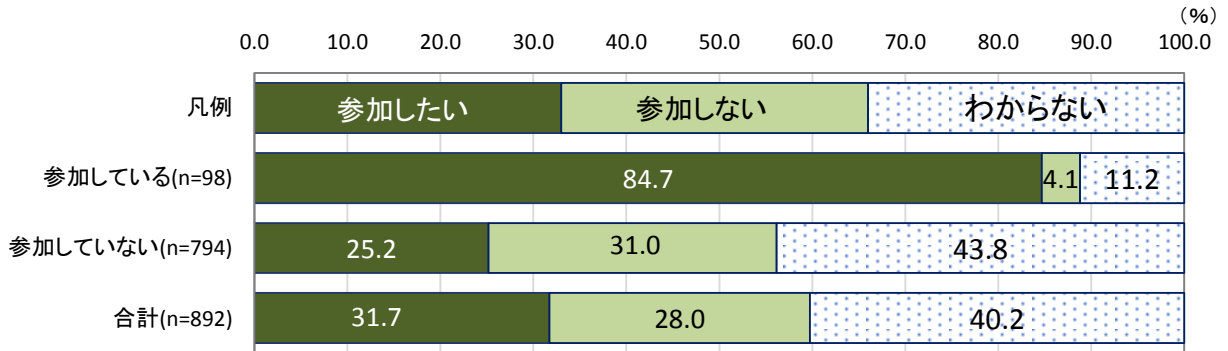


図表 133 今後の地域での活動意向

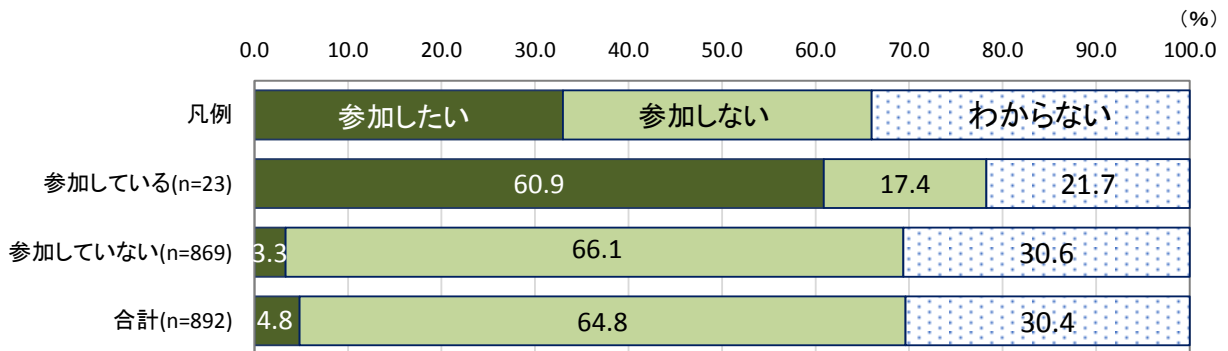


- 各地区活動への参加状況別に今後の参加意向をみると、参加している人は、引き続き参加する意向を持った人が多い。消防団は「参加しない」という人の割合が他の活動よりも高い。
- 現在参加しておらず、今後参加したい活動としては「子ども会」の回答割合が最も高い。

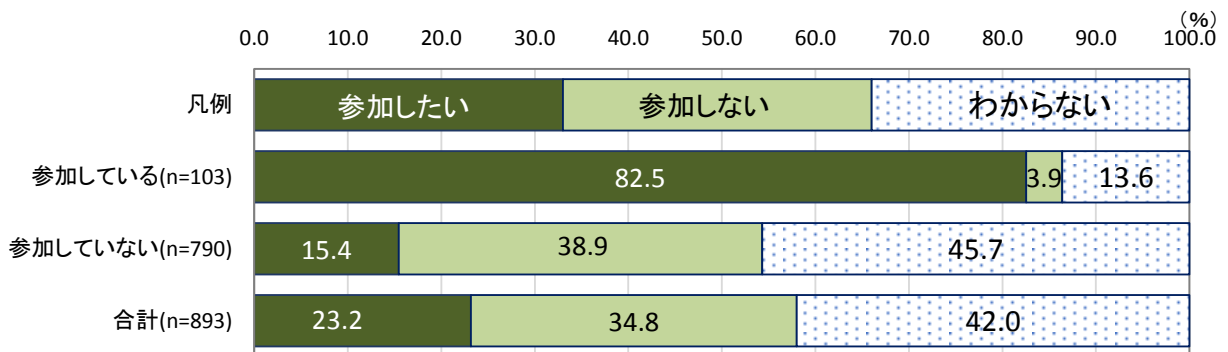
図表 134 子ども会の参加状況別 今後の子ども会活動への参加意向



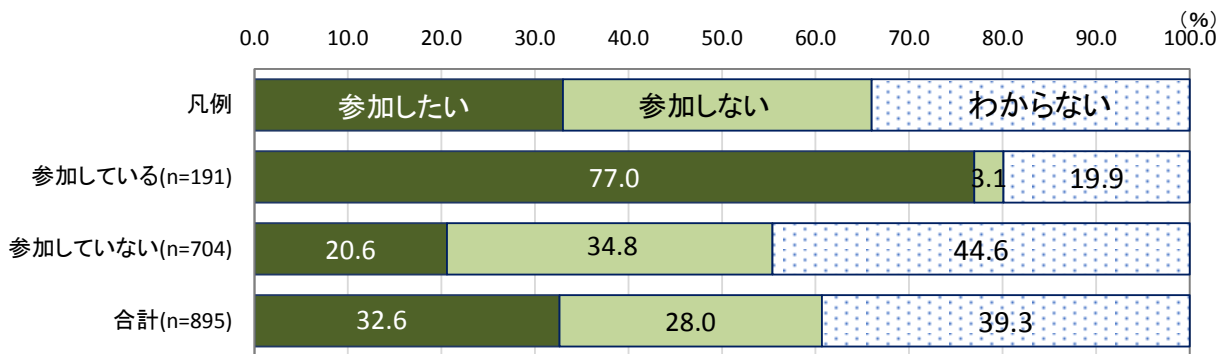
図表 135 消防団の参加状況別 今後の消防団活動への参加意向



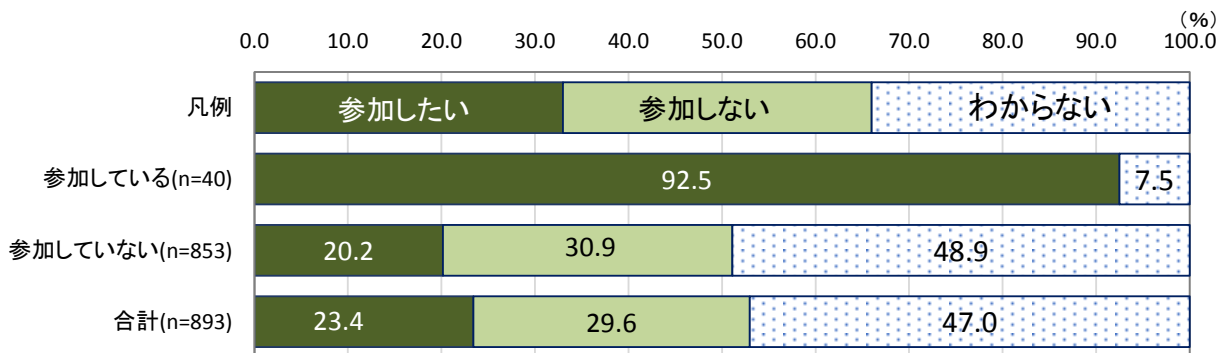
図表 136 公民館の催しの参加状況別 今後の公民館の催しへの参加意向



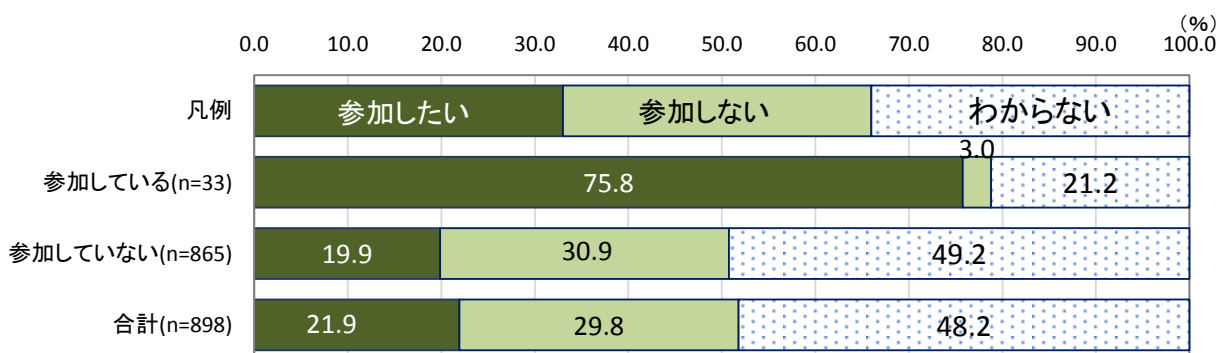
図表 137 地区での活動（消防団は除いた、お祭り、防災、防犯など）の参加状況別
今後の地区での活動への参加意向



図表 138 地区での支え合い活動（困りごとのサポートなど）の参加状況別
今後の地区での支え合い活動への参加意向



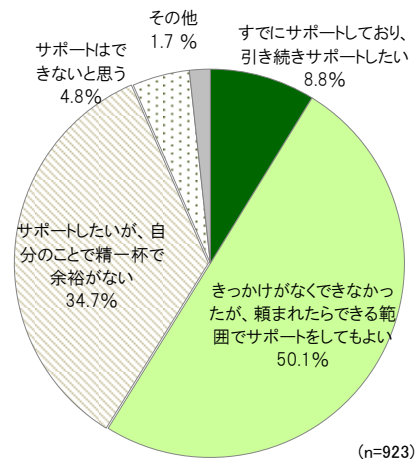
図表 139 ボランティア活動の参加状況別
今後のボランティア活動への参加意向



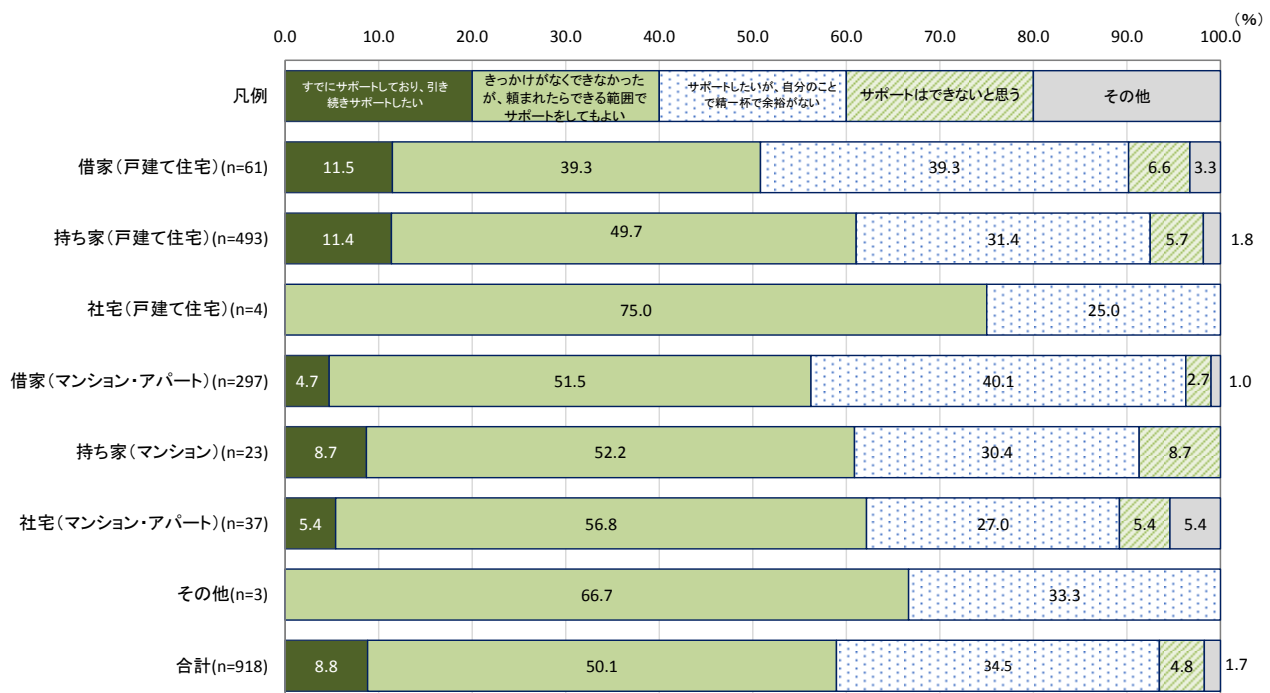
- 地域において、雪かきなど何らかの手助けを必要としている人へのサポートや地域活動を頼まれたときの考え方としては「すでにサポートしており、引き続きサポートしたい」という回答の割合は8.8%である。
- 最も多いのは「きっかけがなくできなかったが、頼まれたらできる範囲でサポートしてもよい」という回答で50.1%を占める。きっかけがあれば何らかのサポートをしたいと考える若者は半数程度いる状況である。

図表 140 地域において、雪かきなど何らかの手助けを必要としている人へのサポートや地域活動を頼まれたときの考え方

	度数 (人)	割合 (%)
すでにサポートしており、引き続きサポートしたい	81	8.8
きっかけがなくできなかったが、頼まれたらできる範囲でサポートしてもよい	462	50.1
サポートしたいが、自分のことで精一杯で余裕がない	320	34.7
サポートはできないと思う	44	4.8
その他	16	1.7
合計	923	100.0



図表 141 住まいのタイプ別 地域において、雪かきなど何らかの手助けを必要としている人へのサポートや地域活動を頼まれたときの考え方



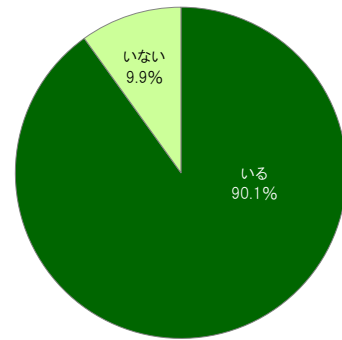
2. 若者の人とのつながり

(1) 頼れる人の有無や人とのつながりの意向

- 身近に頼れる人がいるという回答割合は90.1%である。
- 出身別に、身近に頼れる人の有無と定住意向をみると、頼れる人が「いる」人の方が「松本に住み続ける予定である」という回答割合が高い。一方、市外出身のうち「いない」人の方が、「松本に住み続けるつもりはない」という回答の割合が高くなる。

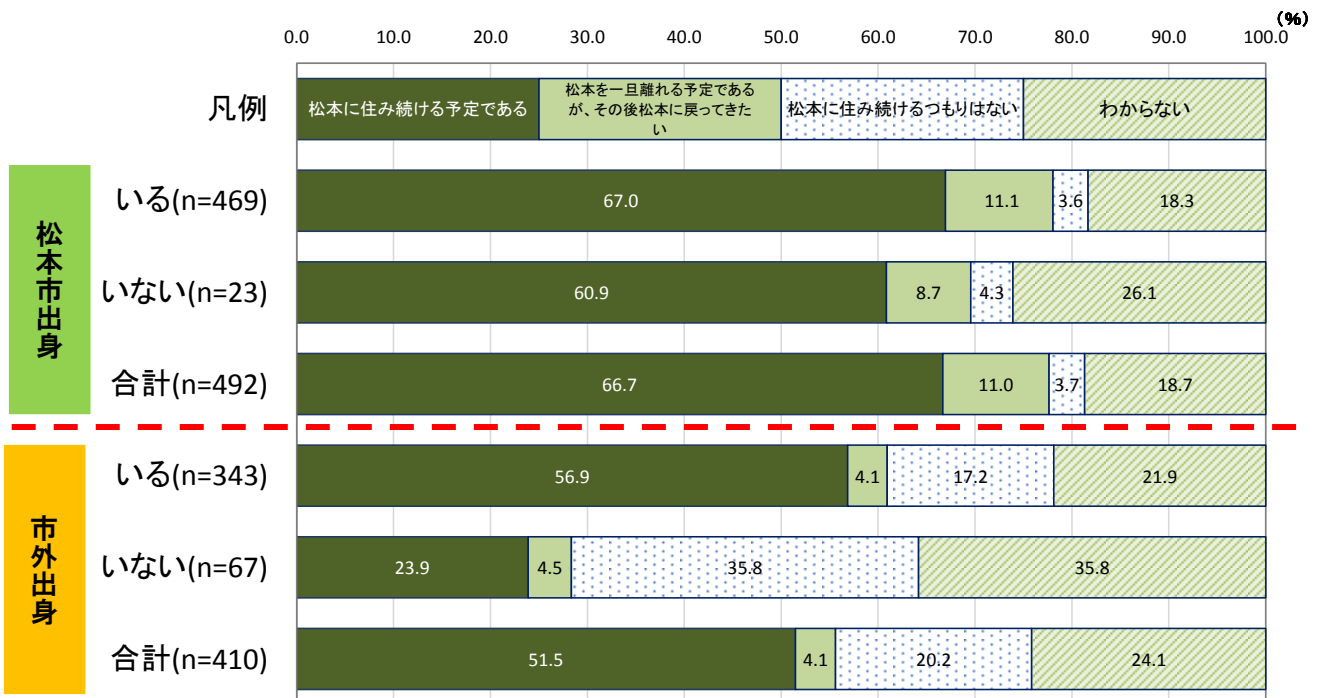
図表 142 身近に頼れる人（家族、友人、知人など）がいますか

	度数（人）	割合（%）
いる	835	90.1
いない	92	9.9
合計	927	100.0



(n=927)

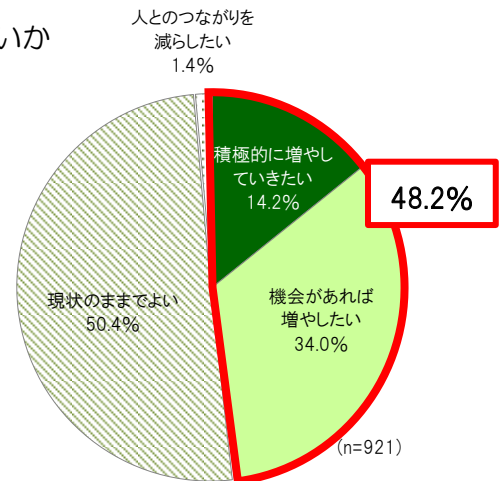
図表 143 出身別 身近に頼れる人の有無と定住意向



- 趣味や余暇を楽しめる人とのつながりを「積極的に増やしていきたい」「機会があれば増やしたい」と回答した人の割合をあわせると48.2%になる。近所付き合いは消極的であるが、趣味や余暇に関しては人とのつながりを増やしたい人が一定数いる状況である。
- 具体的に増やしたい、人とのつながりは「趣味」が最も多い。

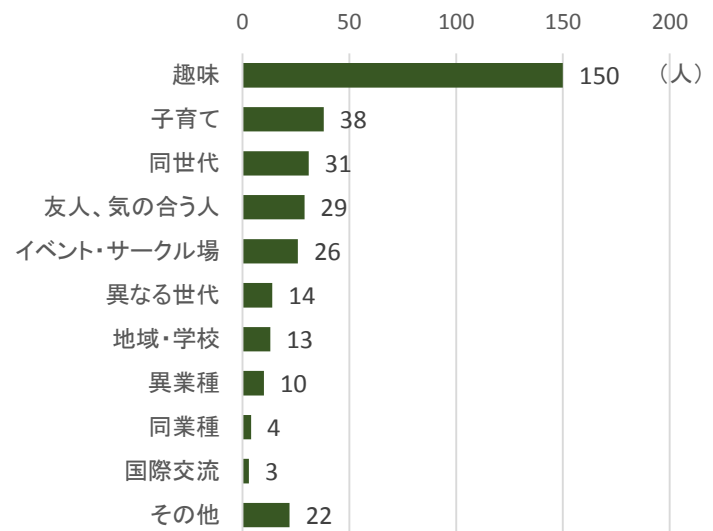
図表 144 趣味や余暇等を楽しめる人とのつながりを増やしたいか

	度数 (人)	割合 (%)
積極的に増やしていきたい	131	14.2
機会があれば増やしたい	313	34.0
現状のままでよい	464	50.4
人とのつながりを減らしたい	13	1.4
合計	921	100.0



図表 145 どのような「人とのつながり」を増やしたいですか（自由記述）

	人数	割合
趣味	150	49.8%
子育て	38	12.6%
同世代	31	10.3%
友人、気の合う人	29	9.6%
イベント・サークル場	26	8.6%
異なる世代	14	4.7%
地域・学校	13	4.3%
異業種	10	3.3%
同業種	4	1.3%
国際交流	3	1.0%
その他	22	7.3%



※301 人が回答した記述を分類したものである

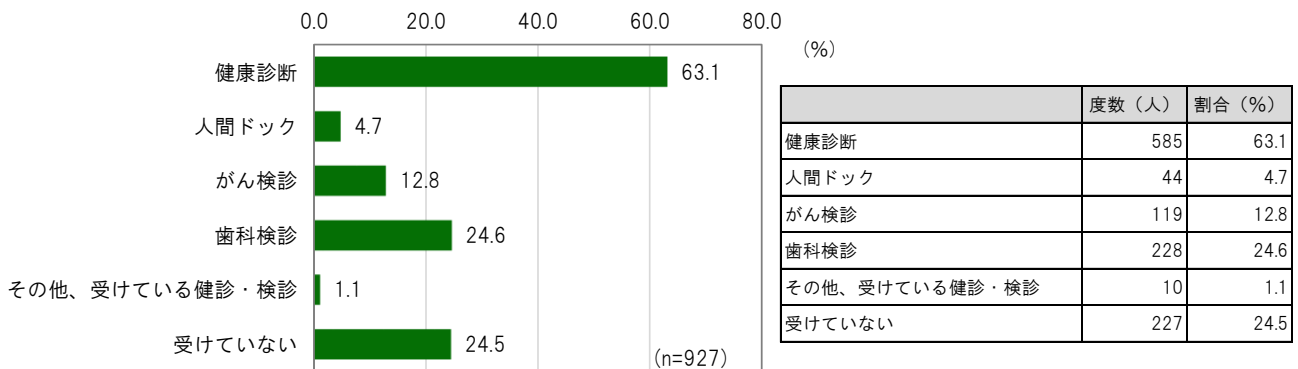
第6節 若者の各種取組状況と松本市の体制・環境の評価

1. 若者の健康づくりの取組状況

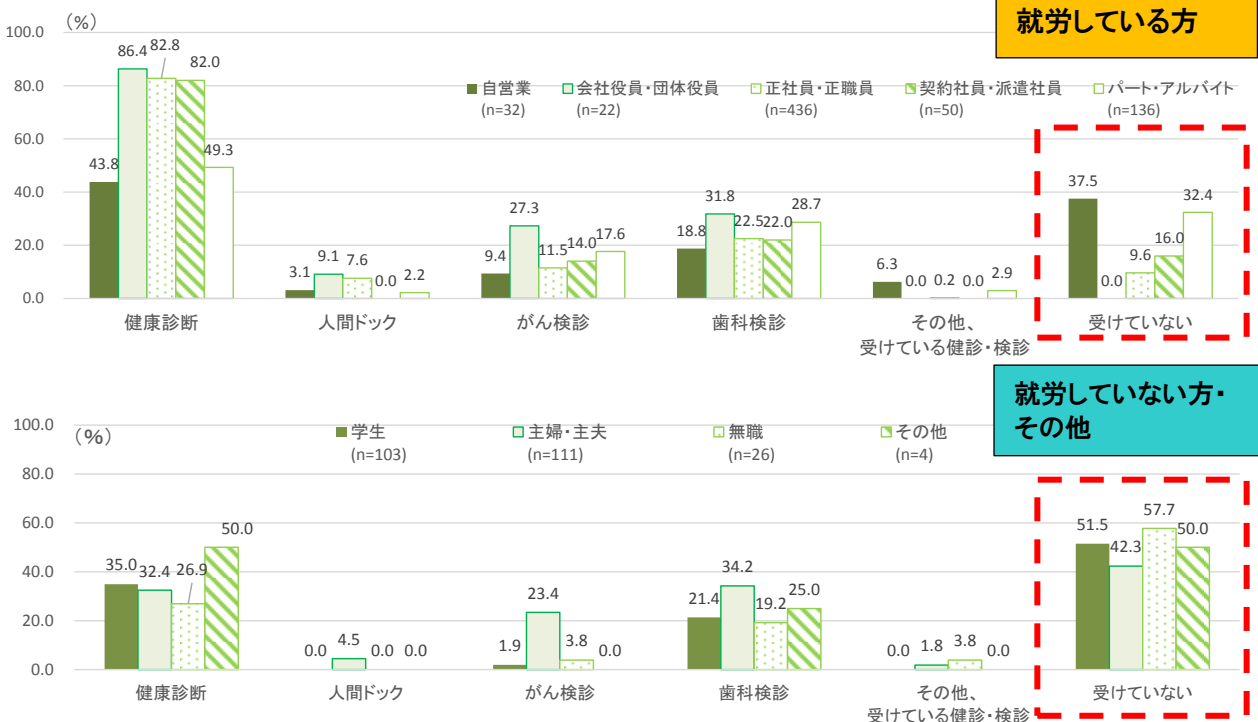
(1) 健康づくりに関する取組や状況

- 何らかの健診・検診を受けているのは75.5%、受けていない人は24.5%である。受けている内容は「健康診断」が最も多い。「人間ドック」はわずかである。
- 就業形態別にみると、「学生」「主婦・主夫」「無職」など就労していない人で、健診・検診を受けていない人の割合が4～5割と高い。就労している人でも、「自営業」「パート・アルバイト」で健診・検診を受けていない人の割合が高い。

図表 146 受けている健診・検診（複数回答）

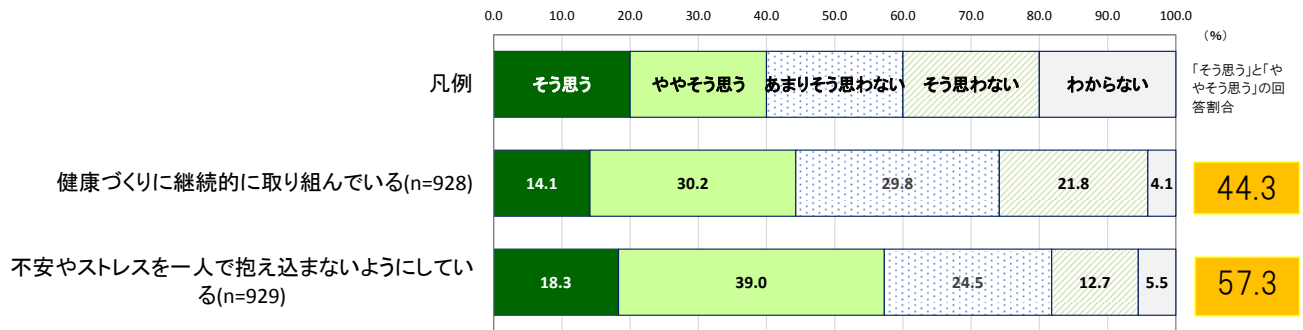


図表 147 就業形態別 受けている健診・検診（複数回答）

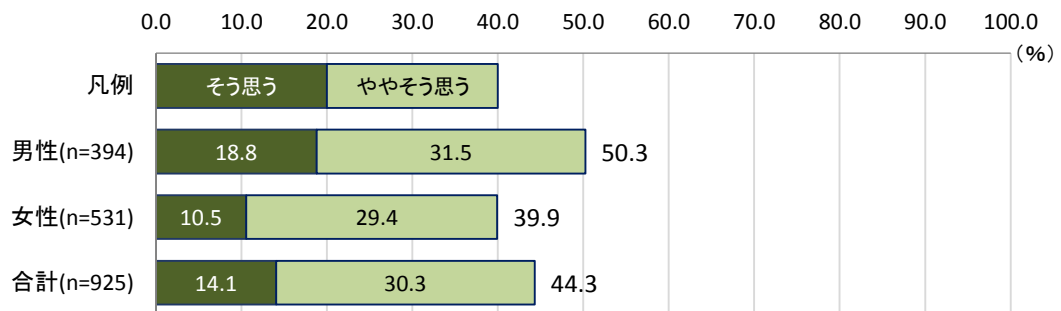


- 健康づくりに継続的に取り組んでいる（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答した人の割合は44.3%である。不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答した人の割合は57.3%である。
- 男女別に健康づくりに継続的に取り組んでいる割合をみると「女性」の方が低い。
- 就業形態別に健康づくりに継続的に取り組んでいる割合をみると、「主婦・主夫」「パート・アルバイト」で低くなっている。

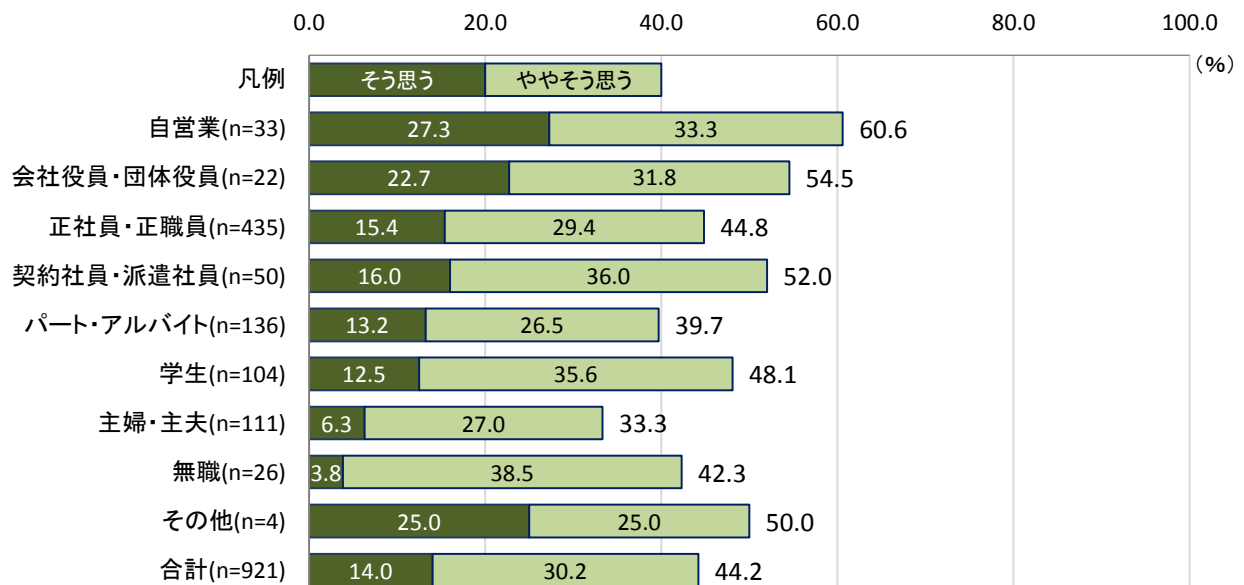
図表 148 健康づくりに関する自身の取組み状況



図表 149 男女別 健康づくりに継続的に取り組んでいる人の割合

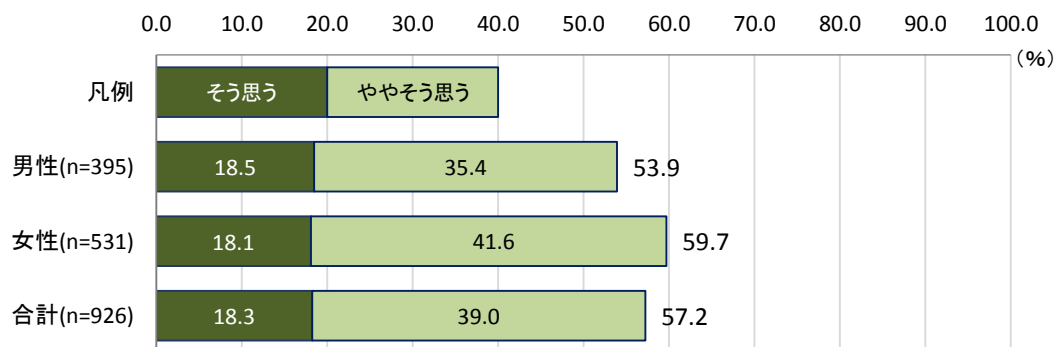


図表 150 就業形態別 健康づくりに継続的に取り組んでいる人の割合

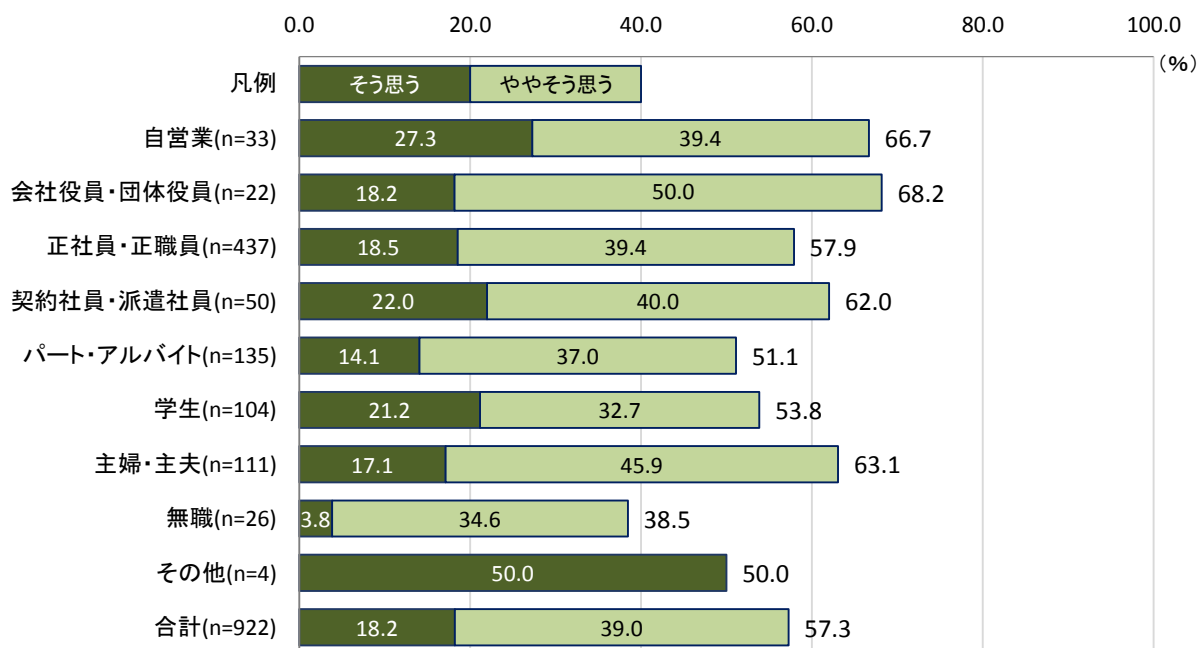


- 不安やストレスを一人で抱え込まないようにしているについて男女別にみると、「男性」の方が低い。
- 就業形態別にみると、「無職」「パート・アルバイト」「学生」「正社員・正職員」の順に低い。

図表 151 男女別 「不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている」人の割合



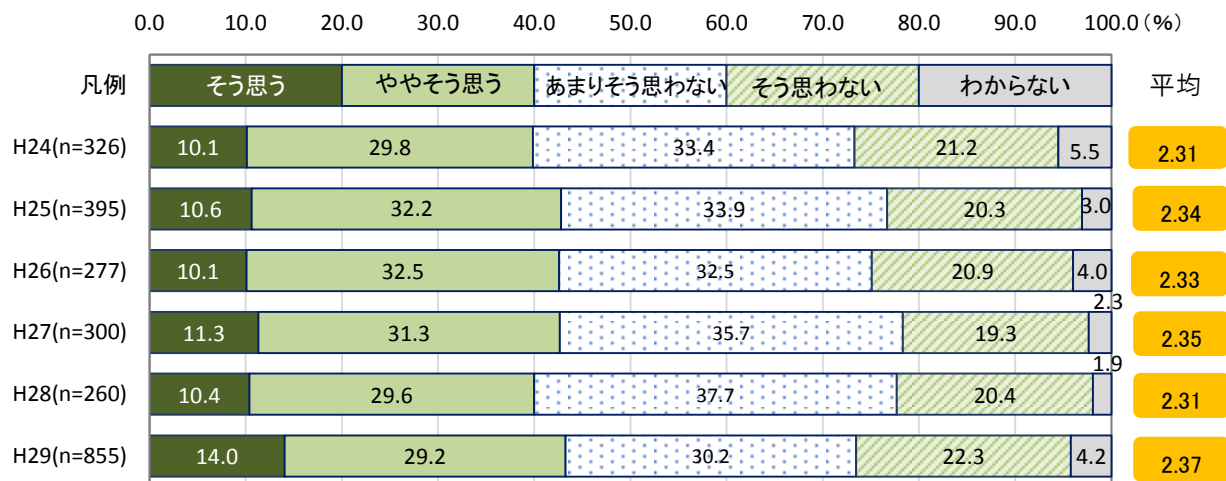
図表 152 就業形態別 「不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている」人の割合



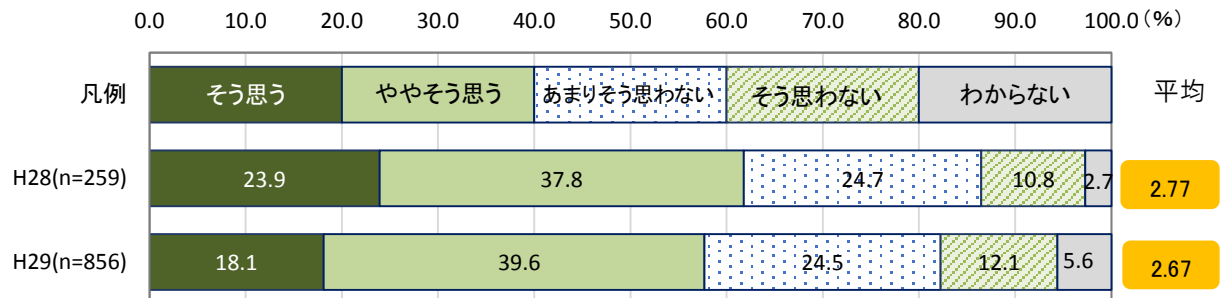
- 「健康づくりに継続的に取り組んでいる」「不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている」の回答の平均点を経年で比較すると、大きな変化はない。

※平成 24 年度から実施している市民満足度調査は 20 歳以上を対象としている。経年比較分析をするため、平成 29 年度の結果は 18、19 歳の回答は除いたものである

図表 153 【20 代・30 代】「健康づくりに継続的に取り組んでいる」人の経年比較分析



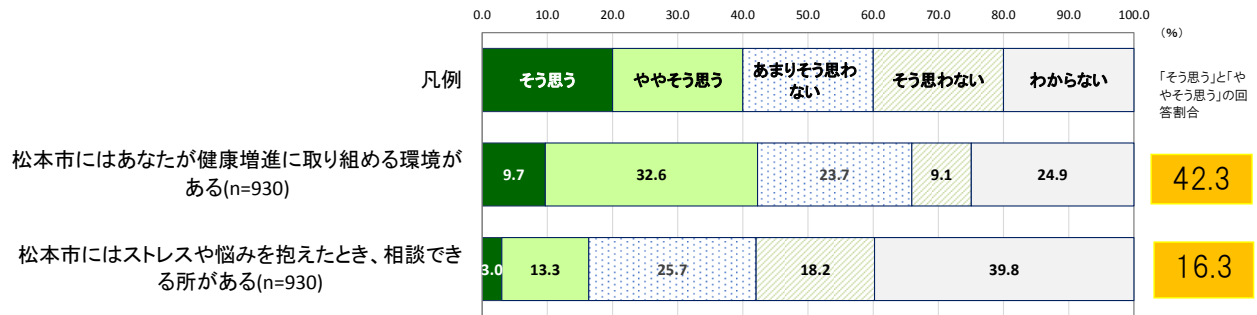
図表 154 【20 代・30 代】「不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている」人の経年比較分析



(2) 健康づくりに関する松本市の評価

- 松本市には健康増進に取り組める環境があるかという問に対しては、肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は42.3%、回答保留の割合は24.9%である。
- ストレスや悩みを抱えたとき相談できる所があるかという問に対しては、肯定的評価が16.3%、回答保留の割合が39.8%である。

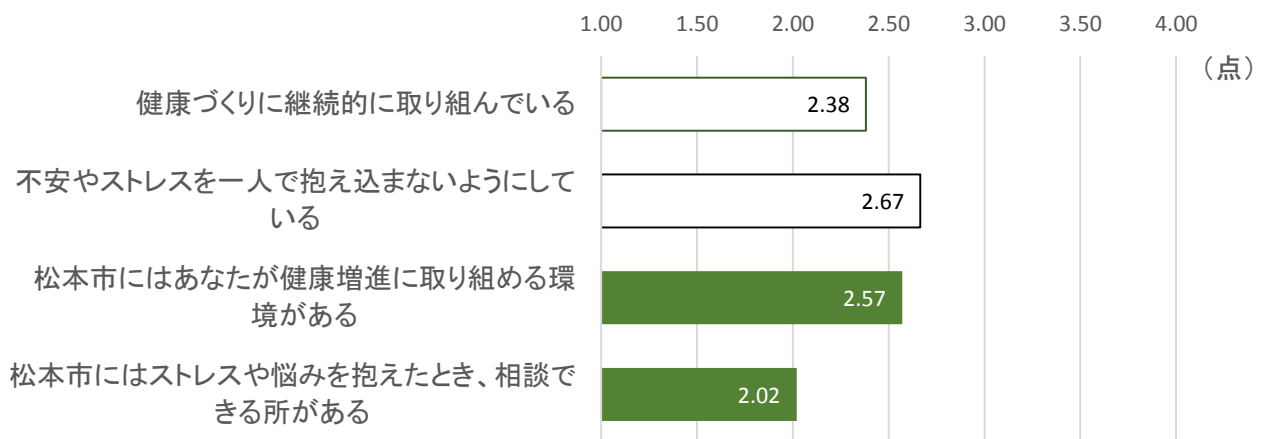
図表 155 健康づくりに関する松本市の評価



(3) 健康づくりに関する市民の取組と松本市の評価

- 平均点で比較すると、「松本市にはストレスや悩みを抱えたとき、相談できる所がある」は2.02点と他の項目よりも評価が低い。

図表 156 健康づくりに関する市民の取組と松本市の評価

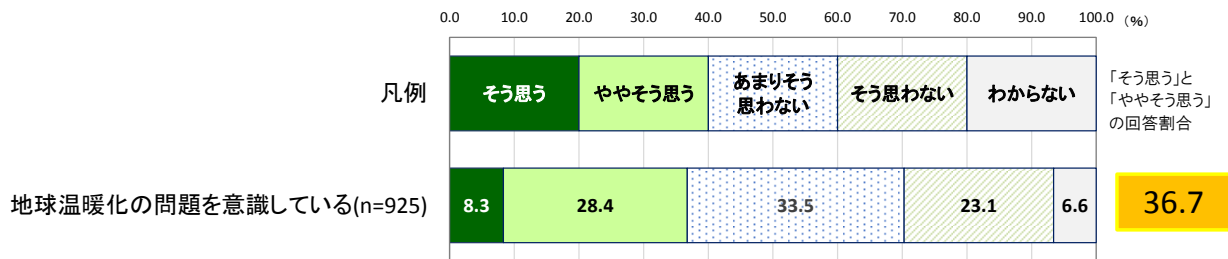


2. 若者の環境に関する取組状況

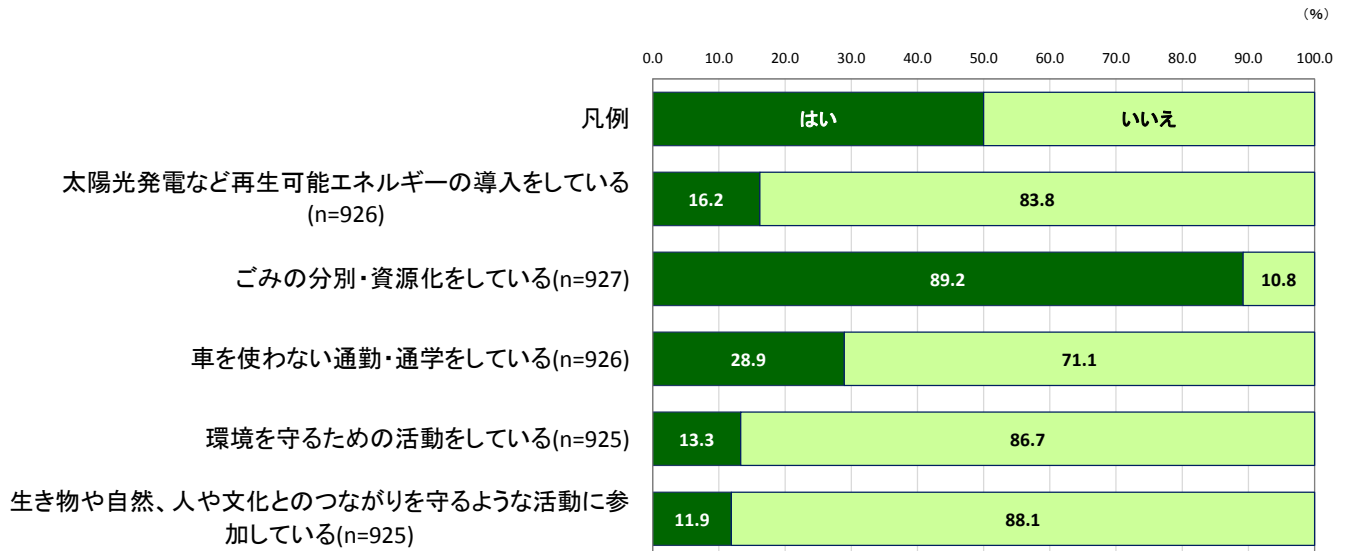
(1) 環境に関する若者の取組状況

- 地球温暖化の問題を意識している人（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は36.7%である。
- 環境負荷軽減に向けた取組としては「ごみの分別・資源化」をしている人は89.2%と非常に高く、市民生活に定着しているといえる。一方、「太陽光など再生可能エネルギーの導入」は16.2%、「環境を守るための活動」は13.3%、「生き物や自然、人や文化とのつながりを守るような活動」は11.9%と2割を下回る。

図表 157 地球温暖化の問題に対する意識

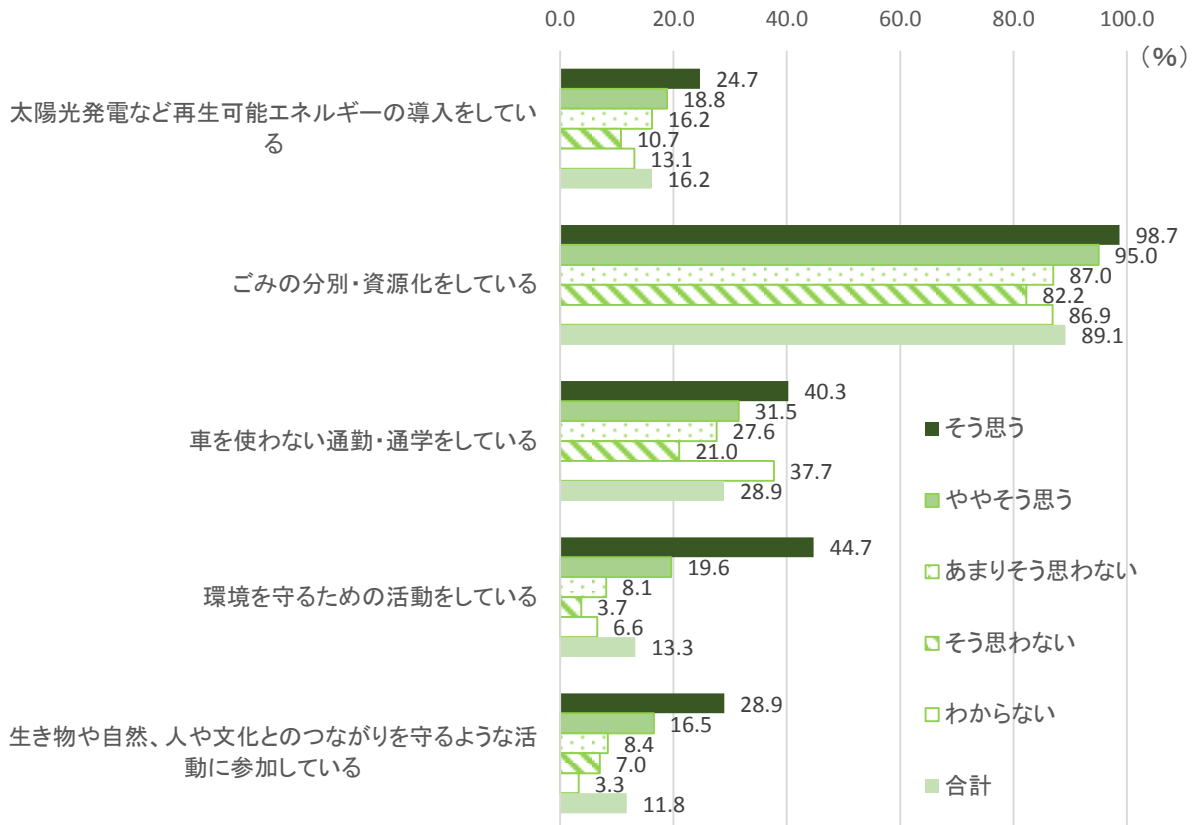


図表 158 環境負荷軽減に向けた市民の取組状況



- 地球温暖化の問題に対する意識別にみると、「ごみの分別・資源化」に関しては、意識が低い人でも8割以上の若者が取り組んでおり、生活に浸透している。
- 他の環境負荷軽減に向けた取組は、地球温暖化の問題に対する意識が高い人ほどより実施している傾向が顕著である。特に「環境を守るための活動」「生き物や自然、人や文化とのつながりを守るような活動」に参加している割合が高い。

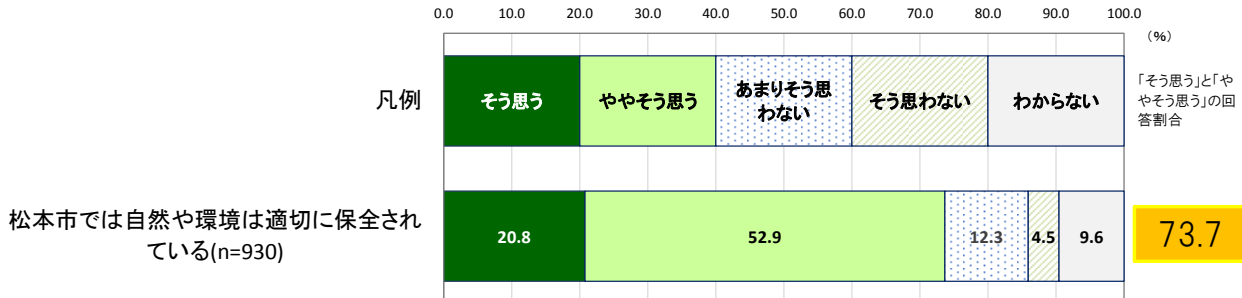
図表 159 地球温暖化の問題に対する意識別 環境負荷軽減に向けた市民の取組



(2) 松本市の環境保全に対する評価

- 松本市では自然や環境が適切に保全されている（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答している人は 73.7%である。

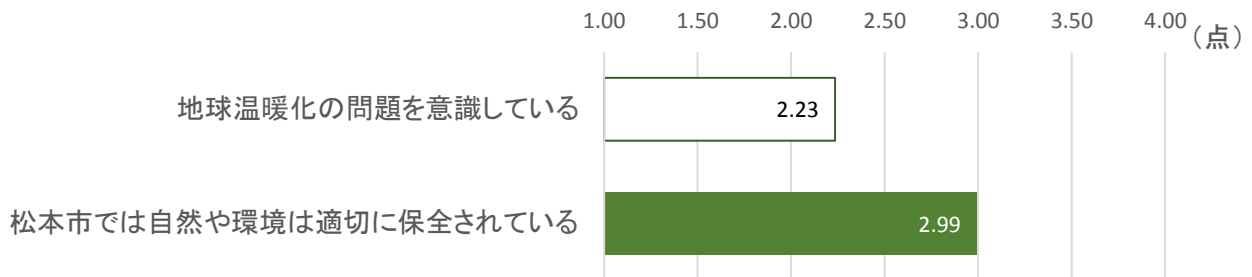
図表 160 松本市の環境保全に対する評価



(3) 環境に関する市民の取組と松本市の評価

- 地球温暖化の問題を意識しているという回答を平均点化すると 2.23 点であり、中央値 2.5 点を下回っている。「松本市では自然や環境は適切に保全されている」は 2.99 点である。

図表 161 環境に関する市民の取組と松本市の評価（平均点化）

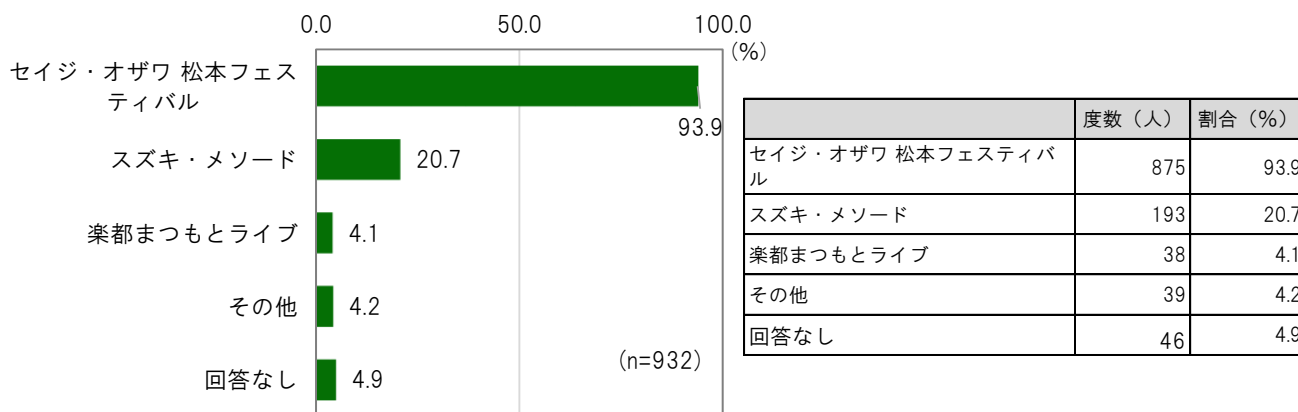


3. 若者のスポーツ・文化活動に関するイメージ・取組状況

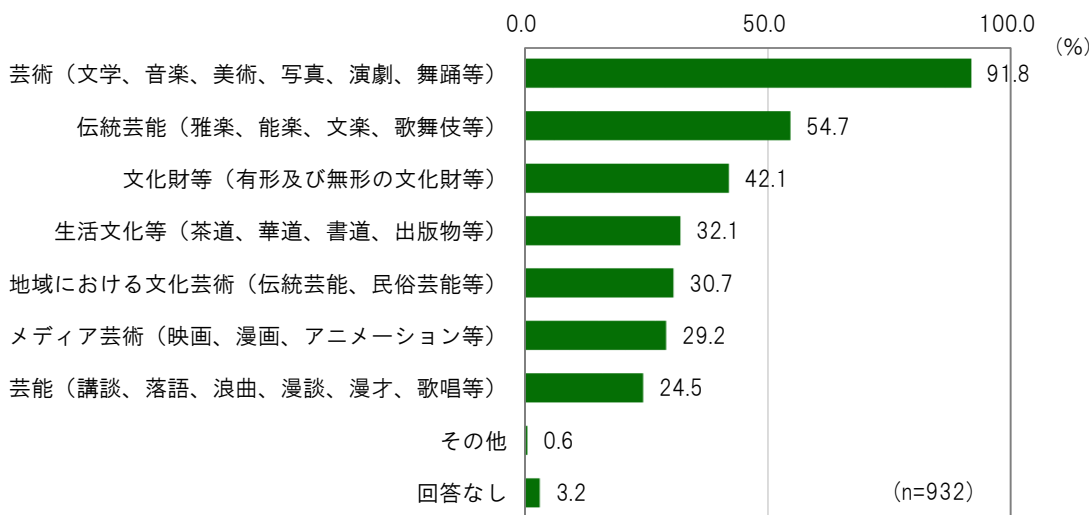
(1) 松本の音楽活動や文化芸術のイメージ

- 松本の音楽活動として思い浮かべるものとしては「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」が93.9%と非常に高い。
- 「文化芸術」のイメージに含まれる要素としては、芸術（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊等）が91.8%と最も高い。次いで、伝統芸能が54.7%、文化財等が42.1%である。生活文化等、地域における文化芸術、メディア芸術、芸能を想起する人は2～3割程度である。

図表 162 松本の音楽活動として思い浮かべるもの（複数回答）



図表 163 「文化芸術」のイメージに含まれる要素（複数回答）



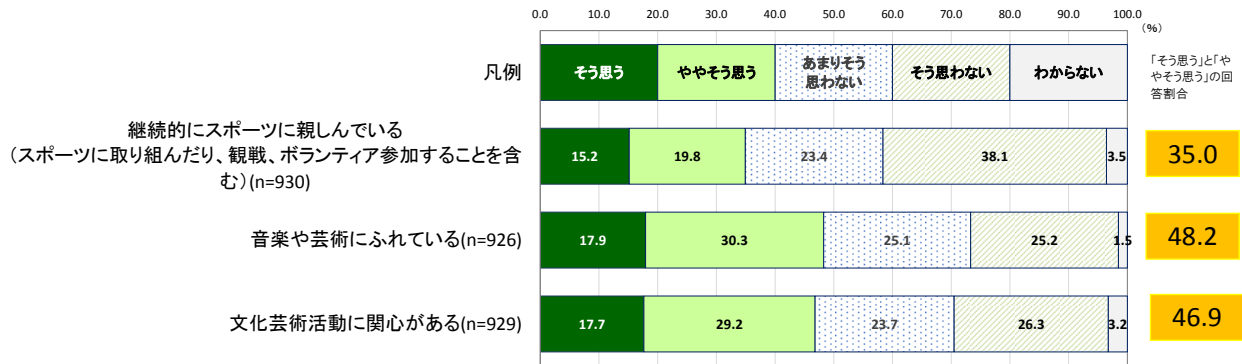
	度数 (人)	割合 (%)
芸術（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊等）	856	91.8
メディア芸術（映画、漫画、アニメーション等）	272	29.2
伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎等）	510	54.7
芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱等）	228	24.5
生活文化等（茶道、華道、書道、出版物等）	299	32.1
文化財等（有形及び無形の文化財等）	392	42.1
地域における文化芸術（伝統芸能、民俗芸能等）	286	30.7
その他	6	0.6
回答なし	30	3.2

(2) 若者のスポーツ・文化芸術活動の取組状況

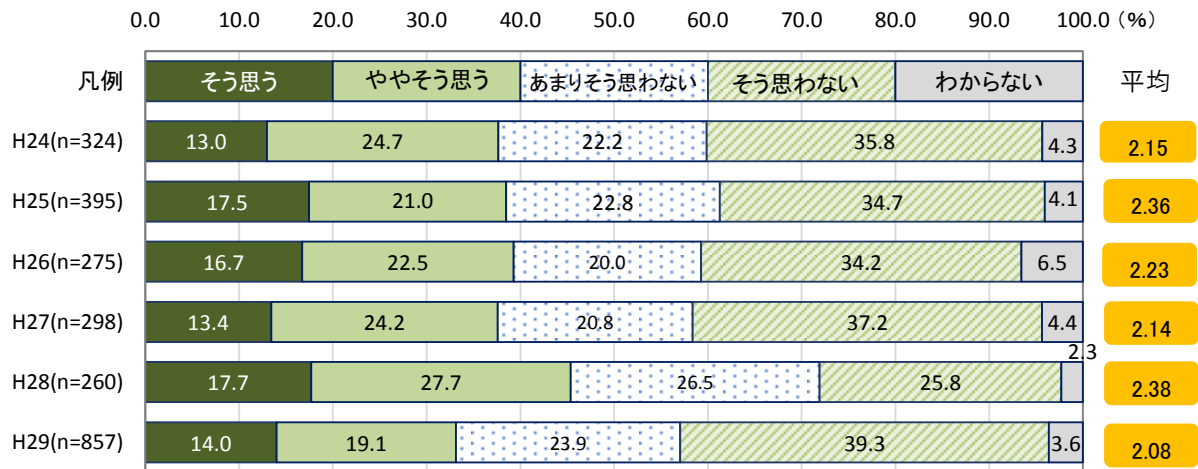
- スポーツ・文化活動に関する自身の取組状況をみると、継続的にスポーツに親しんでいる（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答した人は 33.1%である。音楽や芸術にふれている（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）と回答した人は 47.0%である。
- 経年比較すると、スポーツ・文化芸術活動の取組状況に大きな変動はない。

※平成 24 年度から実施している市民満足度調査は 20 歳以上を対象としている。経年比較分析をするため、平成 29 年度の結果は 18、19 歳の回答は除いたものである

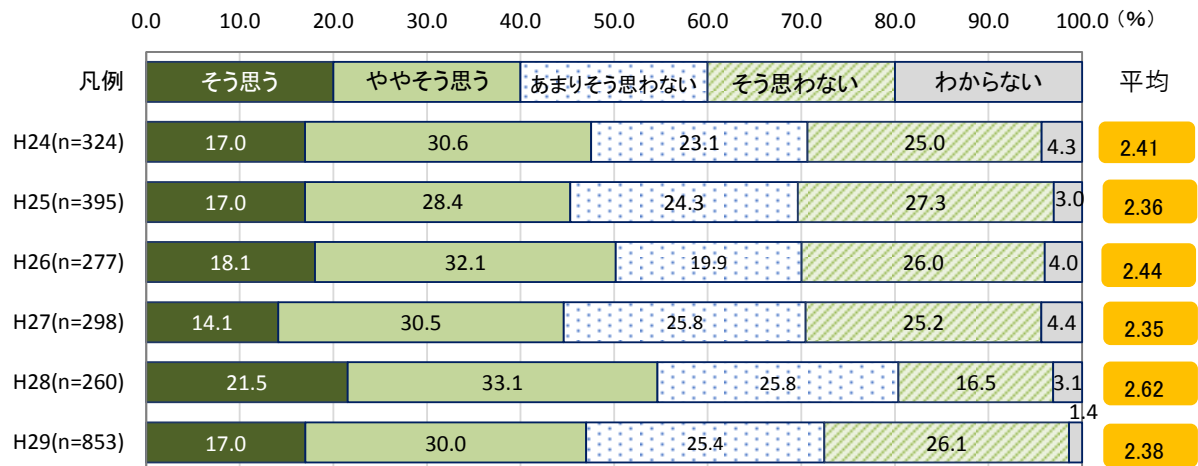
図表 164 スポーツ・文化芸術活動に関する自身の取組状況



図表 165 【20 代・30 代】「継続的にスポーツに親しんでいる（スポーツに取り組んだり、観戦、ボランティア参加することを含む）」の経年比較

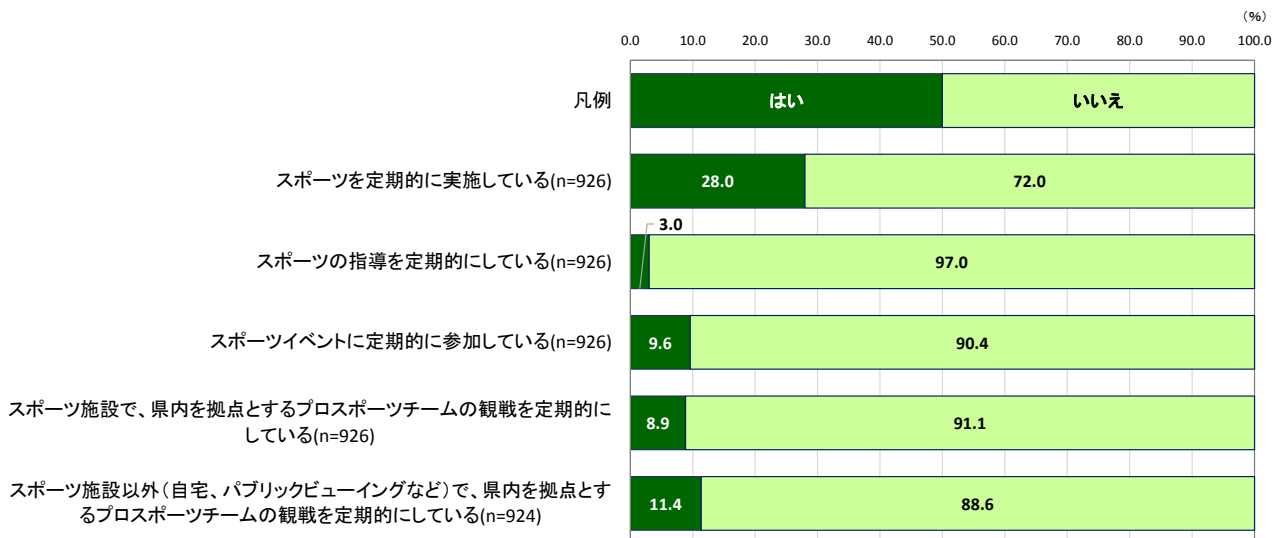


図表 166 【20 代・30 代】「音楽や芸術にふれている」の経年比較

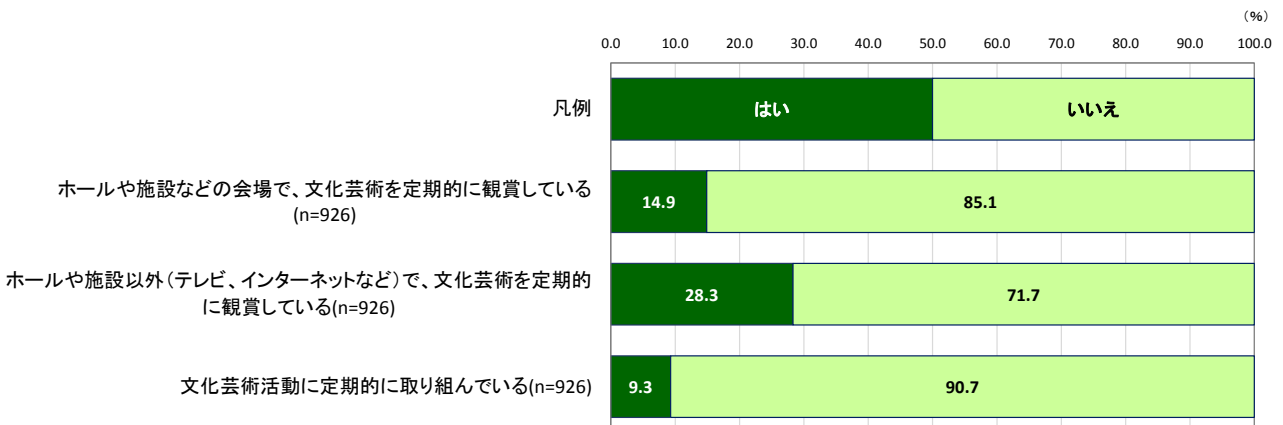


- 具体的なスポーツに関する行動・取組については、スポーツを定期的実施している人の割合は 28.0%、指導をしている人の割合は 3.0%、スポーツイベントへの定期的な参加、スポーツ観戦は 1 割程度である。
- 文化芸術に関する活動としては、定期的にホールや施設で観賞している人の割合は 14.9%、ホールや施設以外で観賞している人の割合は 28.3%である。文化芸術活動に取り組んでいる人の割合は 9.3%である。

図表 167 スポーツに関する定期的な行動・取組



図表 168 文化芸術に関する定期的な行動・取組

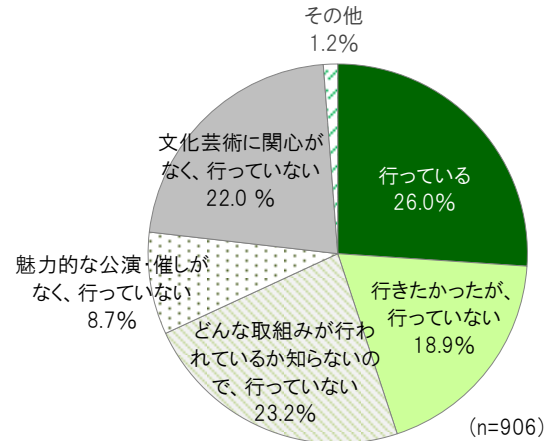


(3) 市内文化施設へ来訪状況

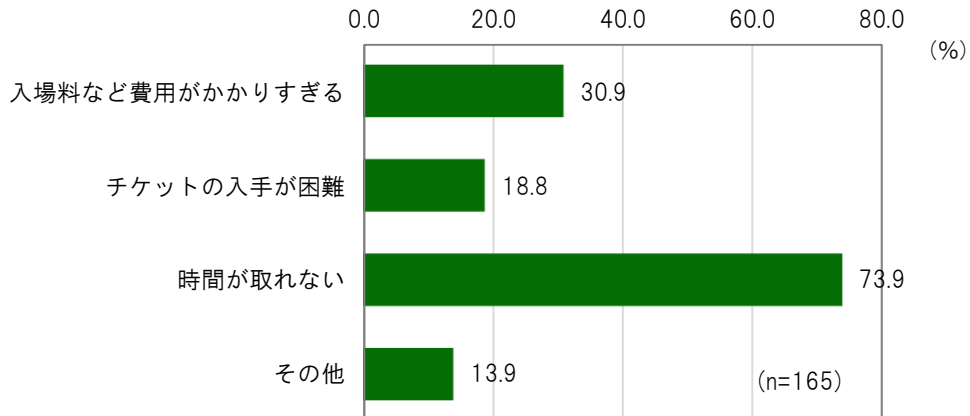
- 文化芸術活動や観賞を目的として市内の文化施設に「行っている」と回答した人の割合は26.0%、「行きたかったが、行っていない」人は18.9%、「どんな取組みが行われているか知らないので、行っていない」も一定数おり、23.2%である。
- 行きたかったが、行っていない理由としては「時間が取れない」という回答が最も多く、次いで「入場料など費用がかかりすぎる」である。

図表 169 文化芸術活動や観賞を目的として市内の文化施設に行っているか

	度数 (人)	割合 (%)
行っている	236	26.0
行きたかったが、行っていない	171	18.9
どんな取組みが行われているか知らない ので、行っていない	210	23.2
魅力的な公演・催しがなく、行っていない	79	8.7
文化芸術に関心がなく、行っていない	199	22.0
その他	11	1.2
合計	906	100.0



図表 170 【市内の文化施設に行きたかったが、行っていない方】その理由（複数回答）

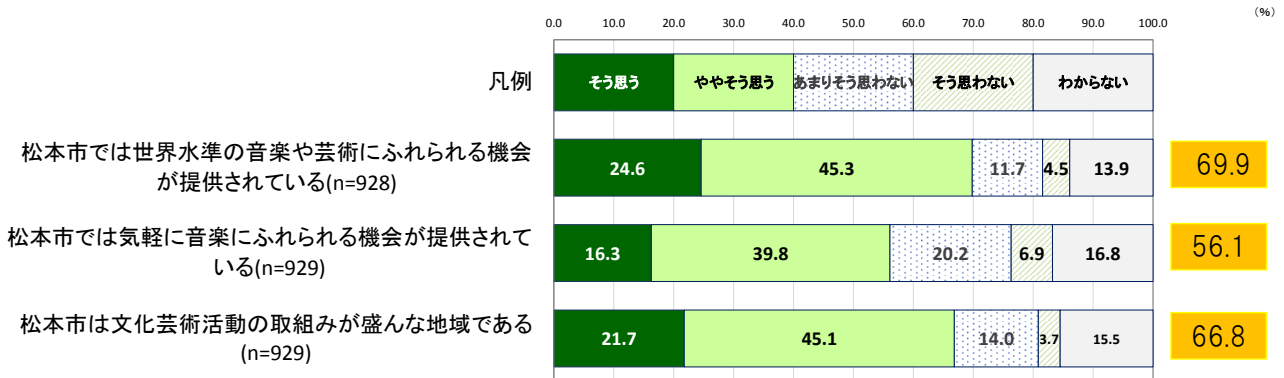


	度数 (人)	割合 (%)
入場料など費用がかかりすぎる	51	30.9
チケットの入手が困難	31	18.8
時間が取れない	122	73.9
その他	23	13.9

(4) 松本市の文化芸術に関する環境の評価

- 松本市の文化芸術活動の環境に対する評価としては「松本市では世界水準の音楽や芸術にふれられる機会が提供されている」は肯定的評価(「そう思う」「ややそう思う」の回答割合)が69.9%である。「松本市では気軽に音楽にふれられる機会が提供されている」は肯定的評価が56.1%であり、“気軽さ”の方が低い。「松本市は文化芸術活動の取組みが盛んな地域である」は66.8%が肯定的評価をしている。

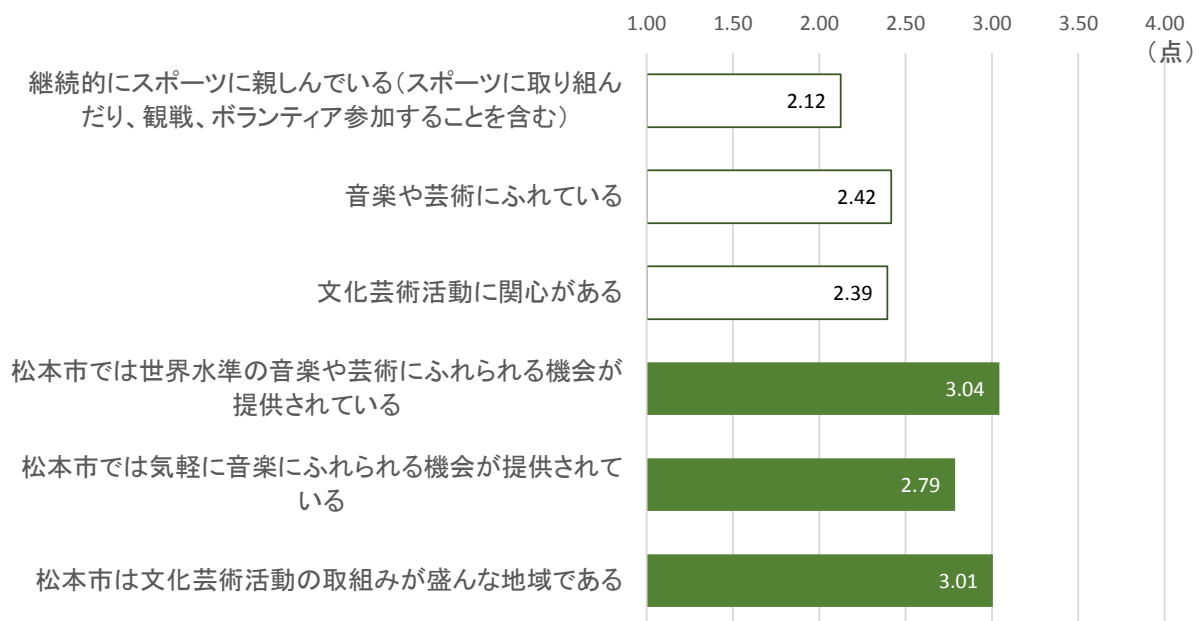
図表 171 松本市の文化芸術に関する環境の評価



(5) 文化芸術・スポーツに関する市民の取組と松本市の評価

- 市民の取組は中央値 2.5 点以下である。松本市の環境に対してはいずれも高い評価である。

図表 172 文化芸術・スポーツに関する市民の取組と松本市の評価



第7節 若者から見た市政と必要な取組・利用メディア

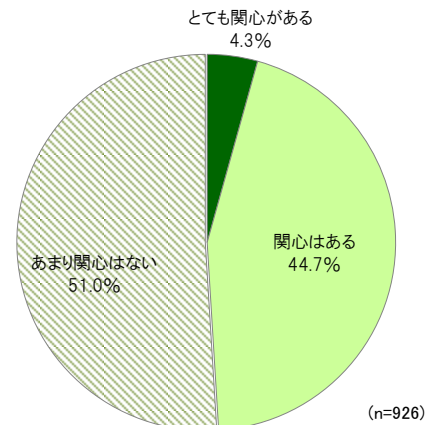
1. 若者の市政への関心や必要とする取組

(1) 市政への関心や反映されやすさ

- 市政や地区活動への関心は「とても関心がある」は4.3%、「関心はある」は44.7%である。
- 市民の考えが市政に反映されやすいかについては、肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」の回答割合）は10.8%である。

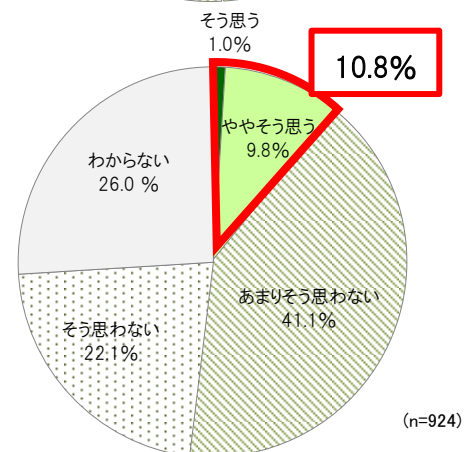
図表 173 市政や地区活動への関心

	度数（人）	割合（％）
とても関心がある	40	4.3
関心はある	414	44.7
あまり関心はない	472	51.0
合計	926	100.0



図表 174 市民の意見や考えが市政に反映されやすいか

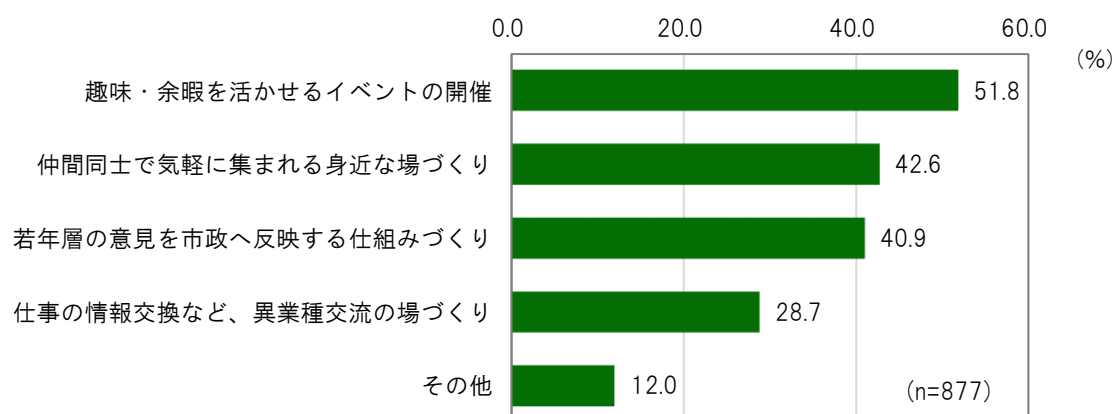
	度数（人）	割合（％）
そう思う	9	1.0
ややそう思う	91	9.8
あまりそう思わない	380	41.1
そう思わない	204	22.1
わからない	240	26.0
合計	924	100.0



(2) 魅力的なまちにするために、重要なこと

- 同世代にとって松本を魅力的なまちにするために重要なこととしては、「趣味・余暇を活かせるイベントの開催」が51.8%、「仲間同士で気軽に集まれる身近な場づくり」「若年層の意見を市政へ反映する仕組みづくり」が約4割である。

図表 175 同世代にとって松本を魅力的なまちにするために重要なこと（複数回答）



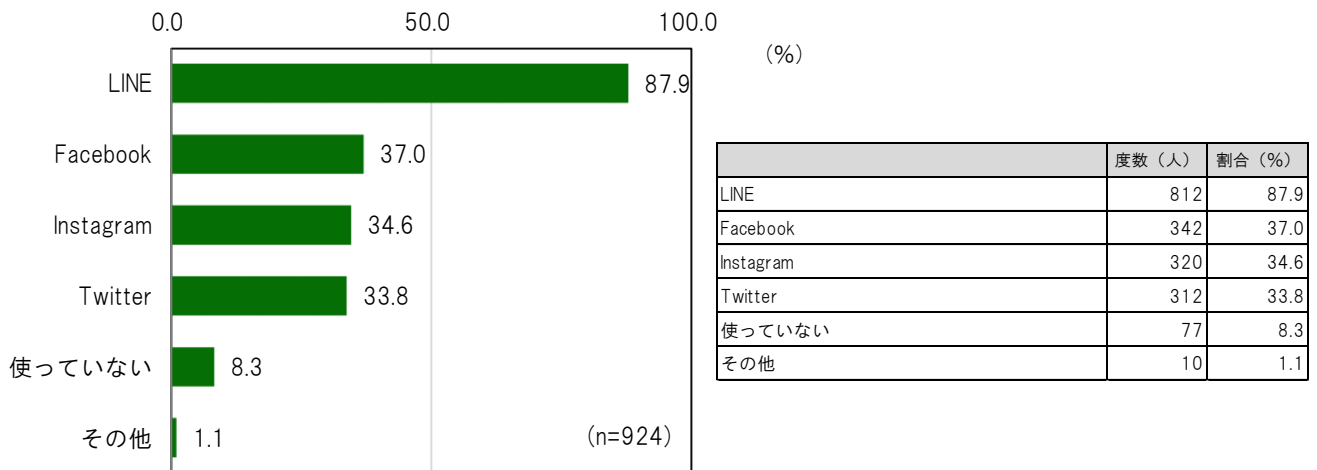
	度数 (人)	割合 (%)
趣味・余暇を活かせるイベントの開催	454	51.8
仲間同士で気軽に集まれる身近な場づくり	374	42.6
若年層の意見を市政へ反映する仕組みづくり	359	40.9
仕事の情報交換など、異業種交流の場づくり	252	28.7
その他	105	12.0

2. 若者が利用しているメディア

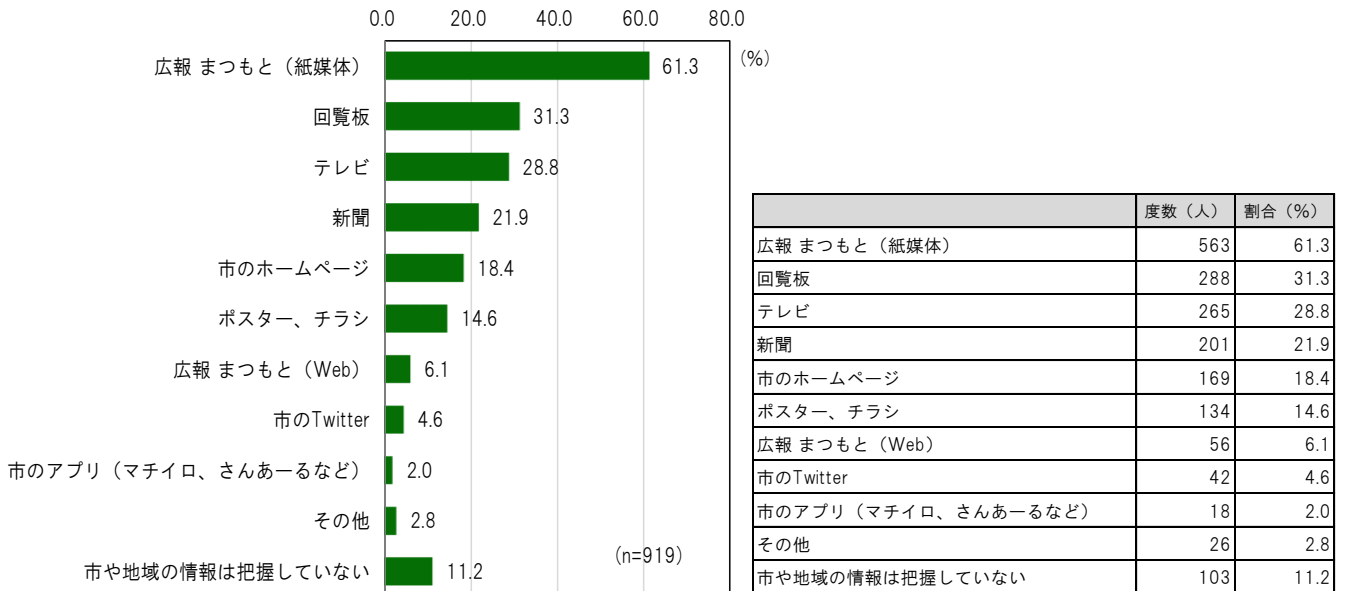
(1) 利用している SNS・メディア、市政や地域の情報収集方法

- 若者が利用している SNS・メディアは、「LINE」が 87.9%、「Facebook」が 37.0%、「Instagram」が 34.6%、「Twitter」が 33.8%である。
- 市政や地域の情報を把握するメディアとしては、「広報まつもと（紙媒体）」が 61.3%と最も高い。次いで「回覧板」であり 31.3%である。その後、「テレビ」「新聞」と続く。

図表 176 利用している SNS・メディア（複数回答）



図表 177 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）



- 年代別にみると、10代は「テレビ」、20代は「広報まつもと（紙媒体）」「テレビ」の割合が高く、30代は「広報まつもと（紙媒体）」「回覧板」の利用割合が高い。「新聞」はどの年代も2割程度である。
- 子どもの有無別にみると、子どもがいる人の方が「広報まつもと（紙媒体）」「回覧板」を利用している傾向にある。
- 住まいのタイプ別にみると、「広報まつもと（紙媒体）」は戸建て住宅、マンション・アパートに関わらず利用されている。「回覧板」は持ち家（戸建て住宅）で40.6%と高い。

図表 178 年代別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報まつもと (紙媒体)	広報まつもと(W eb)	市のホームペー ジ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラン	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
10代 (n=63)	28.6	1.6	11.1	0.0	0.0	27.0	19.0	42.9	20.6	3.2	19.0
20代 (n=293)	48.1	5.8	12.6	9.9	2.4	20.8	11.6	33.8	22.5	3.4	16.7
30代 (n=555)	71.9	6.5	22.3	2.2	2.0	37.7	15.7	24.9	21.4	2.3	7.4
合計 (n=911)	61.3	5.9	18.4	4.5	2.0	31.5	14.6	29.0	21.7	2.7	11.2

図表 179 子どもの有無別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報まつもと (紙媒体)	広報まつもと(W eb)	市のホームペー ジ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラン	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
子どもがいる(n=398)	75.6	5.5	22.4	2.0	3.0	41.7	14.3	20.6	18.1	3.8	8.5
子どもがいない(n=504)	50.2	6.5	15.3	6.5	1.2	23.4	14.9	34.7	24.4	2.0	13.7
合計(n=902)	61.4	6.1	18.4	4.5	2.0	31.5	14.6	28.5	21.6	2.8	11.4

図表 180 住まいのタイプ別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報まつもと (紙媒体)	広報まつもと(W eb)	市のホームペー ジ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラン	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
借家(戸建て住宅) (n=59)	61.0	5.1	23.7	6.8	3.4	25.4	13.6	25.4	15.3	0.0	6.8
持ち家(戸建て住宅) (n=493)	61.5	5.1	16.8	4.7	1.8	40.6	15.0	28.0	28.0	2.8	9.1
社宅(戸建て住宅) (n=4)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	75.0	0.0	0.0
借家(マンション・アパート) (n=295)	62.0	7.8	20.7	4.4	2.0	19.3	14.6	29.5	12.2	3.4	15.9
持ち家(マンション) (n=23)	73.9	4.3	13.0	4.3	0.0	26.1	13.0	26.1	13.0	0.0	4.3
社宅(マンション・アパート) (n=37)	54.1	8.1	18.9	2.7	2.7	21.6	16.2	37.8	24.3	5.4	10.8
その他 (n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
合計 (n=914)	61.4	6.0	18.5	4.6	2.0	31.5	14.7	28.8	21.7	2.8	11.2

- 就業形態別にみると、学生で「市や地域の情報は把握していない」という回答の割合が高い。
- 松本での暮らしの満足度別にみると、満足度が低い人の方が「市や地域の情報は把握していない」という回答の割合が高い。
- 定住意向別にみると、「松本に住み続ける予定がない」と回答した人は「市や地域の情報は把握していない」という回答の割合が高い。

図表 181 就業形態別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報 まつもと (紙媒体)	広報 まつもと(W eb)	市のホームペ ージ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラシ	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
自営業(n=33)	66.7	12.1	24.2	6.1	3.0	30.3	27.3	27.3	27.3	9.1	6.1
正社員・正職員(n=432)	60.4	6.3	18.5	4.2	1.4	26.6	12.5	26.9	22.2	1.9	10.4
パート・アルバイト(n=135)	69.6	5.2	11.1	3.7	1.5	40.7	15.6	32.6	17.8	1.5	14.1
会社役員・団体役員(n=21)	61.9	14.3	33.3	9.5	0.0	42.9	23.8	19.0	14.3	4.8	9.5
契約社員・派遣社員(n=49)	63.3	10.2	20.4	6.1	0.0	36.7	8.2	30.6	20.4	2.0	6.1
学生(n=102)	35.3	2.9	15.7	8.8	3.9	22.5	16.7	33.3	27.5	3.9	17.6
主婦・主夫(n=111)	75.7	4.5	25.2	1.8	4.5	41.4	14.4	26.1	17.1	5.4	8.1
無職(n=25)	68.0	0.0	16.0	4.0	0.0	40.0	20.0	36.0	36.0	4.0	12.0
その他(n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
合計(n=912)	61.3	5.9	18.4	4.6	2.0	31.5	14.4	28.7	21.7	2.9	11.2

図表 182 満足度別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報 まつもと (紙媒体)	広報 まつもと(W eb)	市のホームペ ージ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラシ	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
満足 (n=748)	61.8	6.4	18.0	4.7	2.1	31.6	15.1	28.1	22.9	2.8	10.3
不満 (n=160)	58.8	5.0	20.0	4.4	0.6	30.0	11.9	31.3	16.9	3.1	15.0
合計 (n=908)	61.2	6.2	18.4	4.6	1.9	31.3	14.5	28.6	21.8	2.9	11.1

※満足は「満足」「どちらかといえば満足」、不満は「どちらかといえば不満」「不満」と回答した層

図表 183 定住意向別 市政や地域の情報を把握するメディア（複数回答）

	広報 まつもと (紙媒体)	広報 まつもと(W eb)	市のホームペ ージ	市のTwitter	市のアプリ	回覧板	ポスター、チラシ	テレビ	新聞	その他	市や地域の情報は把握していない
松本に住み続ける予定である (n=546)	67.6	5.9	19.2	4.0	2.4	36.1	16.3	27.8	23.3	3.3	8.2
松本を一旦離れる予定である が、その後松本に戻ってきた い (n=73)	50.7	5.5	12.3	8.2	1.4	34.2	17.8	32.9	32.9	1.4	8.2
松本に住み続けるつもりはない (n=100)	52.0	7.0	20.0	4.0	1.0	20.0	10.0	24.0	15.0	3.0	22.0
わからない (n=194)	53.6	6.7	18.0	5.2	1.0	23.2	11.3	32.0	17.5	2.1	13.9
合計 (n=913)	61.6	6.1	18.5	4.6	1.9	31.4	14.7	28.7	21.9	2.8	11.0